

帝國史略

上

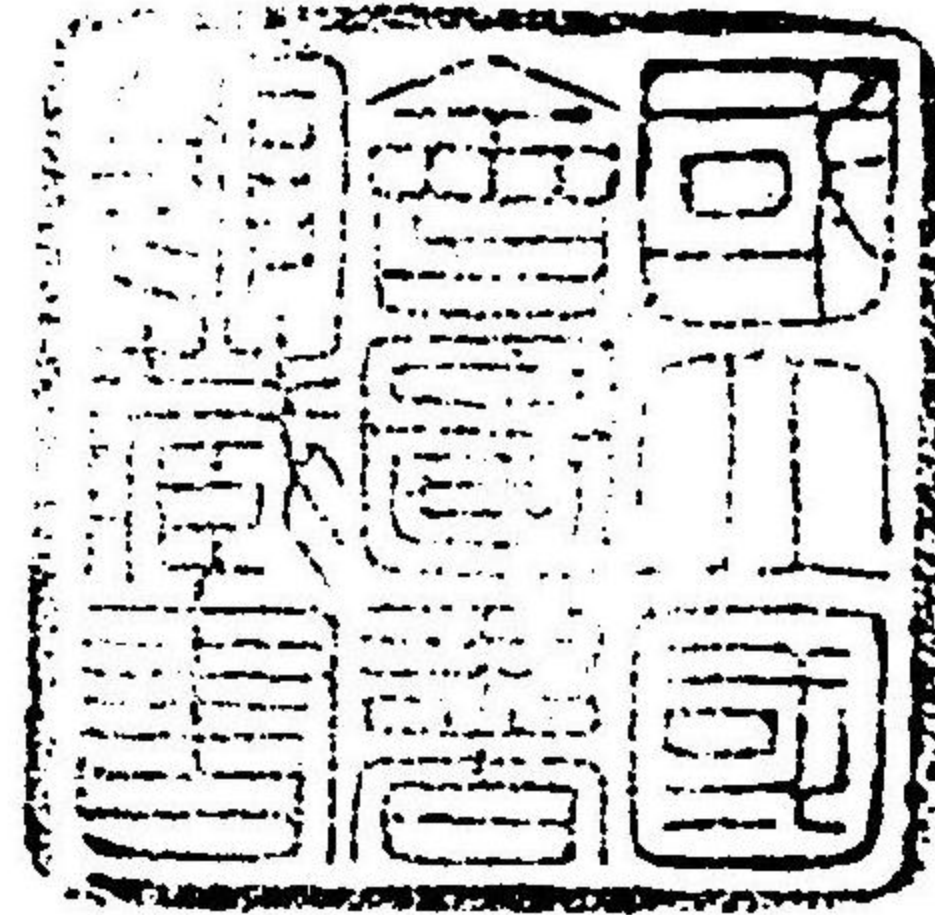
皇典講究所校閱  
從六位有賀長雄編輯

# 帝國史略

牧野書房發行



210.1A748t



210.1  
A748t

明治三十二年五月  
 長崎の  
 長崎新聞  
 長崎新聞  
 長崎新聞



337547

異國の事

— 著

之

周

之末

皇典講究所講師従六位文學士有賀長雄君帝國史略ヲ著シ本所ノ校閲ヲ需メラル由テ本所ハ之ヲ委員ニ付托セリ講師久米幹文同井上頼園二君專事實檢定ノ任ニ當リ三橋要也氏字句修正ノ勞ヲ取レリ今ヤ此ノ書成ル乃チ其ノ顛末ヲ記シテ之ヲ證明ス

皇典講究所幹事

明治廿五年五月

松野勇雄

## 自序

予帝國ノ歴史ニ於テ大ニ志ス所アリ明治十五年帝國  
大學編輯掛ノ職ヲ奉シテ日本社會史ノ編纂ニ從事シ  
轉職ノ後皇典講究所及明治法律學校ニ於テ史學ヲ講  
授スル茲ニ數年稍々得ル所アルヲ以テ自ラ信ス然レ  
トモ乏テ現職ニ承テ以來專意ヲ公法ノ學ニ致シ殆ト  
餘力ナシ而シテ帝國歴史ニ於ケル予ノ所見ヲ以テ大  
方ニ質スルコト能ハサルハ常ニ遺憾ト爲ス所ナリ即  
間ヲ忙裏ニ貪テ其ノ要領ヲ記シ皇典講究所ノ校閲ヲ  
經テ梓刻ニ付ス予ノカムル所ハ唯々變遷ニ於ケル原

因結果ノ次第ヲ明ニスルニ在ルノミ顧フニ史家優劣ノ由テ分ル、所一ニ此ニ在ルカ其ノ大成ニ至リテハ固ヨリ他日ヲ期スルノ外アラサルナリ

明治廿五年五月晦日於樞密院官舎 長 雄 識

凡 例

凡

例

(一)

- 一本書ハ主トシテ國民變遷ニ於ケル原因結果ノ次第ヲ明ニセシト
- ヲ務メ事實ハ成ル可ク正史ニ據リカテ新奇ノ臆説ヲ加ヘテ舊傳ヲ紛更セントスルコトヲ避ケタリ、
- 一字句ニ至リテモ緊要ノ段ハ大抵正史ノ文章ヲ抄撮シ唯タ漢文ニ代フルニ假名雜交ノ時文體ヲ以テシタルモノ多シ
- 一始メ本書ヲ起草スルニ當リテハ太實律令以下重要ナル古代法律ノ史傳ニ關係アルモノヲ編入セントシタリ然レトモ爲ニ紙數ヲ増加スルノ不便アリ且古代法律ハ特別ノ一科トシテ講究スルノ價值アルカ故ニ中途ニシテ計畫ヲ改メ別ニ一冊トシテ不日發行スルニ決セリ因テ本書ノ律令ニ關スル部分ハ唯タ大綱ヲ擧ケタルニ止マレリ。
- 一全編ヲ分ケテ七期トス左ノ如シ

(二)

帝

國

史

略

- 第一期 神武建國ヨリ起リ三韓征服ニ至ル
- 第二期 三韓征服ヨリ起リ佛法傳來ニ至ル
- 第三期 佛法傳來ヨリ起リ大化改新ニ至ル
- 第四期 大化改新ヨリ起リ藤氏攝政ニ至ル
- 第五期 藤氏攝政ヨリ起リ保平戰亂ニ至ル
- 第六期 保平戰亂ヨリ起リ德川幕府ニ至ル
- 第七期 德川幕府ヨリ起リ王政維新ニ至ル

一第一期第二期第三期ハ未タ年號ヲ立テサルニ因リ紀記ニ倣ヒ某ノ天皇ノ某ノ年ヲ以テ年期ヲ錄シタリ其ノ神武天皇紀元何年ニ該當スルヤヲ見ルニ便ニセシカ爲ニ左ニ歷代登位ノ紀元ヲ列記ス

- 神武天皇元年 紀元一年
- 綏靖天皇元年 紀元八十年
- 安寧天皇元年 紀元百三十年
- 懿德天皇元年 紀元百五十一年

凡

例

(三)

- 孝昭天皇元年 紀元百八十六年
- 孝安天皇元年 紀元二百六十九年
- 孝靈天皇元年 紀元三百七十一年
- 孝元天皇元年 紀元四百四十七年
- 開化天皇元年 紀元五百〇〇四年
- 崇神天皇元年 紀元五百六十四年
- 垂仁天皇元年 紀元六百三十二年
- 景行天皇元年 紀元七百三十一年
- 成務天皇元年 紀元七百九十一年
- 仲哀天皇元年 紀元八百五十二年
- 應神天皇元年 紀元九百三十年
- 仁德天皇元年 紀元九百七十三年
- 履中天皇元年 紀元千〇六十年
- 反正天皇元年 紀元千〇六十六年
- 允恭天皇元年 紀元千〇七十二年
- 安康天皇元年 紀元千百十四年
- 雄略天皇元年 紀元千百十七年

清寧天皇元年	紀元千百四十年
顯宗天皇元年	紀元千百四十五年
仁賢天皇元年	紀元千百四十八年
武烈天皇元年	紀元千百五十九年
繼體天皇元年	紀元千百六十七年
安閑天皇元年	紀元千百九十四年
宣化天皇元年	紀元千百九十六年
欽明天皇元年	紀元千二百百年
敏達天皇元年	紀元千二百三十二年
用明天皇元年	紀元千二百四十六年
崇峻天皇元年	紀元千二百四十八年
推古天皇元年	紀元千二百五十二年
舒明天皇元年	紀元千二百八十九年
皇極天皇元年	紀元千三百〇〇二年
孝德天皇元年	紀元千三百〇〇五年即千大化元年ナリ

帝國史略目次

第一期 國民興起ノ代

第一章 神代

一節 建國神話	二節 三神分治
三節 天照太神ノ岩戸隱	四節 素盞鳴尊出雲ニ到ル
五節 大國主命ノ治	六節 天神瓊々杵尊ヲ大日本ノ主トス
七節 出雲讓國	八節 天孫降臨
九節 日向帝居	

第二章 神武天皇建國

一節 皇軍東征	二節 倭國及長髓彦
三節 頭八咫鳥及兄猾弟猾	四節 吉野ノ土蕃ヲ服ス
五節 天神ヲ禱リ八十梟帥ヲ伐ツ	六節 饒速日命歸順
七節 處々土蜘蛛ヲ誅ス	八節 帝宅經營
九節 納妃	十節 登位
十一節 賞功	十二節 祭祖
十三節 巡國	



(二)

次 目 略 史 國 帝

第三章 日本國民成立

- 一節 民衆ノ成分
- 二節 天孫及天神地祇
- 三節 泉師民種
- 四節 穴居民種
- 五節 國家團結
- 六節 特殊ノ國林

三二

第四章 國民當初形勢

- 一節 宮殿ノ構造
- 二節 朝廷ノ行事
- 三節 祭闕ノ兵衛
- 四節 祭政ノ供給
- 五節 臣民ノ住居
- 六節 太古ノ衣服
- 七節 太古ノ食物
- 八節 太古ノ器具

四四

第五章 綏靖天皇ヨリ崇神天皇ニ至ル

- 一節 綏靖以後八帝
- 二節 崇神天皇
- 三節 神人別處
- 四節 四道將軍
- 五節 武埴安彥背叛
- 六節 弭調手末調
- 七節 造船及埴地
- 八節 海外交通
- 九節 三韓トノ關係

五六

第六章 垂仁天皇及外患

- 一節 狹穗彥反ス
- 二節 倭奴國王後漢ニ通ス

七〇

(三)

次 目 略 史 國 帝

第七章 景行天皇

- 一節 帝權擴張ノ原因
- 二節 天皇熊襲ヲ征ス
- 三節 伊勢神宮ヲ起ス
- 四節 兵器ヲ神社ニ藏ス
- 五節 任那ニ日本府ヲ置ク
- 六節 勸農
- 七節 野見宿禰及角力
- 八節 殉死ヲ廢ス
- 九節 常世國ニ臻ル
- 十節 朝政ノ形勢

八三

第八章 成務天皇及地方制度

- 一節 帝國版圖統一ノ難點
- 二節 天皇熊襲ヲ征ス
- 三節 日本武尊熊襲ヲ伐ツ
- 四節 日本武尊東夷ヲ伐ツ
- 五節 天皇東巡
- 六節 御諸別王ヲ東國ニ封ス
- 七節 帝國版圖統一ノ難點

九九

- 一節 地方制度ヲ定ム
- 二節 別ノ皇子
- 三節 國造
- 四節 縣主
- 五節 稻置

第九章 神功皇后及三韓征服

- 一節 仲哀天皇
- 二節 三韓ノ遠征
- 三節 磐坂王忍熊王謀反
- 四節 外藩ノ制度

一一二

第二期 國民隆盛ノ代

第十章 社會ノ組織

一二三

- 一節 前期復讐
- 二節 氏族
- 三節 大兵小兵及兵上
- 四節 世襲業務及氏名
- 五節 部曲
- 六節 奴婢

第十一章 國家ノ編制……………一三六

- 一節 天皇ト臣民トノ關係
- 二節 御名代ノ民
- 三節 歸化及貢獻ノ民
- 四節 沒收ノ民
- 五節 天皇ト土地トノ關係
- 六節 屯田
- 七節 沒收ノ地
- 八節 征服ノ地
- 九節 天皇統治ノ範圍
- 十節 神事大權
- 十一節 兵馬大權
- 十二節 族制大權

第十二章 政治ノ機關骨姓ノ制……………一五九

- 一節 骨姓ノ制
- 二節 神別諸氏
- 三節 皇別諸氏
- 四節 大臣、大連、臣、連
- 五節 國造及伴造
- 六節 血族國家

第十三章 應神天皇及文教工藝ノ渡來……………一七一

- 一節 三韓トノ關係
- 二節 秦氏及漢氏
- 三節 文教傳來
- 四節 文教渡來ノ前後

第十四章 仁德天皇善政……………一八一

- 一節 稚耶子大鷦鷯相讓
- 二節 難波ノ部
- 三節 水利ヲ起シ賦歛ヲ輕クス

第十五章 武内宿禰及子孫……………一八七

- 一節 武内宿禰事跡
- 二節 巨勢氏
- 三節 蘇我氏
- 四節 平群氏
- 五節 紀氏
- 六節 葛城氏

第十六章 履中天皇ヨリ安康天皇ニ至ル……………一九六

- 一節 履中天皇、反正天皇
- 二節 允恭天皇(衣通姫)
- 三節 安康天皇(眉輪王)
- 四節 當時帝室ノ事情

第十七章 雄略天皇專制……………二〇五

- 一節 市邊押磐皇子等ヲ殺シ位ニ即ク
- 二節 天皇尊大ヲ示ス
- 二節 天皇以心爲師
- 三節 天皇尊大ヲ示ス
- 四節 任那國司叛逆
- 五節 工藝ヲ獎勵ス
- 六節 大藏ヲ起ス

第十八章 清寧天皇ヨリ宣化天皇ニ至ル……………二一七

- 一節 星川皇子謀反
- 二節 清寧天皇
- 三節 弘計王、億計王
- 四節 顯宗天皇

五節 蚊屋野ニ遺骨ヲ求ム  
 七節 仁賢天皇  
 九節 武烈天皇  
 十一節 安閑天皇、宣化天皇

六節 天皇ハ神聖ニシテ侵スベカラズ  
 八節 平群大臣滅亡  
 十節 繼體天皇

第十九章 雄略天皇以後三韓ノ動靜……………二三九

一節 新羅及日本府  
 三節 高麗百濟ヲ伐ツ  
 五節 百濟内亂  
 七節 筑紫國造磐井叛逆

二節 紀小弓等新羅ヲ伐ツ  
 四節 紀生磐宿禰任那ニ據リ反ス  
 六節 大伴金村任那ノ失政

第二十章 第二期ノ財政及刑律……………二四九

一節 財政  
 三節 刑律

二節 人口及土地ノ徵發

第二十一章 第二期ノ風俗……………二六一

一節 建築  
 三節 船車  
 五節 繪畫  
 七節 歌垣

二節 工藝  
 四節 醫術  
 六節 和歌  
 八節 惑信

帝國史略目次終

帝國史略

地勢概論



地 勢 概 論 (一)

夫レ我カ大日本國ハ皇祖皇宗ノ之ヲ天神ニ承ケテ今日ニ傳ヘ統治シ給フ所ニシテ神代ヨリ美國ト稱シ地形ノ交錯ナル氣候ノ順和ナル天産ノ豐澤ナル民俗ノ優雅ナル實ニ渾然タル一個ノ衆香國ナリ而シテ我カ父祖ノ與リシ所ニシテ我カ國民ノ今日アルヲ致セシ所以タル帝國ノ歴史ハ即此ノ衆香國裏ニ於テ三千年間ニ經行シタル一場ノ仙游ナリ此ノ優美ノ邦土ニシテ此ノ光輝アル國史アリ帝國ノ歴史ヲ知ラント欲スル者豈帝國ノ地勢ヲ察セスシテ可ナランヤ。

我カ帝國ハ亞細亞大陸ノ東岸ニ沿ヒテ東北ヨリ斜ニ西南ニ走レル群島ノ星羅ヨリ成ル其ノ中淡路島路伊豫ノ二名島筑紫島州壹岐島津島對隱岐島佐渡島ハ上古ヨリ其ノ名史乘ニ著ハン合シテ大八洲ト曰

(二) 帝 國 史 略

フ、後ニ北海道、千島、琉球、小笠原島等ヲ加ヘ、之ニ屬スル小嶼ノ數亦頗衆ク、面積ノ合計ニ萬五千方里ニ幾シ、其ノ長サハ直徑一千里ヲ越エ、幅員ハ參差一ナラザレドモ、大抵狹處ハ三十餘里ニシテ、廣處ハ百二十餘里ニ達ス、北緯二十四度六分ヨリ起リテ、五十度五十六分ニ至リ、東經百二十二度四十五分ヨリ始マリテ、百五十六度三十二分ニ終レリ。  
其ノ四疆皆海ニシテ、大陸ト相隔チ、波濤ノ爲ニ容易ク交通スルコト能ハサリシハ、我カ國民ノ血統ヲシテ純一ナラシメ、我カ國家ヲシテ獨立ヲ保持セシメタルノ結果アリタリ、然リト雖亦隔絶ノ甚シキ海外文物ノ移入ヲ害スルニ至ラス、就中隣國ナル朝鮮、支那トハ上世ヨリ交通シテ我レニ益シタル所少ナカラス。  
内國諸島ノ間ニ於テモ多少ノ海水ヲ隔ツト雖、沿岸航海ノ術ハ神代ヨリ開ケタル爲ニ曾全國ノ統一ヲ礙ケス、却リテ之ヲ助ケタルハ、神武東征ノトキ專海程ニ依リ日本武尊ノ東征モ亦始メ海道ヲ取リタルニ因

(三) 地 勢 概 論

テ知ルヘク、之ニ反シテ其ノ歸途ハ山道ニ由リシカ爲ニ種々ノ困難ニ遭遇シ給ヒシヲ思フヘシ。  
地形ノ著シキ現象ハ山脈ニ富メルニ在リ、國中到ル處翠峯蜿蜒トシテ脈絡縱横ニ亂走セリ。地文學者ノ說ニ據レハ山脈ハ其ノ成立ノ性質ニ依リテ古生紀山脈及火山質山脈ノ二種ニ區分スヘシ、古生紀山脈ハ地皮凝化ノ際結成セル所ノ岩石ヲ以テ築カレ、概傾斜峻急ニシ、屏障ノ如ク相連レリ、コレニ屬スル山脈ハ植物繁茂シ、之ヲ望メハ森林蒼鬱タリ、火山質脈ハ地熱作用ニ依リ噴起セルモノナルカ故ニ、頂上常ニ倒扇形ヲナシ、其ノ舊火山ニ屬スルモノハ形體虧缺シ、奇巖怪石磊落トシテ峭峻ノ狀ヲ呈ス、山麓ハ概延ヘテ廣漠タル原野ヲナシ、地味薄瘠ニシテ水濕ニ乏シク、或ハ卉木ヲ見サルモノアリ、然レトモ水濕ノ溪澗ニハ樹幹長大ナル杉林及樺櫟等ノ森林アリ、要スルニ我カ國ノ古生紀山脈ハ皆邦土ノ形勢ノ如ク粗ホ弓彎形ヲ爲シテ連亘ス、則本邦ハ地皮凝縮

地勢概論

(四)

ノ時ニ當リ大陸東部ニ穀波ヲ爲シテ露出セシ波頭ニシテ他ノ乾面ハ之ニ準シテ發育シタル舊墟ナルヲ知ルヘシ、而シテ火山質山脈ハ其ノ内部ニ噴起シ、古生紀山脈ニ沿ヒテ駢趨セルナリ矢津氏日本地文學此ノ如キ山脈ノ形勢ハ二ノ點ニ於テ歴史ニ影響シタリ。第一山脈縱横スルカ爲ニ上古ヨリ諸道ヲ分ツ主トシテ山脈ノ位置ニ循ヒ國境亦多ク山岳ヲ以テ劃域トシタリ。箱根碓氷ノ山岳ハ中國ノ一部ヲ限リテ關東ト爲ス、則チ中央政權ノ萎靡セルニ當リテハ先ツ離ル、モノヲ關東ナリトスルコト是古今ノ事跡ニ徴シテ其ノ歴史ニ影響セルノ最昭著ナルモノトス。不破、鈴鹿ノ山岳ハ自ラ近畿ノ要塞ヲ爲シ、壬申ノ亂起ルニ際シ殆ト此ニ由リ天下ヲ二分セントスルノ趨向ヲ生シタリ。又崇峯峻嶺遠ニ踰ユ可ラザルヲ以テ其ノ周遭ノ地ヲシテ宛然トシテ別境界ヲ爲サシメ、久シク一統ヲ妨クタル例ハ上古ノ大和ト近古ノ會津ニ視テ明瞭ナリ、而シテ交通ヲ阻遏スルニ至ラサルモ地方各其ノ固

帝 國 史 略

地 勢 概 論

(五)

有ノ習俗ヲ堅持シテ互ニ相和融化洽スルコトナカラシメタリ。第二、古生紀山脈ト火山質山脈ト相錯ハレルヲ以テ景致勝概變化極マリナク、激瀼ノ鏡湖ハ各處ノ山上ニ散在ス、皆噴火口ノ跡ナリ、是ヨリ溼瑤タル溪水碧玉ヲ瀉テ巖壑ノ間ヲ流出シ、集テ川河トナリ、郊野ヲ沃シテ終ニ海ニ入ル、山水ノ美ハ實ニ宙宇ニ冠絶セリ、而モ斷崖絕壁斗峭險惡ニシテ人ノ膽ヲ奪ヒ望ム者ヲシテ自然勢力ノ豁刻畏ル可キヲ惟ハシムルモノアルナク、概優和婉美明麗温軟ナルコト殆ト繪畫中ノ物ノ如シ、其ノ我カ民種ヲシテ常ニ美術ノ念ニ富マシメ、優雅ノ情ニ厚カラシメタルノ効ハ固ヨリ著大ナリ、又惟フニ本邦人民ノ昔ヨリ今ニ至ルマテ華美ノ裝飾ヲ好マス、自然ノ素朴ヲ尊フニ於テ他ノ東洋民種ト大ニ異ナル所アルモ亦人工ノ美ヲ施サスト雖自然ノ趣已ニ饒足セルニ由ルニ非ラサル無キヲ得ンヤ。

地形ニ次キテ本邦ノ歴史風俗ニ大關係ヲ有スルモノハ氣候ノ和順ニ

(六)

帝

國

史

略

シテ且變化多キニ在リ。地文學者ノ説ニ依レハ日本ハ西北ニ蕪蕩際ナ  
 キ大陸ヲ控ヘタルヲ以テ、其ノ氣象ニ感化セラル、コト多ク、他ノ同緯  
 度ノ土地ニ比スレハ寒冷ノ候永シ、是冬季ハ主トシテ西北ノ風吹キ大  
 陸ノ冷氣ヲ齎シ來リテ夏日ノ氣温ヲ一掃シ去ルニ因ル。然レトモ幸  
 ニ黒潮ノ南海ヨリ温氣ヲ運ヒ來タルアリテ、版圖ノ四面ヲ環流スルカ  
 爲ニ、北來ノ嚴寒ヲシテ温和ナラシメ、從ヒテ種々ノ變化ヲ生ス。  
 四國島ノ南部ハ其ノ脊ニ三千五六百尺以上ノ連山ヲ環ラシ、南面ニハ  
 黒潮ノ暖流ヲ受ケ、之ニ感化セラル、ト雖、冬間ハ猶積雪皚々タルヲ見  
 ル、其ノ最高ノ巔ノ如キハ夏ニ至リテ始メテ消ユルモノアリ、又本州東  
 南沿岸ノ郊野モ冬期ニ至レバ野草衰凋シテ水田池沼堅氷ヲ結フコト  
 多シ、九月ニハ寒露早ク降りテ人肌ヲ侵シ、取次ニ栗烈ノ朔風ヲ送リ、來  
 リテ乾籜枯葉ヲ飛ハセリ、暑候ヨリ寒候ニ移ルノ期節ハ北海ノ沿岸東  
 北ノ諸州ニ早クシテ西南ノ地方ニ晚シト雖、概シテ三月ニ尙或ハ淡雪

地

勢

概

論

(七)

ノ降ルアリテ、未全ク春光ヲ傳ヘス、五月始メテ初夏ノ景アリ、殊ニ北海  
 沿岸及東北諸州ハ春期著シク短ク、先春ノ花モ三月中旬ニ至ラサレハ  
 開カス、而シテ櫻花ノ爛熳ハ既ニ之ニ繼ケリ、特ニ山間谿谷ノ峽間ハ氣  
 候更ニ寒峭ニシテ幽澗春ノ到ルコト遅ク、炎風七月尙清冷ヲ覺ユ、木曾  
 ノ山中ノ如キハ五月花サキ九月麥熟シ盛暑ニ猶綿衣ヲ着ク、日光ノ幽  
 溪ハ櫻花ノ放盛六月中旬ニシテ黃梅雨中桃唇笑ヲ綻ハスノ奇觀アリ

矢津氏日  
 本地文學

顧フニ氣候温暖ニ過クルカ又ハ寒冷ニ過クルトキハ人ノ生活作用ニ  
 影響シテ或ハ怠惰ナラシメ或ハ萎靡ナラシム、而シテ其ノ稍、温煖ナル  
 ハ其ノ稍、寒冷ニシテ生活作用ヲ活潑ニスルニ如カス、是本邦ノ實狀ナ  
 リ、且若氣候一樣ナルトキハ動物植物モ隨テ一樣ナルカ故ニ、人智ノ進  
 歩及殖産工業ノ興廢ニ關係スル勢カラスト雖、我カ國到ル所氣候ニ差  
 異アリ、又一年ノ中數回ノ變化アルカ爲ニ、四時外界ノ風光ヲ殊ニシ、春

(八)

花ノ晨、秋月ノ夕、夏日三伏ノ候、冬夜卒歲ノ期、皆其ノ趣ヲ異ニシ、人心ヲシテ一板套中ニ沈睡セシメス。四時ノ變遷ニ追ハレテ無爲ナラントスルモ、尙ホ能ハサルニ至ラシム。

帝 國 史 略

又本邦ハ米作ノ國ニシテ古ヨリ瑞穂國ノ稱アリ、玉粒ノ如ク瑩白ナル米穀ハ天國ヨリ此ノ土ニ傳ヘテ天孫及天孫ノ臣民ヲ營養シ以テ今日ニ至レリ。地中ニハ無盡藏ノ鑛物ヲ有ス、金銀銅鐵石炭等人工ノ要材ハ皆我レノ産スル所ニシテ、陸地ニハ幾百星霜ヲ閱シタル森林繁茂シ、海底ニハ數多ノ魚介アリテ我カ人民ノ食料ヲ爲セリ。既ニ金石木材アリ、米穀魚介アリ、山川ノ秀麗以テ目ヲ怡ハシムヘク、海陸ノ形勢以テ心ヲ壯ニスベシ、何ヲ苦ミテカ復之ヲ他國ニ求メシヤ、國民タル者唯、其ノ團結ヲ鞏固ニシテ、此ノ美國ヲ護持シ、異民ノ爲ニ侵サレサランコトヲ勉ムレバ、則チ足ル。

# 帝國史略

皇典講究所校閱

從六位有賀長雄編輯

## 第一期 國民興起ノ代

### 第一章 神代

神 代

(一)

○節一 建國神話 太古ノ時、天照太神高皇產神ト相語リテ宣ハク、夫ノ豐葦原瑞穂國ハ吾ガ子孫ノ王タルヘキ土地ナリ。皇孫就テ治セ、寶祚ノ隆エマサン。天壤ト共ニ窮リ無カルヘシト。我が日本建國ノ基礎實ニ此ニ在リ。而シテ此ノ神話遠ク神代ノ昔ニ在リシヲ以テ、其ノ由來ヲ知ランニハ、建國以前ニ溯リテ神代ノ事ヲ述ヘザルヘカラス。

高天原ニ神坐シキ天御中主神ト申シ、其ノ次ヲ高皇產靈神ト申シ、其ノ次ヲ神皇產靈神ト申ス。之ヲ造化ノ三神トス。次ニ可美葦牙彥舅神、次

(二)

帝 國 史 略

ニ天之常立神坐ス。以上五神ヲ別天神ト云フ。造化ノ神天地ヲ創造シ給ヒテ後數神アリ。國常立尊、次ヲ豐斟淳尊、次ヲ湍土煮尊、沙土煮尊、次ヲ角杵尊、活杵尊、次ヲ大戸道尊、大苦邊尊、次ヲ面足尊、吾屋惶根尊トス。此ノ六代ヲ經テ伊弉諾尊、伊弉册尊ニ至ル。之ヲ天神七代ト云フ。高天原ハ日本國民ノ遠祖タル諸神ノマシマス境域ナリ。今其ノ所在ヲ考定スルハ考古學ニ屬シ、史學ノ直接ニ關スル所ニ非ス。

○二三神分治

伊弉諾伊弉册尊始メテ高天原ヨリ降リテ此ノ土ニ坐シ、磯取盧島ニ入尋殿ヲ立テ、都ト爲シ、大八洲ノ國ヲ開キ給フ。磯取盧島ハ即淡路ノ小島ニシテ、大八洲トハ淡路、伊豫、筑紫、壹岐、對島、隱岐、佐渡、大倭大倭ハ即チ中國ナリト云フ。伊弉諾伊弉册三子ヲ生ミ給フ。長子ヲ大日靈尊ト申ス。光華明彩四方ニ照徹ス。二神喜ビテ曰ハク、吾ガ子多シト雖、未此ノ如キ靈異ナルハアラズ。早ク天ニ送リ、授クルニ天上ノ事ヲ以テスベシト。次ニ月神ヲ生ミ給フ。其ノ光彩日ニ亞ケリ。故ニ又天ニ

神

送ル。次ニ素盞鳴尊ヲ生ミ給フ。勇悍ニシテ無道ナリ。常ニ哭泣シ給フヲ以ツテ、民人夭折シ、青山變枯ス。故ニ之ヲ根國ニ適ス。所謂根國ノ所在モ、亦考古學ニ讓リテ此ニ論議セス。

○三節 天照太神ノ岩戸隱

素盞鳴尊ノ根國ニ適セラレントシタマフ時、暫ク高天原ニ赴キ、姉尊ト相見テ而シテ後永ク退ラント請ヒ給ヘバ、二神之ヲ許シ給フ。尊ノ天ニ登リマサントスルニ當リ、溟渤鼓動シ、山岳鳴响ス。天照太神素ヨリ尊ノ暴惡ヲ知リ給フ。來詣ノ狀ヲ聞クニ至リテ、驚キテ曰ハク、吾ガ弟ノ來タルコト豈善意ヲ以テセンヤ。謂フニ奪國ノ志アラント。乃髮ヲ結ヒテ髻ト爲シ、裳ヲ縛リテ袴ト爲シ、八坂瓊イハクハ瓊五百箇御統珠ヲ以テ其ノ髻暨及腕ニ纏ヒ、背ニ千箭ノ鞞ト、五百箭ノ鞞トヲ負ヒ、臂ニ稜威ノ高鞞ヲ着ケ、弓彊ヲ振り起テ、劍柄ヲ急握シ、堅庭ヲ踏ミテ威勢ヲ示シ、即尊ノ來マセル所以ヲ詰問シ給フ。尊其ノ黒心ナキヲ誓ヒ、自帶アル所ノ十握ノ劍ヲ太神ノ纏ヒ給ヘル八坂瓊五百箇御統

(三)

代



(四)

帝 國 史 略

珠ニ易ヘ以テ證トス。尊居ルコトヲ許サン而シテ其所行甚々無狀ナリ。或ハ駒ヲ太神ノ御田ニ放チ或ハ太神新嘗ノ時ニ於テ新宮ヲ瀆ス。太神齋服殿ニ坐シテ神衣ヲ織リ給ヘル時殿薨ヲ穿チテ投納シ給フニ至リ。太神愠ヲ發シテ天石窟ニ入り磐戸ヲ閉ヂテ幽居シタマフ。六合ノ内爲ニ常闇トナリ晝夜ヲ分タス。群神愁ヘ迷フ。是ニ於テ高皇產靈神八十萬神ヲ天安河原ニ會シ禱ルヘキ方ヲ議セシメ給フ。時ニ思兼神深ク思ヒ遠ク慮リテ曰ハク。太玉神ヲシテ諸部ノ神ヲ率井テ和幣ヲ造ラシムヘシ。石凝姥神ニハ天香山ノ銅ヲ以テ八咫ノ鏡三種ノ一ヲ鑄セシメ。長白羽神ニハ麻ヲ種テ青和幣ヲ爲ラシメ。天羽槌雄神ニハ文布ヲ織ラシメ。棚機姫神ニハ神衣ヲ織ラシメ。櫛明玉神ニハ八坂瓊五百箇御統ノ曲玉三種ノ一ヲ作ラシメ。手置帆負彦狹知ノ二神ヲシテ御量ヲ作り。大狹小狹ノ材ヲ伐リテ瑞殿ヲ作り。兼ネテ御笠及矛楯ヲ作ラシメ。天目一箇神ヲシテ維ノ刀斧鐵鐔ヲ作ラシメ。其ノ物既ニ備ハラバ。天香山ノ五百

神

代

(五)

箇ノ眞賢木ヲ掘リ取リ。上枝ニ玉ヲ懸ケ。中枝ニ鏡ヲ懸ケ。下枝ニ青白ノ和幣ヲ懸ケテ。大玉命ヲシテ捧持シテ稱讚セシメ。天兒屋根命ヲシテ相副ニ祈禱セシメ。又天鈿女命ヲシテ眞辟葛ヲ以テ鬘ト爲シ。蘿ヲ以テ手繼ト爲シ。竹葉飲慰木葉ヲ以テ手草ト爲シ。手ニ著鐔ノ矛ヲ持チテ石窟戸ノ前ニ立チ。廷燎ヲ舉ケテ巧ニ俳優ヲ作シ。相與ニ歌ヒ舞ハシムベシト。則具ニ議ノ如クス。時ニ天照太神獨謂ホサク。吾幽屏シテ天下悉闇カラン。然ルニ何ニ由リテカ此ノ如ク歌樂スルト。聊戸ヲ開キテ窺ヒ給フ。爰ニ手力雄神其ノ扉ヲ引キ開ケテ。太神ヲ新殿ニ遷坐シ奉ル。此ノ時上天初メテ晴レ。衆俱ニ相見ルニ面地明白ナリ。手ヲ伸ベ歌舞シ。相共ニ稱シテ曰ハク。アナオモシロト。面白ノ義ナリ。是ニ於テ素盞鳴尊ノ罪ヲ問ヒ之ヲ根國ニ逐ヒ給フ。

○四節素盞鳴尊出雲ニ到ル 素盞鳴尊根國ニ行カントシ先ツ出

雲ノ國ニ至リ給フ。時ニ簸ノ川上ニ老翁ト老婆トアリ。中間ニ一少女ヲ

(六)

置キ之ヲ撫テ、哭ク。尊其ノ故ヲ問ヒタマフニ、老翁對ヘテ曰ハク、吾ハ是國神ナリ。名ヲ足摩乳ト云ヒ、妻ガ名ヲ手摩乳ト云フ。童女ハ是レ吾ガ兒ナリ。奇稻田姫ト云フ。吾レ往ニ八箇ノ少女アリ。毎年八岐ノ大蛇ノ爲ニ吞マル。今此ノ少女亦將ニ吞マレントス。故ニ哀傷スト。尊曰ハク、汝當ニ女ヲ以テ吾ニ奉ルヘシ。吾之ヲ救ハント。老翁勅ニ隨フ。尊乃命シテ八槽ノ酒ヲ釀サシメテ、大蛇ヲ待チ給フ。大蛇到ル。頭尾各、八岐アリ。松柏背ニ生シ、八丘八谷ノ間ニ蔓延ス。酒ヲ得テ醉ヒテ睡ル。是ニ於テ尊帶アル所ノ十握ノ劔ヲ以テ之ヲ寸斷シ給フニ、尾ニ至リテ劔ノ刃少ク缺ケヌ。異ミテ之ヲ裂キ、一劔ヲ得タマヘリ。所謂叢雲ノ神劔是ナリ。尊取リテ之ヲ天照太神ニ上獻シタマフ。此ノ大蛇ト云フハ、出雲地方ニ在リシ勇猛ナル民族ノ酋長ナリシチ、真ノ大蛇ノ如ク傳ヘ誤リシモノニテ、女子ヲ取ルト云フハ、外族ノ婦女ヲ掠奪シテ妻トスル野蠻ノ習慣ノ一例ナリト云フ説モアランド、必スシモ然ラス。真蛇ヲ神トシ長レテ、婦女ヲ犠牲

帝 國 史 略

神

代

(七)

ニセシニモヤアラソ。又其ノ劔ノ如キハ曾テ吞ミタル人ノ佩キタルモノノ腹中ニ殘リシニモヤアラソ。素盞鳴尊ハ天國ノ文化ヲ受ケ、智勇モ高カリシニ因リ、容易ク此等ノ害毒ヲ除キテ、寶劔ヲサヘ得タマヒシモノナルベシ。尊出雲ノ清地ニ宮ヲ構ヘ、奇稻田姫ヲ娶リ給フ。やくもたつ出雲八重垣つまごめに八重垣つくるその八重垣をト云ヘルハ此ノ時ノ御詠ニシテ、三十一文字ノ和歌ノ始ナリ。奇稻田姫ノ生ミタマヘル子ヲ大已貴神ト云フ。尊遂ニ根國ニ赴キ給ヘリ。

○節五 大國主命ノ治 大已貴神ハ天孫ノ遺子トシテ國人ニ尊崇セラレタリ。且高皇產靈神ノ子少彥名命モ亦來リテ、共ニ力ヲ戮セ、心ヲ一ニシテ天下ヲ經營シ、蒼生蕃産ノ爲ニ醫療ノ方ヲ定メ、又鳥獸昆虫ノ災ヲ攘フ、爲ニ禁厭ノ法ヲモ定メ給フ。是ニ因リテ權勢漸諸國ニ及ベリ。案スルニ大已貴神ハ素盞鳴尊ノ子トシテ、天神所傳ノ諸術ニ長シタマヒシハ勿論、又韓土ト交通スルコトヲ得タマヒシニ因リテ、多ク近隣民

(八)

帝 國 史 略

族ノ知ラザル所ノ諸術ヲ傳ヘタマヒシモノカ。凡社會ノ未開ケザルニ當リ、衆人ヲ統屬スル權ヲ得ル所以ノモノ、武勇其ノ一二位シ、妙術之ニ次ク、社會學上ノ事實ヲ檢スルニ、醫術占術ヲ以テ君長タルコトヲ得タル者各地ニ多シ。案スルニ大己貴神モ亦武勇ニ加フルニ、他人ノ知ラザル所ノ妙術ヲ以テシテ、大ニ衆人ノ歸服スル所ト爲リタマヘルモノナラン。既ニシテ大己貴神ノ德化ハ、出雲ヲ源トシテ、廣ク山陰山陽北陸ノ諸道ニ被レリ。丹波ノ國名ハ田庭ノ義ニシテ、命ノ此所ニ多ク農田ヲ拓キタマヘルニ由來スト云フ。時ニ伊弉諾伊弉册既ニ世ニ坐サズ、大己貴神獨權勢アリ、恰モ中央君主ノ如クナリキ。故ニ庶民之ヲ尊稱シテ大國主命ト云ヘリ。今出雲ノ大社ニ祭ル所ノ神是ナリ。大國主命ニ數子坐ス。長子ヲ事代主神ト云フ、父ノ權勢ヲ承ケテ邦土ヲ領シ給ヒキ。

○六節 天神瓊々杵尊ヲ大日本ノ主トス 天照太神ニ男子坐

神

ス。忍穗耳尊ト云フ高皇產靈尊ノ女栲幡千千姬ヲ娶リ、彦火瓊々杵尊ヲ生ミ給フ。高皇產靈尊特ニ此ノ孫ヲ憐愛崇美シ之ヲ立テ、葦原中國ノ主ト爲サント思ホス。葦原中國ハ豐葦原瑞穗國、又大八洲、大日本ト云フニ同シ。即我が國ノ古名ナリ。時ニ其ノ國不順ノ徒多シ。故ニ高皇產靈尊之ヲ諸神ノ集議ニ問ヒ、先天穗日命ヲ遣シテ之ヲ鎮撫セシメタマフ。而ルニ天穗日命三年ニ至ルモ復命シ給ハズ。其ノ子大背飯三熊之大人ヲ遣ス、亦報聞セズ。乃更ニ諸神ヲ會シテ議シ、天稚彥ヲ遣シ給フ。其ノ武勇アルヲ以テナリ。而シテ天稚彥モ亦遂ニ復命セズ。却リテ女子ヲ娶リテ永ク葦原中國ニ坐ラント欲ス。後高皇產靈神ノ天ヨリ投シ給ヒシ矢ニ中リテ斃ル。是ニ於テ又更ニ諸神ヲ會シテ議シ給フニ、兪曰ハク、經津主神ヨソ佳クシト。時ニ武甕槌神進ミテ曰ハク、豈唯經津主神ノミ丈夫ニシテ、吾丈夫ニ非ザランヤト。其ノ辭氣甚慷慨ナリキ。乃經津主神ト與ニ葦原中國ニ遣シ給ヘリ。

(九)

代

○七 出雲護國 葦原中國ノ斯ク治平ニ至リ難カリシハ、夫ノ大國主命ノ權勢既ニ廣シ諸國ニ及ビ、其ノ部下ニ殘賊強暴ノ徒多カリシニ因ル。是ヲ以テ經津主武甕槌ノ二神出雲ノ五十田狹ノ小汀ニ至リ、劍ヲ倒ニ地ニ植エテ、大國主命ニ問ヒテ曰ハク、天照太神高皇產靈神天孫ヲ降シテ此ノ地ニ君臨セシメ給ハントス、故先我等二神ヲ遣ハシテ驅除平定セシメ給フナリ。汝ノ意何如。當ニ避ルベキカ否ト。大國主命對ヘテ曰ハク、當ニ我カ子ニ問ヒ、而シテ後報ズベシト。乃使者ヲシテ其ノ子、事代主命ノ坐ス所ニ至リテ問ハシメ給フニ、事代主命使者ニ謂ツテ曰ハク、今天神此ハ借問ノ勅アリ、我カ父宜ク避リ奉ルベシ、吾亦違フコト無カラント。言訖リテ先船ニ乘シテ去リ給フ。大國主命二神ニ白シ給ハク、我が怙ム所ノ子既ニ避リヌ。故ニ吾亦避ルヘシ。若吾防禦セバ、國內諸神必當ニ同シク防禦スベシ。今吾避リ奉ラバ、誰カ復敢テ順ハザル者アラント。乃其ノ劍ヲ以テ天神ニ奉リ給フ。獨リ大國主命ノ季子健御名

方命天神ノ命ニ從ハズ、武甕槌神之ヲ敗リ、追ヒテ科野ノ洲羽海今ノ湖ニ至リ、竟ニ屈服セシメ給フ。大國主命之ヲ諭シテ曰ハク、天孫ハ既ニ天日嗣タリ、僕及子孫常ニ相率非テ服從スベシト。天照太神ノ御系統ヲ天日嗣ト稱スルコト此ニ始マル。大國主命遂ニ去リテ常世ノ國ニ入り坐シヌ。後世諏訪ヲ配所ト似タルコト此ニ原因スルニ似タリ。

○八 天孫降臨 出雲平定ニ歸ス。天照太神ト高皇產靈尊ト寶祚無窮ノ神誥ヲ垂ン給ヒシハ、即此ノ時ナリ。太神乃三種ノ神器ヲ天孫ニ授ケ給フ。三種神器トハ八咫鏡ト瓊雲劍ト八坂瓊曲玉トナリ。乃勅シテ曰ハク、吾ガ見此ノ寶鏡ヲ見ルコト、當ニ吾ヲ視ルガ如クスベシ。與ニ床ヲ同クシ殿ヲ共ニシ、以テ齋鏡ト爲スベシト。又天兒屋根命太玉命天鈿女命ヲシテ配侍セシメ、勅シテ曰ハク、汝天兒屋根命太玉命二神、宜ク天津神籬天孫ノ子孫ヲ齋フニ用テ持チテ葦原中國ニ下リ、吾ガ孫ノ爲ニ齋ヒ奉リ、共ニ殿内ニ侍シテ能ク防護セヨ。又吾カ高天原ニ所御齋庭ノ穗

ヲ以テ當ニ吾ガ兒ニ御ベシト。又太玉命ニ勅シテ曰ハク、宜ク諸部ノ神ヲ率井テ其ノ職ニ供奉スルコト天上ノ儀ノ如クセヨト。又天忍日神ヲシテ天穗津大來目ヲ帥井、仗ヲ帶ヒテ前驅セシメ給フ。天兒屋根命ハ中臣氏ノ祖、太玉命ハ齋部氏ノ祖、天忍日命ハ大伴氏ノ祖、大來目ハ久米氏ノ祖ナリ。並ニ勅ヲ奉シテ天孫ニ陪從シ、歷世相承クテ各、其ノ職ニ供シ給ヒキ。時ニ天孫ニ陪從シテ降來セルモノ總ベテ八十萬神ト稱ス。猿田彦大神、途ニ天孫ヲ迎ヘ奉ル。天孫其ノ請ヲ納レテ、筑紫日向ノ高千穗峯ニ降り給フ。日向トハ、今ノ薩摩大國ナリ。

○九日向帝居 瓊々杵尊高千穗ニ降り給ヒシ後、地ヲ四方ニ選ミ、吾田ノ笠狹岬ヲ定メテ都ト爲シ給フ。今ノ薩摩加世田港是ナリ。此ノ處ニ坐シテ木花咲耶姬ヲ娶リ、火闌降命及彦日々出見尊ヲ生ミ給フ。彦日々出見尊鹽土翁ノ教ニ依リ、船ヲ造リテ綿津見國ナリニ至リ坐ス。歸ルニ及ヒテ、權勢火闌降命ニ越エ給フ。火闌降命弟ニ推服シ、隼人ヲ率井テ

其ノ宮ヲ護衛シ給ヘリト云フ。一説ニ火闌降命彦日々出見尊共ニ日嗣ノ皇子ナリシガ、其ノ間ニ争起リテ、弟ノ皇子ヲ助ケ奉ル者多ク出來シニ依リ、兄ノ皇子ハ却テ一地方ノ君長タルニ止マリ給ヘリシナリト云フ。是ニ於テ彦日々出見尊瓊々杵尊ノ天位ヲ嗣ギ、之ヲ其ノ御子鷓鷯草葺不合尊ニ傳ヘ給フ。御母ハ綿津見神ノ女豐玉姬ニ坐ス。葺不合尊御姨玉依姬ヲ娶リテ四子ヲ生ミ給フ。長ヲ五瀬命、次ヲ稻氷命、次ヲ御毛沼命、季ヲ盤余彦命ト云フ。葺不合尊崩シ給ヒシカバ、日向ノ吾平山ノ陵ニ葬リ奉リヌ。以上三代ノ事跡ハ多ク傳ハラズ。其ノ年所亦詳ナラズ。概シテ天祖ト稱シ奉ル。

第二章 神武天皇建國

○節一 皇軍東征 五瀬命、磐余彥尊、日向ニ坐ス。磐余彥尊、諸皇兄及諸皇子等ニ曰ハク、昔我が天神高皇產靈神大日靈尊天照太神此ノ豐葦原瑞穗國ヲ舉ゲテ、我が天祖彥火瓊々杵尊ニ授ヘリ。是ニ於テ瓊々杵尊天關ヲ闢キ、雲路ヲ披キ、山嶂ヲ駈リ、以テ戻止シタマフ。是ノ時、運鴻荒ニ屬シ、時草味ニ鍾レリ。故ニ蒙以テ正ヲ養ヒ、此ノ四偏ヲ治ス。皇祖皇考乃神乃聖、慶ヲ積ミ、暉ヲ重テタマヒ、多ク年所ヲ歷タリ。皇祖降跡ヨリ以テ遠今ニ于テ一百七十九萬二千四百七十餘歳。而シテ遼邈ノ地、猶未王澤ニ霑ハズ。遂ニ邑ニ君アリ、村ニ長アリ、各自分レテ以テ相凌轢セシム。又鹽土翁ニ聞クニ曰ハク、東ニ美地アリ、青山四周ス。其ノ中ニ亦天ノ磐船ニ乗シテ飛降セシ者アリト。余謂フニ、其ノ地ハ必以テ天業ヲ恢弘シ、天下ニ光宅スルニ足ルベシ。蓋六合ノ中心カ、厥ノ飛降セシ者ハ、是饒速日ヲ謂フカ。

何ソ就キテ都セサランヤト。日本諸皇子對ヘテ曰ハク、理實ニ灼然タリ。我等亦恒ニ以テ念ト爲ス。宜ク早ク之ヲ行ヒ給フベシト。以上磐余彥尊ノ勅語ハ、日本國家ノ由來ヲ知ルニ於テ最緊要ナルモノトス。普通歴史ノ傳フル所ニ依レバ、日本全國ヲ統治スル權ノ我が皇室ニ歸シタルハ、神武天皇大和ヲ征服シ、崇神天皇四道ニ將軍ヲ發シ、景行天皇日本武尊ヲシテ東夷ヲ征伐セシメ給ヒタル結果トシテ、版圖漸増大セルニ因ルモノナリト。若夫此ノ如クナラバ、豐葦原瑞穗國ハ是我ガ子孫ノ王タルベキ地ナリト宣ヘル神話ハ、將來ヲ期シタル豫言タルニ過ギズト雖、以上磐余彥尊ノ語ニ依レバ、神代ニ於テ日本全土ハ已ニ我カ皇家ノ統治ニ歸シ、爾後ノ變遷ニ因リ、更ニ君長割據ノ狀ニ陥リタルモノナリ。是ヲ以テ神武ノ東征ハ、新土ノ占畧ニ非スシテ舊土ノ再興タリシナリ。是獨磐余彥尊ノ勅語ニ徵スヘキノミナラズ、又事實ニ徵シテ明ナル所ナリ。例ヘバ下總ノ香取ニ香取神社アリ。常陸ノ鹿島ニ鹿島神

社アリテ、經津主武甕槌ノ二神ヲ祭レル如キ、安房ノ安房神社ニ天富尊ヲ祭レル如キ、皆以テ神武ノ時既ニ皇化ノ此ノ地方ニ及ヒタルヲ證スルニ足レリ。日本考古

甲寅ノ年十月、舟師ヲ發シテ東征シ、速吸水門ニ至リ給フ。時ニ漁人アリ、艇ニ乘リテ至リ白サク、臣ハ是國神ナリ。名ヲ珍彦ト云フ。曲浦ニ釣漁ス。天神ノ御子來マセリト聞キ即迎ヘ奉ルナリト。乃珍彦ヲ以テ航路ノ導者ト爲シタマヘリ。蓋自何々ノ國神ト稱フルハ、皆一地方部族ノ酋長ニシテ、其ノ祖神ノ後裔トシテ信崇セラル、モノナリ。皇軍筑紫ノ菟狹ニ至レル時ニ、菟狹津彦菟狹津姬菟狹ノ祖造ノ祖、菟狹ノ川上ニ於テ一柱勝宮ヲ造リテ、皇子等ヲ饗シ奉ル。十一月筑紫國ノ岡ノ水門筑前遠賀ニ在リニ至リ、十二月安藝國ニ入り埃宮ニ坐ス。翌年三月海ニ從リテ吉備國ニ入り、行宮ヲ造リテ居タマフ。之ヲ高島宮ト云フ。止マルコト數年、舟楫ヲ備ヘ、兵食ヲ蓄ヘ、一舉シテ天下ヲ平クント思ホス。皇師遂ニ舩艦相接シ、東

ノカタ浪速國磯ニ至リ、進ミテ日下ノ磐津ニ抵リ、則上陸シテ龍田ニ赴キ給フニ、路狹險ニシテ人並行スルヲ得ス。因リテ軍ヲ還シ、更ニ膽駒山ヲ踰エテ倭國ニ入ラントシ給ヘリ。

○二倭國及長髓彦 時ニ倭國ノ登美城上ニ君長アリ。長髓彦ト云フ。彦ノ字ヲ其ノ名ニ負ヘルヨリ思ヘバ、元天孫ト同シ民種ナルベシ。饒速日命ヲ女婿ト爲シ、近隣ヲ統屬シ、權勢頗大ナリ。舊事記ニ依ンバ、饒速日命ハ是火明命ノ異名ニシテ、天忍穗耳尊ノ子瓊々杵尊ノ兄ナリ。其ノ長子ニシテ皇統ヲ嗣ギ給ハザリシハ、獨饒速日命ノミナラズ、太古ニ於テ多ク其ノ類例ヲ存スルナリ。長髓彦皇軍ノ來襲ヲ聞キ、大衆ヲ以テ逆戰ス。五瀬命孔舍衙坂ニ於テ流矢ヲ脰脛ニ受ケ給フ。磐余彦尊之ヲ憂ヒ、策ヲ運ラシテ曰ハク、我等ハ是日神ノ子孫ナリ。而ルニ日ニ向ヒ虜ヲ征ス、コソ天道ニ逆フナリ。退キテ弱キヲ示シ、神祇ヲ禮祭シ、日ヲ負ヒ影ニ隨ヒテ戰ハシニハ若カズ、則又ニ血ヲラズシテ虜自敗レシト。僉曰ハク、

第一期 第二章 神武天皇建國

然リ下乃軍ヲ還シ給フ。五月朔、皇軍海ニ依リ茅渚山城水門ニ至ル時、  
 五瀨命矢創痛キコト甚シ、劔ヲ撫シ雄語シテ曰ハク、慨哉大丈夫、虜手  
 ニ傷ケラレ、報イズシテ死ナシヤト。因リテ其ノ處ヲ號シテ雄水門和泉  
 郡ト云フ。遂ニ軍中ニ薨シ給ヘリ。六月、皇軍名草邑ニ至ル。酋長アリ、名  
 草戸畔ト云フ。皇命ニ服セザルヲ以テ誅セラル。遂ニ狹野ヲ越エテ熊野  
 ニ到リ、天磐盾ニ登リ、又船ニ乘シテ漸ク進ム。海中風起リ皇舟漂蕩ス。  
 是ノ時、稻氷命ノ船ハ流レテ韓國ニ着キシガ、其ノ子孫後ニ新羅ノ主ト  
 ナレリト云フ。又御毛沼命モ常世ノ國ニ着キ給ヘリ。磐余彦尊皇子手  
 研耳命ト軍ヲ進メテ熊野ノ荒坂ノ津ニ至リ、酋長丹敷戸畔ヲ誅シ給フ。  
 時ニ神アリ、毒氣ヲ吐キ、人物咸瘞ス。

○三節 頭八咫鳥及兄猾弟猾 士卒復醒ムルニ及ヒ進ミテ中洲

大和ニ入リ給ハントス。山中險絶行ク可キ路ナシ。時ニ磐余彦尊ノ御夢  
 ニ天照太神訓ヘテ曰ハク、朕今頭八咫鳥ヲ遣サン。宜シク以テ嚮導者マ

ラシムヘシト。果シテ頭八咫鳥アリ、空ヨリ飛ヒ降ル。磐余彦尊曰ハク、此  
 ノ鳥ノ來タルコト自祥夢ニ叶ヘリ。大哉赫哉。我が祖天照太神以テ基業  
 ヲ助成シ給ハントスルカト。日、臣命大來目ノ將士ヲ督シテ山ヲ蹈ミ啓  
 行ス。乃鳥ノ向フ所ヲ仰觀シ、之ヲ追ヒテ遂ニ菟田下縣ニ達ス。此ノ功ニ  
 因リ日、臣命ノ名ヲ道臣ト改メ給フ。道臣ノ後ヲ大伴氏ト云ヒ、代々皇軍  
 ニ將タリ。菟田縣ニ魁帥アリ。兄猾弟猾ト云フ。八月、之ヲ皇軍ニ召ス。兄  
 猾ハ來ラズ、弟猾ハ即軍門ニ詣リテ拜シ且白シテ曰ハク、臣ガ兄ナル兄  
 猾天孫ノ到リ坐セルヲ聽キ、即兵ヲ起シテ襲ハントス。皇師ノ威ヲ望ミ  
 見、懼レテ敢テ敵セス。乃潛ニ其兵ヲ伏セ、權ニ新宮ヲ作りテ、殿内ニ機ヲ  
 施シ、請饗ノ時ヲ以テ難ヲ作サントス。願ハクハ之ガ備ヲ爲シ給ヘト。乃  
 道臣命ヲ遣シテ其ノ逆狀ヲ察セシメ給フ。道臣命審ニ其ノ賊心ヲ知り、  
 大ニ怒リ、詰責シテ曰ハク、爾ガ造ル所ノ屋ニハ爾自居レト。劔ヲ按シ弓  
 ヲ彎キテ、催シ入ラシム。兄猾辭スルニ言ナク、乃自機ニ陥リテ壓死ス。而



シテ弟猾ハ大ニ牛酒ヲ設ケテ皇師ヲ饗シ奉リタリ。

○四節吉野ノ土蕃ヲ服ス 是ヨリ後磐余彦尊吉野ノ地ヲ定メ給

ハント欲シ菟田ノ穿邑ヨリ親シク輕兵ヲ率井テ巡狩シ吉野ニ至リ給

フ。時ニ人アリ井中ヨリ出ヅ。光リテ尾アリ。尊問ヒテ曰ハク、汝ハ何人ゾ。

對ヘテ曰ハク、臣ハ是國神ナリ。名ヲ井光ト云フ。今天孫ノ來マセルヲ聞

キ迎ヘ奉ルナリ。是即吉野首部ノ始祖。又進ミ給フニ、更ニ人アリ、

磐石ヲ披キテ出ヅ。尊問ヒテ曰ハク、汝ハ何人ゾ。對ヘテ曰ハク、臣ハ是磐

排別ノ子ナリ。是即吉野ノ國樸部ノ始祖ナリ。又水ニ縁リ西行シ給フ。

時ニ梁ヲ作り魚ヲ捕ル者アリ。尊問ヒテ曰ハク、汝ハ何人ゾ。對ヘテ曰ハ

ク、臣ハ是菴苴擔ノ子ナリ。是即阿太養鷓部ノ始祖ナリ。凡此等ハ、皆

天孫ヨリ前ニ日本ノ國土ニ在リシ部民ニシテ、既ニ久シク此ニ土着シ、

其ノ祖先ヲ神トシ崇ヒ、此ノ神ノ嫡流ヲ受ケタル者代々酋長トナリテ、

自國神ト稱セシナルヘシ。而シテ天孫ノ至リマセルヲ聞キ、迎ヘテ之ニ

歸服シ、天孫モ亦之ヲ奴婢トセス、良民トシテ仍其ノ土地ニ住シ、其ノ國  
神ヲ奉スルコトヲ許シタマヘルヲ以テ見レバ、此等ハ元天孫ト別種ノ  
民族ニハ非ザリシナリ。

○五節天神ヲ禱リ八十梟帥ヲ伐ツ 當時又所々ニ別種ノ勇悍

ナル民族アリ、勇猛ニシテ群居セルニ因リ、之ヲ八十梟帥ト稱ス。九月、

磐余彦尊高倉山ニ陟リ國中ヲ瞻望シ給フ。時ニ國見、丘上ニ八十梟帥ア

リ、男坂ニ男軍即正ヲ置キ、女阪ニ女軍即副ヲ置キ、墨坂ニ妹炭ヲ置キ以

テ備フ。而シテ又磐余邑ニハ兄磯城弟磯城ノ軍充滿セリ。賊虜ノ據ル所

皆要害ノ地ナリ。磐余彦尊之ヲ惡ミ、夜自祈リテ寢給フ。夢ニ天神アリ、訓

ヘテ曰ハク、天香山ノ社ノ中ノ土ヲ取リテ瓮ヲ造リ、以テ天神地祇ヲ敬

祭スヘシト。醒メ給フニ及ビ、弟猾亦奏シテ曰ハク、倭國ノ磯城邑ニ磯城

ノ八十梟帥アリ、高尾張邑ニ赤銅ノ八十梟帥アリ、皆拒キ、戰ヒ奉ラント

ス。宜シク天香山ノ壇ヲ取リテ瓮ヲ造リ、以テ天社國社ノ神ヲ祭り給フ

ヘシト。尊其ノ御夢ト符節ヲ合スルカ如クナルヲ喜ヒ、椎根津彦ト弟猶トニ、弊衣ヲ著ケテ老翁老嫗ノ裝ヲ爲サシメ、天香山ニ到リ土ヲ取ラシメ給フ。而シテ賊虜之ヲ知ラザルナリ。登成リテ尊菟田川ノ朝原ニ於テ咒著シ、乃祈リテ曰ハク、吾今益ヲ以テ水無クシテ飴ヲ作ラシ。飴成ラハ則吾ノ鋒刃ノ威ヲ假ラズシテ天下ヲ平ゲント。飴即自成ル。又祈リテ曰ハク、吾今益ヲ以テ丹生ノ川ニ沈メン。大小ノ魚醉ヒテ流ル、ト枝葉ノ如クナラバ、吾必能ク此ノ國ヲ定メント。頃ニシテ魚皆浮ミ出テ、水ニ隨ヒテ喰嚼ス。尊大ニ喜ヒ、菟田ノ川上ノ五百箇ノ眞坂樹ヲ以テ諸神ヲ祭リ、十月、軍ヲ勒シテ、八十梟帥ヲ國見丘ニ擊チ之ヲ斬リ給フ。又道臣命ニ勅シ、大來目部ヲ帥弁テ、忍坂邑オカノニ於テ盛ニ宴饗ヲ設ケ、以テ虜ヲ誘ハシメ給フ。酒酣ナルトキ、道臣命起テ歌フ。士卒歌ヲ聞キ、俱ニ其ノ劔ヲ振キテ一時ニ虜ヲ殺シ、一人ヲ殘サズ。

十一月、皇軍大舉シテ磯城彦同種ナリシナルニテ天孫トテ攻メントス。先使

ヲ遣ハシテ兄磯城ヲ徵サシメ給フ。兄磯城命ヲ承ケズ。次ニ頭八咫鳥ヲ遣シテ弟磯城ヲ説カシメ給フニ、弟磯城命ニ服シテ詣リ、乃白サク、我が兄八十梟帥ヲ集メ、兵甲ヲ具ヘテ抗シ奉ラントス。早ク之ヲ圖リ給ヘト。是ニ於テ磐余彦尊諸將ヲ會シテ策ヲ問ヒ給フ。諸將曰ハク、兄磯城ハ賊ナリ、宜シク先弟磯城ヲ遣リ之ヲ諭サシメ、并セテ兄倉下、弟倉下ヲ説カシメ、若竟ニ歸順セサラバ、則兵ヲ擧ゲテ之ニ臨ムモ未晚カラズト。乃弟磯城ヲ遣リ利害ヲ説カシメ給フ。而シテ兄磯城等猶迷圖ヲ守リ、肯テ承伏セス。時ニ椎根津彦謀ヲ獻シテ曰ハク、宜シク先我が女軍ヲ遣リ、忍坂ノ道ヨリ出テシメ給フベシ。虜之ヲ見バ、必銳ヲ盡シテ之ニ赴カン。吾則勁卒ヲ駈馳シテ直ニ墨阪ニ向ヒ、菟田川ノ水ヲ以テ其ノ炭火ニ灌キ、進ミテ賊ノ不意ヲ突カント。尊此ノ策ヲ善シトシ、先ツ女軍ヲ出タシ給フ。時ニ皇軍歴戰疲弊ナキニ非ス。尊乃謠歌ヲ爲リ、將卒ノ心ヲ慰メ給ヘリ。

「たゝなめて、盾並いなさのやまの田那差山、菟このまゆも、木の間にゆきまもらひ守りキツたゝかへば、戦へわれはやゑぬ、我レ肌エしまつとり鳥うかひがども、鶴養部いますけにこね、今助ケニ來。」  
 遂ニ男軍ヲ以テ墨阪ヲ越エ、前後ヨリ挾撃シテ兄磯城ヲ斬ルコトヲ得タリ。

○六節 饒速日命歸順

十二月、遂ニ長髓彦ヲ撃チ給フ。連戦シテ勝タス。時ニ忽然天陰リ雨降ル。乃チ金色ノ靈鷲アリ、飛ヒ來テ御弓ノ弭ニ止マル。光暉流電ノ如シ。長髓彦ノ軍卒之ヲ見テ迷眩シ、復力戦スルコト能ハス。

是ニ於テ長髓彦使テ磐余彦尊ニ奉リテ言サク、此ニ天神ノ子坐ス。天ノ磐船ニ乘リテ降り給ヘリ。櫛玉饒速日命ト曰フ。吾カ妹三炊屋姫ヲ娶リテ兒ヲ生ミタマフ。可美眞手命ト曰フ。故ニ吾饒速日命ヲ以テ君ト爲シ奉ルリ。天神ノ子豈兩種アラシヤ。謂フニ尊ニハ天神ノ子ト稱シテ、人ノ地

ヲ奪ハントシ給フナリト。磐余彦尊曰ハク、天神ノ子亦多シ。汝ノ君トスル所是實ニ天神ノ子ナラバ、必表物アラシ。以テ示スベシト。長髓彦乃饒速日命ノ天羽羽矢一雙及步鞞ヲ以テ示シ奉ル。是實物ナリ。磐余彦尊モ亦其ノ御ス所ノ天羽羽矢及步鞞ヲ以テ長髓彦ニ示シ給フ。長髓彦其ノ偽ニ非サルヲ知ルト雖、猶迷圖ヲ改ムル意ナシ。爰ニ饒速日命、天孫ニシテ始メテ能ク此ノ如ク慰勸ナルベキヲ知り、又長髓彦ノ稟性悞狠、教フルニ天人ノ際ヲ以テ不可カラサルヲ悟リ、乃之ヲ殺シ、其ノ衆ヲ率井テ磐余彦尊ニ歸順ス。尊褒メテ之ヲ寵シ給フ。饒速日命ノ後ハ、常ニ兵ニ將トシテ朝廷ニ事ヘ、物部氏ト稱ス。後ノ歴史ニ大關係アリ。

○七節 處々土蜘蛛ヲ誅ス

翌年二月、尊諸將ニ命シテ士卒ヲ練ラシメ給フ。是ノ時波哆丘岬ニ新城戸岬アリ。又和珥ノ坂下ニ居勢祝アリ。長柄丘岬ニ猪祝アリ。此ノ三處ノ土蜘蛛、其ノ勇力ヲ特ミテ歸順セス。乃偏師ヲ遣シテ皆之ヲ誅シ給ヘリ。又高尾張邑ニ土蜘蛛アリ。其ノ人

ト爲リ身短クシテ手足長シ。侏儒ト相似タリ。皇軍萬ノ網ヲ結ビテ掩襲シ之ヲ殺ス。葛城ノ地名此ニ始マルトイフ。蓋土蜘蛛ハ國中各地ニ在リシ劣等ナル土蕃ナリ。ツチグモハツチゴモリノ義ニシテ、其ノ穴居セシヨリ此ノ稱アリ。方今諸方ニ見ル所ノ穴居ノ跡ハ、此ノ民種ノ住ミシモノ多シ。脛長クシテ早ク走ル。故ニ八束脛トモ云フ。又佐伯ノ稱アリ。民邑ヲ侵シ擾ガス故ナリト云ヒ、又言語器シキ故ナリト云フ。國標隼人モ恐ラシハ同種ナラン。此ノ蕃族ハ勇悍ナンドモ、未刀劍ノ用ヲ知ラス。男女別ナク、父子親マズ。群黨ヲ結ビ、鳥獸ヲ獵リテ生活シ、常ニ侵畧ヲ事トセリ。

○八帝宅經營

三月、磐余彦尊令ヲ下シテ曰ハク、我東征シテヨリ茲ニ年アリ。皇天ノ威ニ頼リ、兇徒戮ニ就ク。邊土未タ清カラス、餘妖尙梗ガソリト雖、中州和ノ地マタ風塵ナシ。誠ニ宜シク皇都ヲ恢廓シ、大壯ヲ規摹スヘシ。而シテ今運此ノ屯蒙ニ屬シ、民心朴素ニシテ、巢棲穴居ノ習

俗惟常ナリ。夫大人ノ制ヲ立ツル、義必時ニ隨フ。苟モ民ニ利アラバ、何ソ聖造タルヲ妨ケン。且當ニ山林ヲ披拂シ、宮室ヲ經營シ、恭シク寶位ニ臨ミ、以テ元元ヲ鎮ムヘシ。上ハ則乾靈授國ノ德ニ答ヘ、下ハ則子皇孫養正ノ心ヲ弘メン。然シテ後ニ六合ヲ兼ネテ都ヲ開キ、八紘ヲ掩ヒテ宇ト爲スヘシ。亦可ナラスヤ。夫ノ畝傍山ノ東南、樞原ノ地ヲ觀シ、蓋國ノ境區ナルカ。之ヲ治ムベシト。同月、有司ニ命シテ帝宅ヲ經營セシメ給ヘリ。日本 紀按スルニ帝宅經營ハ、帝位ノ形跡ヲ備フル始ナリ。而シテ其ノ意亦穴居巢棲ノ弊風ヲ改メ、民庶ヲ導キテ文明ノ域ニ進マシメ給フニ在リ。之ヲ皇祖國家經營ノ第一段トス。

○九納妃

次ニ磐余彦尊正后ヲ立テント欲シ、廣ク華胄ヲ求メ給フ。時ニ人アリ、奏シテ曰ハク、事代主神三島瀨シノ、櫛耳神シノミミヲ娶リテ生ミ給ヘル。玉櫛媛ニ子坐ス。名ヲ媛ヒメ、踏鞴フミ五十鈴媛命ト云フ。是レ國色ノ秀ナル者ナリト。尊之ヲ悅ヒ、九月、納シテ正后トシ給ヘリ。蓋コレヨリ先キ尊既ニ

后アリ。皇子アリ。而シテ更ニ正后ヲ華胄ニ求メ給ヘル所以ノモノハ、主トシテ系統ヲ重シテ給フニ因ル。即萬人ノ尊敬ヲ受クヘキ家系ニ出テタル女子ヲ納シ、以テ寶祚ヲ傳フルニ適セル日嗣皇子ヲ生マシメ給ハソカ爲ナリ。天神ノ系統ハ實ニ日本國家第一ノ基本ニシテ、此ノ納妃ノ事ニ因リ、始メテ固キヲ得タリト謂フ可シ。之ヲ國家經營ノ第二段トス。

○十 登位 翌年正月、磐余彦尊帝位ニ樞原ノ宮ニ即キ給フ。之ヲ國家經營ノ第三段トス。古語ニ之ヲ稱シテ、畝傍ノ樞原ニ底磐根宮柱太立高天原樽風峻峙始馭天下天皇ト申ス。御號ハ神日本磐余彦火火出見ノ天皇ト申ス。正妃ヲ尊ミテ皇后ト爲シ給フ。皇子神八井命淳名川耳尊ヲ生ミ坐ス。登位ノ年ヲ天皇ノ元年トシ、之ヲ紀元第一年ニ數フ。

○十一 賞功 二年二月、天皇功ヲ定メ賞ヲ行ヒ給フ。道臣命ニ宅地ヲ賜ヒ、築坂邑ニ居ラシメ、以テ之ヲ寵異ス。大來目ヲシテ畝傍山ノ西ノ川邊ニ居ラシム。是皇軍ノ居地ヲ定メテ護衛ニ供シ給ヘルナリ。因テ其

ノ地ヲ來目<sup>久</sup>邑ト云フ。珍彦ハ航路ヲ導キ奉リシ功ヲ以テ、倭國造トシ給フ。又弟猾<sup>ニ</sup>猛田邑ヲ賜ヒ、因リテ猛田縣主ト爲シ、弟磯城ヲ磯城縣主ト爲シ、劔根ト云フ者ヲ葛城ノ國造ト爲シ給フ。頭八咫鳥モ亦賞アリ。其ノ子孫ハ即葛野主殿縣主部<sup>コ</sup>ニナリ。斯ク地方ニ國造縣主ヲ置カレシハ、即地方制度ノ始メニシテ、重要ナル政體ノ基本トナレルコト後ニ知ルベシ。而シテ兒屋根命ト太玉命トハ、常ニ宮中ニ陪侍シテ其ノ職ヲ盡セシナリ。以上ヲ國家經營ノ第四段トス。

○十二 祭祖 四年二月、詔シテ曰ハク、我カ皇祖ノ靈天ヨリ降臨シテ朕ノ躬ヲ光助シ給フ。今諸虜已ニ平キ、海内無事ナリ。以テ天神ヲ郊祀シ、用テ大孝ヲ申ブヘキナリト。乃靈時ヲ鳥見山ノ中ニ立テ、天照太神、高皇產靈神、神皇產靈神ヲ祭リ給フ。斯ク天神ヲ祭リ給ヘルハ、天照太神ハ天皇ノ皇祖ニ坐シテ、高皇產靈神、神皇產靈神ハ天祖ニマシマセハ、コレヲノ天神ヲ尊敬シテ孝道ヲ盡シ、傍ラ天皇ハ其ノ後ナルコトヲ廣ク天

下ニ示シ給ハシガ爲ナリ。蓋本邦ノ民天孫ハ大八洲ノ君主ニ坐スコトヲ知ラザル者ナシト雖世繼ノ次第ヲ知ル者尠ク別クテ大和以東ノ人民ハ絶エテ知ラサリシナルベシ乃祖神禮拜ノ道ニ依リ人心ヲ繫キ給ヘルナリ之ヲ國家經營ノ第五段トス。

十三節 巡國

日本紀古事記ニハ錄セサルコトナガラ天書ノ傳記ニ

依レハ神武天皇大倭ニ於テ大業ヲ立テサセラシ後十二年六月ヲ以テ更ニ日向ニ行幸シ皇祖皇考等ノ陵ヲ拜シ之ヲ守衛セシメ給ヘル由見エタリ而シテ學者皆天書ノ據ルベキヲ信ス。

三十一年四月天皇倭國ヲ巡視シ腋上ワキノカミ上ノホノ丘ニ登リテ國狀ヲ回望シテ曰ハクあなにもやハ妍ナくにをえつうつゆふのまさきくに内木綿ノといへどあきつ蟬のどなめ暗せるかごとし下是ヨリ大倭ヲアキツト呼ブコト起レリ諸國巡狩ヲ以テ國家經營ノ第六段トス。

此ノ時神武天皇ノ巡視シ給ヒシハ後ノ所謂和州ノミナリシカモ知ル

ヘカラズト雖日本全國ヲ指シテヤマトト云フモ神代ヨリノコトナリ日本紀記者ノ語ニ昔伊弉諾尊此ノ國ヲ目シテ曰ハク日本ハ浦安ノ國細スサノ戈コ千チ足タノ國磯輪上イソノハ秀ヒコ真マノ國ナリトアリ又倭ノ字ヲ用ウルコトハ倭奴ニ起ルト云フ倭奴ハ筑前ノ地名ニシテ或ハ伊イ覩ト怡イ土ト等ノ字ヲ宛ツ此ノ地ノ人始メテ漢國ニ通信セシヨリ漢人我ヲ呼ビテ倭ト云ヘリトナシ其ノ後全國ニハ大倭ノ字ヲ用井一國ニハ大和ノ字ヲ用井テ區別シタリ孝德天皇ノ朝ニ大倭ノ字ヲ日本ニ改ム日本ハ元韓漢ノ我ヲ稱スルニ用井シ所ナリ而シテ初ハ之ヲモヤマトト訓ミタルガ後ニハ字音ニテニホムト讀ムコトナレリ。

四十二年皇子淳名川耳尊ヲ立テ皇太子トシ給フ。

七十二年三月道臣命ヲ諸州ニ遣シテ皇風ノ王澤ヲ窺ハシメ給フ天。

七十六年天皇橿原宮ニ崩シ給ヘリ御年一百二十七歳ト傳フ。後ニ神

武天皇ト諡シ奉ル。

### 第三章 日本國民成立

○節一 民衆ノ成分 凡國民興敗ノ原因ヲ詳ニセント欲スル者ハ國土ノ漸擴張セシ次第ヲ知ルヲ要スルノミナラス、又此ノ國土ニ如何ナル民種アリテ、如何ナル勢力ヲ以テ之ヲ團結シタルカヲ知ラサルヘカラス。即各國地勢ハ大同小異ナルモ、國躰ニ於テ大差アル所以ノモノハ、初メ其ノ國民ヲ組成シタル民衆ノ情勢如何ニ因ルモノ多クンバナリ、山川風土固ヨリ國躰ニ影響セザルニアラズ。然レドモ其ノ影響ハ、民種ノ單純ナルト複雑ナルトニ因リ、又ハ專武力ヲ以テ之ヲ團結シタルト、他ノ勢力ヲ以テ之ヲ統一シタルトニ因ルモノニ比シテ遙ニ輕少ナリ。今日本國民ノ當初ニ於ケル民衆ノ成分ヲ察スルニ三種アリ。曰ハク天孫及天神地祇ノ民種、曰ハク島帥民種、曰ハク穴居民種是ナリ。

#### ○節二 天孫及天神地祇

正當ニ日本民種ト稱スルハ、即日本國民

ノ本躰ヲ爲セルモノニシテ、固ヨリ言語相通シ、傳ヘテ同一ノ天國ヨリ來ルモノト爲シ、其ノ天國ニ在リシ諸神ヲ仰ギテ祖先トスルモノナリ。此ノ民種ニハ既ニ發達セル政躰アリテ、宗族制度ニ基キテ君長ヲ立テ、又甚綿密ナル祖先禮拜ノ儀式アリ、而シテ其ノ軍隊亦多少ノ編制ヲ備ヘタルコトハ、前二章ニ述ベシ所ノ事實ニ依リテ明ナリ。故ニ此ノ民種ニシテ容易ク他ノ蠻族ヲ平ゲテ、茲ニ國家ノ基本ヲ定ムルコトヲ得タルハ、怪ムニ足ラス。唯此ノ國家發達ノ道ニ於テ、多少ノ困難ヲ感シタルハ、此ノ民種ノ部内ニ於テ、系統ヨリ起ル階級ノ別アリシニ因ル。此ノ階級ノ別ハ、初メ天孫ト天神地祇トノ區別トシテ、歴史ニ顯レ、後ニ皇別ト神別トノ區別トナルモノ是ナリ。皇別神別ノ稱ハ、弘仁年間ニ萬多親王ノ選進セラレシ姓氏錄名書ニ於テ始メテ用井ラシタル所ナレド、其ノ事實ハ最初ヨリ存セシナリ。

(二)天孫 天孫トハ即皇族ナリ。凡日本民種ニ屬スル者ハ、皆天神ノ後

ニ非サルコトナシト雖、別クテ天孫ト稱スルハ、天照太神ノ嫡統ヲ承ケ給ヘル者ニシテ、即神武天皇ノ東征ヲ議セラル、ニ當リ、諸皇兄及皇子ト指シ給ヒシ所ノモノナリ。建國ノ時ニ當リ、此ノ部ニ屬スル者其ノ數未多カラズト雖、皇親ヲ距ルコト遠キ者ハ臣籍ニ入ルトノ例未有ラサリシニ因リ、世代ヲ經ルニ從ヒ、増加シテ自貴族ノ上流ニ位スル一階級ト成リシナリ。天孫ノ宗家ノ長ヲ天日嗣トシ、其ノ他ノ諸氏ノ長ヲ「臣」ト云ヒテ、次ニ云フ「連」ト區別シタリ。但「オミ」ハ「大身」ノ義ニシテ、後ニ臣ノ字ヲ假用シタルナリ。又大化改制ノ後ハ「真人」ト稱シテ「朝臣」ト區別シタリ。

(二)天神地祇 天神ト云フハ天孫ト同シ民種ニ出テ、天照太神ノ系統ヲ其ノ民種ノ中心ト仰グト雖、亦太神ノ嫡流ヲ承ケタルニ非ス、或ル支流ノ祖神ノ系統ヲ承ケ、天孫ト共ニ此ノ土ニ降來シ、開國ノ偉業ヲ助ケタル功ニ因リ、世々貴族ニ列シ、國政ニ與カルモノヲ稱ス。例ヘハ天兒屋根

命、太玉命ノ如キ是ナリ。又地祇ト稱スルハ、天神ト同シシ支流ノ祖神ヨリ出テ、天照太神ヲ中心ノ遠祖ト仰グト雖、天孫ト同時ニ降來セシニ非ス、却リテ天孫ヨリハ早シ、此ノ土ニ遷來シテ、土蕃ヲ征伏シ、國民ノ端緒ヲ開キ、天孫ノ降臨シ給フニ至リ、其ノ宗家タル故ヲ以テ、地ヲ讓リ命ニ服シタルモノ是ナリ。例ヘバ大國主命、饒速日命ノ類ナリ。天神地祇ハ祖先ニ依リ之ヲ區別スト雖、常ニ同一ノ尊敬ヲ受ケタリ。其ノ諸氏ノ長ヲ初メハ「連」ト稱シ、後ニ「朝臣」ト云ヘリ。又「ムラヤ」ハ「群主」即部長ノ義ナリト云フ。

○三 節 梟 帥 民 種 此ノ民種ハ元一定ノ名稱アルニ非ス。歴史ニハ某ノ地ノ八十梟帥ト云ヘルヨリ、假リニカク名ツケタルナリ。此ノ民種ト次ニ云フ穴居人種トノ差別ハ今ニ於テ明瞭ナラス。或ハ是同一民種ニシテ文化ノ度ヲ異ニスルモノナリト云ヘリ。然レドモ皇軍東征ノ時、處々ノ八十梟帥ハ多少整頓セル軍隊ヲ有シ、之ヲ征伏スルニ幾分ノ軍



略ヲ要シ而シテ何々ノ土蜘蛛又ハ戸畔又ハ祝<sup>イハレ</sup>ト稱スル民族ニ至リテハ一定ノ編制ナク殆兵力ヲ勞スルヲ用井ザリシヲ見レハ是同一民種ニハ非サリシナリ。

此ノ後梟帥民種ハ大ニ西國ニ跋扈シ景行天皇ノ前後ニ至リ日本國民ニ對シ激シキ爭鬪ヲ爲シタリ而シテ其ノ情勢ヲ察スルニ決シテ蕃族ニ非ス思フニ海外ノ民族ト應通シ其ノ煽動ヲ被リ後援ヲ受ケテ機ニ乘シ内地ヲ領有セントシタルモノナリ。八十ハ衆聚ノ義ニシテ梟帥ハ勇猛ノ義ナリト云フ。後ニ熊襲ト稱スル者モ恐ラクハ同シ民種ナルベシ。

○四 節 穴居民種

ユン太古ノ民種中ノ最野蠻ナルモノニシテ多ク水邊ニ部落ヲ爲シ常ニ相凌轢シ男女雜婚シ倫序未タ發達セス冬ハ穴ニ寢ネ夏ハ巢ニ棲ミ山野ヲ走ルコト鳥獸ノ如ク菓<sup>クサ</sup>菌<sup>キノコ</sup>菌<sup>キノコ</sup>茸<sup>キノコ</sup>鳥獸魚介ノ類ヲ料食トシタリ。夫ノ葛網ニ係ケテ誅セラレタルヲ見テモ其ノ智力

ノ陋劣ナリシヲ知ルベシ。逐窘ヲ恐レ人ヲ見レハ逃レテ穴ニ隠ルルカ故ニ穴口ニ草木ヲ充テ火ヲ放チテ薰殺シタルコトモアリ。土蜘蛛佐伯八掬<sup>サヘキヤツ</sup>脛<sup>ヒデ</sup>ノ語意ハ前ニ述ヘタリ而シテ此ノ民種ノ特ニ勇悍ナリシモノヲ蝦夷<sup>エビス</sup>ト曰フ鬚ノ蝦魚ニ似タルヨリ此ノ字ヲ用ウ。又東夷ノ稱アリ。梟帥民種ノ多ク中國以西ニ居リシニ反シ此ノ民種ハ多ク東北ニ居タルモノ、如シ。始メハ野蠻ナリシモ日本民種ノ征伐ニ會フニ及ビテ其ノ劣弱ナル者ハ斃サレシモ強悍ナル者ハ生存スルコトヲ得タルヲ以テ優勝劣敗ノ理ニ因リ亦漸發達シ後ニハ輕ンズベカラザル外敵トナレリ。

○五 節 國家團結

日本國民ノ成分ハ即前述ノ如シ而シテ之ヲ團結シテ一個ノ國家ト爲シシハ如何ナル勢力ニ因レルカト云フニ第一ニ祖先ノ系統ヲ重スルコト其ノ最大原因ヲ爲セリ。天孫ト共ニ降來セシ諸氏即天神ノ諸氏ノ始終天孫ヲ奉戴シテ一心ナカリシモ專此ニ因

ル。又大國主命ノ領土ヲ天孫ニ讓リ、饒速日尊ノ長髓彦ヲ誅シテ歸順シ、其ノ他處々ニ於テ自國神ト稱スル者、即地祇ノ諸氏ノ概抗戰セスシテ歸順シ、或ハ却リテ天孫ヲ嚮導シテ遠征ヲ助ケ奉リシモ、一ニ天孫ノ天照太神ノ嫡流ヲ承ケサセ給ヒシニ因ラスンバ非ズ。即皇別ノ一流ニ於テ、神別ノ諸流ヲ統一スルヲ得タルハ、全ク系統ノ勢力ニ因ルモノナリ。此ノ勢力ニ依リタル結果トシテ、祖神欽崇ト族制保守トハ、日本國家ノ團結ヲ保持スル所以ノ第二勢力トナレリ。族制トハ、親族系統ノ制ヲ云フ。然リト雖夫ノ鼻帥民種ト穴居民種トニ至リテハ、素ヨリ別種ニ屬スルヲ以テ、系統ノ威ヲ以テ制スベカラス。天孫ノ尊キハ、彼等ノ與リ知ル所ニ非ザリキ。故ニ我ノ恃ミテ以テ、彼等ヲ制スベキ所ノモノハ、唯兵力アリシノミ。即武力ハ、國家團結ノ第三勢力トナレリ。磐余彦尊天祖ノ正系ヲ承ケ給ヒ、加フルニ斯ノ武ヲ以テシテ、遂ニ偉業ヲ立ツルコトヲ得給ヒシハ、豈偶然ナランヤ。而シテ兵力ヲ以テ異種民

族ヲ征伏シタル結果トシテ起レルモノハ、尙武ノ風ト奴婢ノ制トナリ。奴婢トハ降伏シタル男女ノ勝者ノ資産トシテ使役セラル、者ヲ云フ。奴婢ノ原因ノ此ニ在ルヲ知ラザレハ、後ニ至リテ之ニ關セル種々ノ法度慣例ノ起リタル所以ヲ明ニシ難カラシ。

○六特殊ノ國體 上ニ述ベシガ如キ民種ヲ、此ノ如キ勢力ヲ以テ

團結シタル結果トシテ、茲ニ起レル日本帝國ノ國體ハ、世界萬國ト大ニ其ノ趣ヲ殊ニセリ。其ノ理由ヲ明ニスルコト最重要ナリトス。而シテ其ノ異ナル點ハ、我が國家ノ組織ハ單純ニシテ、支那及泰西ノ國家ノ組織ハ複雜ナルニ在リ。我が國ニ於テハ皇別ト云ヒ神別ト云フモ、天孫ト云ヒ天神地祇ト云フモ、唯嫡支ノ系統ヲ異ニスルニ因リテ階級ヲ異ニスルノミ、民種ニ至リテハ皆一ナリ。而シテ民種ノ異ナル者ハ、鼻帥民種ノ如キ穴居民種ノ如キ、悉皆誅戮セラレタルニ非ザレバ、則奴婢トシテ國家公民ノ資格ヲ許サレザリキ。故ニ日本國民ハ日本民種ノミチ

以テ之ヲ組織シタルニ同シ。支那及泰西ハ大ニ之ト異ナリ。支那ノ國  
 牀ハ尙書ニ現然タルガ如ク、懿德ヲ以テ君位ノ基本トセリ。故ニ有德ノ  
 禹ハ卑位ヨリ擧ゲテ帝位ニ登リ、無德ノ桀ハ王位ニ居テ臣下ノ弑  
 スル所トナレリ。人之ヲ論シテ、桀紂ヲ弑シタルハ君トシテ之ヲ弑シタ  
 ルニ非ス。君タルヘキ德ヲ缺キタルガ故ニ、匹夫即一私人ノ君權ヲ恣ニ  
 スル者トシテ之ヲ殺シタルナリト言ヘリ。則支那ハ世襲君主ナリト雖、  
 其ノ君位ノ基ハ道德ニ在リテ、德ヲ失ヘハ位ヲ失フモノトシタリ。是支  
 那ノ國牀ナリ。而シテ支那ノ國牀ハ何ヲ以テ斯ノ如クナルカト言ヘ  
 バ、其ノ因由スル所ハ實ニ姓氏ノ區別ニ在リ。即チ支那ニ於テハ姓ノ制  
 度甚重クシテ、同姓同婚ハ今ニ至ルモ猶之ヲ嚴禁セリ。抑支那ハ大陸  
 ノ一國ナルカ故ニ、崑崙ノ地ヨリ河流ニ沿ヒテ中原ニ入リシ部屬數多  
 アリテ、始メハ別在シ、後ニ合セシ者は諸姓ナリ。而シテ君位ニ登ル者、其  
 ノ己ノ姓ニ屬スル者ヲ治ムルハ、系統ニ依ルコトナレバ、固ヨリ容易ナ

リシト雖、他ノ姓ニ屬スル庶民ヲ治ムルハ甚難カリシナリ。是ヲ以テ  
 尙書ニ百姓ヲ平章シ得タルヲ以テ帝堯ノ德トセリ。即他姓ニ屬スル  
 者ハ、系統ノ關係ニ依リテ制ス可カラザルガ故ニ、善德アルニ非ザレバ  
 其ノ上ニ立チテ君タルヲ得可カラザリシナリ。西洋モ同然ナリ。西  
 洋今日ノ國家ノ模範ハ、多ク之ヲ羅馬ニ取レリ。而シテ羅馬建國ノ次第  
 ナ見ルニ、ロミラスノ部屬ヲ率井テパンテン丘上ニ居ルニ當リ、近隣ノ  
 諸丘ハ他姓ノ部屬ノ居ル處ト爲レリ。サツルニヤ丘上ノサピイン人シ  
 リヤ丘上ノエツルスカ人ノ如キ是ナリ。此等ハ皆伊多利ノ北部ヨリ南  
 遷セル姓族ニシテ、以前ハ同種ニ屬シタリト雖、中途ニシテ分別シ、言語  
 モ大牀ハ同一ナレドモ小差ヲ存シ、又其ノ民祖トシテ拜スル所ノ神祇  
 ナ異ニシタルモノナリ。而シテ當初ハ相和セス、互ニ侵奪ヲ事トシタル  
 モ、後ニ至リテハ協同シテ外敵ヲ防クニ非ザレバ、自他ニ不利ナルモノ  
 アラントスルヨリ、當時最勢ヲ得タル以上ノ三姓ツライブヲ各十氏キ

ユリリニ分チ、三十氏ヲ合シテ一ノ氏會、コンミチヤ、キユリヤタト云ヘ  
ル者ヲ開キ、ロミユラス王位ニ在リト雖、其ノ下ニ令スル所ハ必此ノ會議  
ノ決議ヲ經ヘキモノトシタリ。是即君民共治、賅ノ始メナリ。ロミユラス  
死スルニ至リテ、諸姓ノ間ニ王位ヲ爭フテ以テ、勢其ノ人ヲ民選スルニ  
決シタル事、史乘ニ明々タリ。由是觀之、異姓相聚マリテ成レル國民ノ  
國家ニ於テ元首タル者ハ、血統上ヨリシテ民庶ノ上ニ立ツベキ資格ノ  
全カラサルニ因リ、必他ニ君位ノ基本トスル者アラソコトヲ要ス。即支  
那ハ此ノ基本ヲ道德ニ取リ、羅馬ハ之ヲ協議ニ取レリ。道德ノ始メテ支  
那ニ盛ンニシテ、法律ノ始メテ羅馬ニ盛ナリシハ、固ニ故アルナリ。我  
ガ帝國ハ則然ラズ。民庶ハ悉一姓ナリ、天孫降臨ノ前ニ此ノ土ニ入リテ  
局地ヲ統領シタル者モ、皆其ノ源ハ天孫ト一ナリシテ以テ、神武天皇ノ  
宗家ノ正嫡ニ坐スコトヲ爭フ者ハ曾テ無ク、加マルニ天祖神話ノ顯著  
ナリシテ以テ、其ノ到來シ給ヘルニ逢ヒテ、忽歸順シタリ。而シテ後ニ至

リ海外ヨリ來タル熊襲ノ如キモ、悉ク之ヲ伐チ退ケ、元來島嶼ノ國ナ  
レバ、外民ノ侵入ヲ防クニ利アルヲ以テ、遂ニ他姓ノ部屬ヲ雜ヘズシテ  
國ヲ成スニ至レリ。故ニ我が國家ノ民庶及其ノ子孫ハ、永ク血統上ノ  
關係ヨリシテ、天皇ヲ君ト仰キ奉ルベキ本分アリ。我が民庶ノ中ニハ  
天皇ノ系統ニ代ハリ奉ルベキ資格アル者絶エテ無シ。支那ノ道德上ヨ  
リ君位ヲ動カシ、羅馬ノ風ヲ承ケタル共和諸國ノ協議約束ヲ以テ君權  
ヲ限ルトハ、大ニ其ノ國體ヲ異ニスル所以ノ者實ニ此ニ在リ。

第四章 國民當初形勢

○節一 宮殿ノ構造 上古宮殿ノ構造ハ先中央ニ大柱ヲ堀リ立ツ之ヲ天御柱ト云フ。地下大磐石ノアル處ヲ認メテ堀リ下ゲ之ヲ礎トシテ埋メ立ツルナリ。即チ古語ニ「於底津石根宮柱布刀斯理於原上原峻峙搏風而居ル」ト云フ是ナリ。搏風峻峙トハ宮殿ノ高キヲ云フ。屋根ヲ茅葺キニシテ千木ヲ置キテ風ニ備フ。今ノ神社ノ建築ハ即其ノ遺風ナリ。其ノ柱及床板ハ皆良材ヲ擇ミタリ。故ニ柱則高太板則廣厚日本書紀神代卷下ナド古書ニ言ヘリ。皇孫ノ宮殿ハ此ノ如ク高カリシカバ御垣ノ上ニ遙ニ拔ケ出テ中天ニ聳エテ見エタリ。故ニ之ヲ形容シテ朝日旭のたゞさす宮照ノ日直又ハ夕日日のひてる宮又ハ朝日日のひかげる宮ナド云ヘリ。當時臣下ノ家屋ハ低ク庶民ハ多ク土居シ獨天皇ノ宮殿ノミ宏壯ナリキ。故ニ天皇ヲ大御門トモ云ヘリ。

○節二 朝廷ノ行事 次ニ斯ク宏壯ナル宮殿ノ中ニテ營マンシ事ノ有様ヲ叙センニ其ノ後世ト異ナル所ハ政治ト祭祀トヲ混シ行ハシメルニ在リ。前章ニ述ベタル如ク皇室ノ尊威ハ天祖ノ正統ヲ繼承シ給ヘルニ在ルヲ以テ祖先ヲ欽崇スルハ即國家ヲ統御スル所以ナリシナリ。而シテ天照太神ノ勅ニ「吾が見此ノ鏡ヲ視ルコト當ニ吾ヲ見ルガ如クナルベシ床ヲ同クシ殿ヲ與ニシ以テ齋鏡ト爲スヘシトアリシヲ以テ常ニ神器ヲ宮中ノ正殿ニ置キ天兒屋根命太玉命ヲシテ之ニ配侍セシメラシタリ。又橿原宮ニ至リテハ太玉命ノ孫ナル天富命齋斧齋鉏ヲ以テ山材ヲ採リ正殿ヲ構立ス中略其ノ物既ニ備ハリ諸ノ齋部ヲ率井テ天璽劔鏡ヲ取り正殿ニ安キ奉リ並ニ瓊玉ヲ懸ク其ノ幣物ヲ陳テ殿祭祝詞シ次ニ宮門ヲ祭ル中略此ノ時ニ當リ帝ト神ト其ノ際未遠カラズ殿ヲ同ウシ床ヲ共ニシ此ヲ以テ常ト爲ス故ニ神物官物未分別セズ宮内ニ藏ヲ立テ號シテ齋藏ト云フ齋部氏ヲシテ永ク其ノ職ニ任セ

シムト古語拾遺ニ見エタリ。サレバ此ノ時ハ宮殿ハ神器ノ正宮ニシテ且天皇ノ所在タリシナリ。後世此ノ有様ヲ稱シテ祭政一致ト云フ。

○三禁闕ノ兵衛 系統ト祭祀トニ次ギテハ武力ヲ以テ帝權ノ重ナル基本トシタリシコト前章ニ述ベタルカ如シ。即天孫降臨ノ時既ニ大伴氏ノ遠祖天忍日命來目部ノ遠祖天穗津大來目ヲ帥井背ニ天磐鞞ヲ負ヒ臂ニ稜威ノ高鞞ヲ著ク手ニ天<sup>ハツ</sup>梏弓<sup>ユミ</sup>天羽々矢ヲ捉リ八目<sup>ハツ</sup>鏑矢ヲ副ヘ持チ又頭槌劍ヲ帶ヒ天孫ノ前ニ立チテ遊行降來ス<sup>ト</sup>云フコト見エタリ。而シテ橿原帝宅經營ノ後モ宮闕ノ武備ヲ殊ニ嚴重ニシテ威勢ヲ天下ニ示シ給ヒタリ。此ノ時ヨリシテ兵事ヲ以テ朝廷ニ職ヲ奉スル氏族ニニアリキ。曰ハク物部氏曰ハク大伴氏是ナリ。而シテ大來目ノ氏族ハ常ニ大伴氏ノ手ニ屬シタリ。即古語拾遺ニ道臣命ハ來目部ヲ帥井テ宮門ヲ衛護シ其ノ開闔ヲ掌ル饒速日命ハ内物部ヲ帥井テ矛盾ヲ造備ス<sup>中</sup>然ル後物部乃矛盾ヲ立テ大伴來目仗ヲ建テ門ヲ開キ四方ノ

國ヲ朝セシメ以テ天位ノ貴キヲ觀セシムトアル是ナリ。物部氏ハ饒速日命ヨリ出テ大伴氏ハ日<sup>後</sup>臣命<sup>後</sup>ニ道臣命<sup>後</sup>ヨリ出ツ天忍日命ノ後ナリ。而シテ來目部ノ長ヲ大來目氏ト云ヒキ。

天忍日命武勇ヲ以テ天孫ヲ助ケ奉リタルヨリ其ノ玄孫ナル日臣命モ亦磐余彦尊ノ東征ニ從ヒ督將元戎ヲ率井テ兇渠ヲ剪除シ命ヲ佐ケタル功肩ヲ比アル者有ルコト無カリキ<sup>古語拾遺</sup>因リテ朝廷之ヲ重シテ世大將ノ分ニ居ラシメ給ヘリ。然ルニ饒速日命モ亦虜ヲ殺シ衆ヲ帥井テ官軍ニ歸順シタル忠誠ノ効ニ因リ殊ニ褒寵ヲ蒙リ<sup>古語拾遺</sup>世武ヲ以テ朝廷ニ事フルコトナレリ。一書ニ饒速日命降來ノトキ五部造ヲ伴領トシ天物部二十五人ヲ率井テ供奉セシムトアリ。即一隊二十五人ヲ五部ニ分チ各部ニ一造ヲ置キタルモノナリ。按スルニ兵權ハ重大ナリ之ヲ一家ニ專任スルハ以テ安全ノ策ト爲ス可カラズ故ニ斯ク二氏ニ分配セラレタルモノカ天孫深慮ノ坐シマス所今ヨリ伺ヒ知ルニ由

無シト雖、後ニ至リ此ノ二氏權勢ヲ争フコトアリ。故ニ此ニ其ノ伏線ヲ設クルナリ。

來目ハ又久米ト書ス。クミノ義ニシテ、大伴氏其ノ部下ノ人數ヲ組ミ立テ、一隊トシタル稱ナリト云フ。大來目ハ此ノ一部ノ人數ノ部長ナリシガ、其ノ系統ハ、日臣命及ヒ饒速日命ニ比スレバ遙ニ卑カリシガ如シ。後ニ來目部ノ中ヨリ、鞆負部ト稱スル一派ヲ生シタリ。

○四節 祭政ノ供給 朝廷ニ於テ斯ク祭祀ヲ營ミ、兵備ヲ嚴ニシ給フニハ、多ク資財ヲ要シタルナルヘシ。此ノ資財ハ何如ニシテ之ヲ供シタルカト云フニ、天皇ハ天祖ノ正統ヲ繼ギ給ヘル故ヲ以テ、自餘ノ諸氏ニ代リ、天神地祇ヲ禮祭シ給フトシテ、諸氏ヲ地方ニ遣リ、代々産物ヲ貢セシメ、以テ祭政ノ費ニ充テラシタルモノナリ。サレバ我が國ニ於テハ人民納稅ノ義務モ神事ヨリ始マリシナリ。古語拾遺ニ、櫛明玉命ノ孫御祈玉ヲ造ル、其ノ裔今出雲國ニ在リ、毎年調物ト共ニ其ノ玉ヲ貢進ス。天

日鷲命ノ孫木綿麻並ニ織布ヲ造ル。仍リテ天富命ヲシテ天日鷲命ノ孫ヲ率井テ肥饒ノ地ヲ求メ、阿波國ニ遣シテ穀麻ノ種ヲ殖エシムトアリ。コノヨリ大嘗ノ年ニハ、阿波ヨリ木綿麻布及種々ノ物ヲ貢クテ例トセリ。又同書ニ、天富命更ニ沃壤ヲ求メ、阿波ノ齋部ヲ分チ率井テ東土ニ往キ、麻穀ヲ播殖ス。好キ麻ノ生スル所ナルガ故ニ之ヲ總國ト上總ト云フ。穀木ノ生スル所ナルカ故ニ之ヲ結城郡ト云フ。阿波ノ忌部ノ居ル所ヲ便阿房郡ト云フ。又手置帆負命ノ孫矛竿ヲ造ル。其ノ裔今分レテ讚岐國ニ在リ、毎年調貢ノ外ニ八百竿ヲ貢ス。コノ其ノ事ノ證ナリト見エタリ。

○五節 臣民ノ住居 神代ハ言フニ及バズ、神武天皇ノ以後ニ至リテモ、臣下ノ家宅ハ高ク構造セザリキ。又皇族ノ宮殿ト臣下ノ家宅トハ區別アリ。皇族ノ宮殿ハ屋上ニ堅魚木ヲ設ク、以テ風鎮ト爲シタレドモ、臣下ノ家宅ハ堅魚木ヲ上ゲズ、繩ヲ用井テ葦ヲ結ヒタリ。雄略天皇ノ紀下

民ニ至リテハ皆穴居シタリ。蓋下民トハ天孫ト共ニ降來セシ諸民并ニ  
 舊來此ノ地ニ在リシ諸部ノ酋長ニシテ、特功ニ依リ擧用セラレタル者  
 ノ外テ假リニ稱スル語ナリ。而シテ神武天皇以後ハ其ノ誘導ニ依リ  
 家屋ニ住居スル風漸ク起リタリト雖、尙一時ニ舊習ヲ去ルコトノ不便  
 ナリシヲ以テ、最初ハ土ヲ深ク堀リ下ゲ、其ノ穴ノ内ニ家屋ヲ作リテ住  
 ミタリ。是穴中ニ居レハ、寒暑並ニ凌キ易キニ因ルト云フ。而シテ其ノ屋  
 根ノ軒端ハ幾ハクモ地上ヲ離レヌ。故ニ出入ノ爲ニ穴ノ縁ヲ斜ニ穿チ  
 テ道ヲ開キ、其ノ所ヨリ這ヒ入り這ヒ出デタリ。今尙家ノ出入口ヲ這入  
 口ト云フ。バ古語ノ遺レルナリ。又其ノ内部ノ形狀ヲ按ズルニ、先大牀  
 ニ薦ヲ藉キ、其ノ上ニ臥テ體ノ上ニ絹或ハ布ノ類ヲ掩ヒ、牀ノ周圍ニハ  
 防壁ヲ立テタルガ如シ。古事記中卷神武天皇ノ條下ニ、天皇伊須氣余理  
 比賣ノ許ニ幸シ、一宿御寢座也。後伊須氣余理比賣宮内ニ參入タマフ時、  
 天皇御歌ニ曰、阿斯波良能志祁去岐袁夜邁須賀多多美伊夜佐夜斯岐豆

和賀布多理泥斯トアリ、志祁去岐袁夜ハ醜小屋ナリ。須賀多多美ハ菅疊  
 ナリ。伊夜佐夜斯岐ハ彌清敷ニテ、醜キ小屋ナル故ニ菅疊ヲ敷キ重ネテ  
 清淨ナラシムルナリ。是皇后ノ其ノ自家ニ坐シ、時ノ形狀ナリ。貴族ノ  
 女ノ家宅スヲ尙然リ。况ヤ卑賤ノ輩ニ於テハ、葦茅草ヲドテコソ敷設物  
 トハ爲シタリクメ。而シテ其ノ衾ノ如キハ、古事記上卷八千矛神ト云フ  
 其ノ后神ニ通ヒ給フ條ニ、多久夫須麻佐夜具賀斯多爾云云トアリ。多久  
 夫須麻ハ袴被ナリ。佐夜具ハ其ノ夜被ノサヤサヤト鳴ルナリ。斯多ハ下  
 ナリ。袴ノ木ノ皮ヲ以テ織レル衾ヲ被リテ寢タマヘルヲ云フナリ。太古  
 有勢ノ神スヲ此ノ如シ。况ヤ卑賤ノ者ニ於テハ、藁或ハ茅草ヲ被リテモ  
 寢シナルベシ。穴居考

○六 太古ノ衣服

一般人民ハ上述ノ如ク土居シテ、男ハ食物ニ從  
 事シ、女ハ衣服ニ從事セリ。然レハ衣服ヲ調スルハ專婦女ノ業ニシテ、木  
 皮草皮ノ腺維アルヲ求メ、之ヲ絲ニ績キ以テ衣類ヲ作リタリ。而シテ織



ルコト及染ムルコトモ神代ニ於テ既ニ發明セラレタリ。即太神天窟ニ  
 隠レ給ヘル條ニ、倭文布ヲ織ルコトアルニテ知ルヘシ。蓋織リテ後ニ草  
 汁ヲ以テ染メタルナリ。雪白色ヲ最上等トシ、赤色之ニ次ク。又青色黒  
 色モアリキ。獸皮ハ貴人ヨリ下民ニ至ルマデモ、衣服ニ用非タルコト  
 史冊ニ見エズ。但敷物及器財ニ用非タルモノ、如シ。殊ニ後世ノ様ト  
 異ナルハ、絹織ノ用ナリ。絹織ハ蠶ノ繭ヨリ糸ヲ得テ織リ成スモノナレ  
 ド、最初ハ繭ヲ煮ルコトヲ知ラサル故ニ、口中ニ含ミテ糸ヲ曳キ出セリ。  
 故ニ其ノ糸ニ太キ細キアリテ、良糸ヲ得ルコト難カリシカバ、人民多ク  
 麻穀ヲ用ウルヲ便トセリ。日本書紀神代上卷ニ引キタル一書五穀及蠶  
 ノ初メテ成ル條ニ、蠶ヲ裏合シユチカヘ便絲ヲ抽クコトヲ得タリ。此ヨリ始メ  
 テ養蠶ノ道アリトアルヲ見テ知ルヘシ。口中ノ暖ヲ取リテ絲ヲ曳キタ  
 ランニハ、其ノ曳クコトモ亦速ナラス、不便ナリシコト思フベシ。此ノ如  
 ク養蠶ノ道ハ太古ヨリアリシカド、其ノ繭絲ヲ以テ織ル所ノ絹織ハ粗

製ナリケンバ、人多ク布類ヲ愛シテ絹織ヲ賤シトセリ。ユレ後世ノ人ノ  
 思想ト甚異ナル所ナリ。皇典講究所 講演四十二

○七 節 太古ノ食物 本邦ノ人民ハ最初ヨリ火食ノ術ヲ知リタルコ

ト言フマデモナシ。而シテ神代ニ於テ既ニ五穀ヲ得タルヨリ之ヲ常食  
 トセリ。日本書紀神代上卷ニ曰ハク、天熊人アマクマヒト悉取リテ持チ去リ、而シテ  
 之ヲ奉進ス。時ニ天照太神喜バシテ曰ハク、是ノ物ハ則顯見ワツシキ蒼生アヲヒヒトノ食ヒ  
 テ活クベキモノナリト、則粟稗麥豆ヲ以テ陸田ノ種子ト爲シ、稻ヲ以テ  
 水田ノ種子ト爲シタマフト、ユレ五穀ヲ常食トスル始ナリ。又同書神代  
 下卷天孫降臨ノ條ニ、天照太神ノ勅ヲ載セテ曰ハク、我カ高天原ニ御ス  
 齋庭ノ穗イナホヲ以テ、亦當ニ吾ガ兒ニ御ルヘシト。此ノ種子善ク國土ニ適シ  
 テ成熟繁茂シタルヨリ、瑞穂國ノ號起レリ。魚類ハ之ヲ釣リタリ。又鵜  
 テ以テ取ルコトモアリシニヨリ、養鷓部ウカヒト云フモノアリキ。又籙ヤチヲ用非  
 網ヲモ引キタリ。

○**八太古ノ器具** 本邦ノ人民太古ヨリ劍ト鏡トヲ尊重シタルハ最著キ事實ナリ。殊ニ劍ハ天國ヨリ持テ傳ヘタルモ多ク、而シテ天孫及天孫ニ先チテ此ノ土ニ入リシ諸神ノ土蕃ヲ征服シタルモ、名劍ノ德ニ依ルモノ多シ。ザンバ大國主命ハ出雲ヲ天孫ニ讓リ給フトキ、其ノ帶ク所ノ平國廣矛ヲ天使ニ附シテ奉リ給ヘリ。又矛、弓、矢、鞞、楯、鞆ノ如キ武器モアリタリ。故ニ神代ヨリ細戈、千足國ノ稱アリキ。兵器精練ニシテ充滿セル義ナリ。又時ニ鐵身石頭ノ劍及木椎ヲモ用井タリ。鏡ハ曾テ此ニ影寫シタル祖神ノ靈ノ永ク留止スル所ナリトシテ、子孫之ヲ尊崇シタルモノカ。祭祀ニ必之ヲ懸シルハ太古ヨリ今ニ至ルマテ、改マラザル習慣ナリ。又裝飾ニハ多ク瓊玉ヲ用井、其ノ種々ナル標品ハ今ニ遺レリ。處々ニ玉造部ノ民アリテ世々之ヲ造ルヲ業トシタリ。飲食ニハ素燒ノ陶器ヲ用ウ。葉盤、半瓮、甕、手扶、瓮等ノ種類アリ。其ノ木葉ヲ縫ヒ合セテ作レルヲカシハデト云フ。飯ヲ盛ルニ用井タリ。皆机上ニ置キテ食ス。

机ツクエハツキスエ盃ノ義ナリ。又鈕アリ斧アリ、以テ木ヲ伐リ家ヲ作ル具トス。陸ヲ行クニハ天羽車ト云フモノアリ、海ヲ行クニハ二枝小舟、土舟、櫂ツボネ、楫ツボネナド稱スルモノアリキ。

第五章 綏靖天皇ヨリ崇神天皇ニ至ル

○節一 綏靖以後八帝 綏靖天皇ハ神滄名川耳天皇ト申ス。神武天皇ノ第三ノ御子ナリ。風姿岐嶷、少ニシテ雄拔ノ氣坐ス。壯ナルニ及ヒテ容貌魁偉、武藝人ニ過ギ給フ。而シテ尙志沈毅ナリ。四十八歳ノ時神武天皇崩シ給ヘリ。神滄名川耳尊、孝性純深ニ坐セルヲ以テ悲慕止ムコトナク、特ニ心ヲ哀葬ノ事ニ留メ給フ。時ニ其ノ庶兄、手研耳命、諒闇ノ際ニ乘シ、二弟ヲ害シ自立タント圖ル。神滄名川耳尊、兄神八井耳命ト陰ニ其ノ謀ヲ知リ、善ク之ガ備ヲ爲シ給ヘリ。山陵ノ事畢ルニ及ビ、弓部稚彥ヲシテ弓ヲ造ラシメ、倭ノ鍛部天津眞浦ヲシテ眞磨ノ鍛ヲ造ラシメ、矢部ヲシテ箭ヲ作ラシメ給フ。弓矢既ニ成ル。尊以テ手研耳命ヲ射殺サント欲ス。會、手研耳命獨片岡ノ大罾中ノ大牀ニ臥ス。尊八井耳命ト相共ニ進入シ、其ノ戸ヲ突キ開キ給ヘルニ、八井耳命ハ手脚戰慄シテ矢ヲ放ツコ

ト能ハス。尊即兄ノ持チ給ヘル弓矢ヲ掣キ取リテ手研耳命ヲ射、一發罾ニ中テ再發背ニ中テ、遂ニ之ヲ殺シ給ヘリ。是ニ於テ神八井耳命慙然自服シ、神滄名川耳命ニ讓リテ曰ハク、吾ハ兄ナカラ懦弱ナリ。今汝特挺シテ自元惡ヲ誅ス。宜ナル哉。汝ノ天位ニ光臨シ以テ皇祖ノ業ヲ承クルコト、吾當ニ汝ノ爲ニ之ヲ輔クヘシト。明年神滄名川耳尊位ニ即キ給フ。在位三十三年ナリキ。

次ヲ安寧天皇トス。綏靖ノ御子ナリ。磯城津彥玉手看天皇ト申ス。在位三十八年ナリキ。

次ヲ懿德天皇トス。安寧ノ御子ナリ。大日本彥耜友天皇ト申ス。在位三十四年ナリキ。

次ヲ孝昭天皇トス。懿德ノ御子ナリ。觀松彥香殖稻天皇ト申ス。在位八十三年ナリキ。

次ヲ孝安天皇トス。孝昭ノ御子ナリ。日本足彥國押人天皇ト申ス。在位百

二年ト稱ス。

次ヲ孝靈天皇トス。孝安ノ御子ナリ。大日本根子彦太瓊天皇ト申ス。在位七十六年ナリキ。

次ヲ孝元天皇トス。孝靈ノ御子ナリ。大日本根子彦國牽天皇ト申ス。在位五十七年ナリキ。天皇ニ二男一女坐ス。第一ヲ大彥命ト曰ヒ、第二ヲ稚日本根子彦大日々天皇開ト曰ヒ、第三ヲ倭迹迹姫命ト曰フ。大彥命ハア阿陪臣ハ阿閉臣、狹々城山君、筑紫國造、越國造、及伊賀臣ノ始祖ナリ。天皇ノ妃伊香色謎命、彦太忍信命ヲ生ミ給フ。是武内宿禰ノ祖父ナリ。次ノ妃直安媛ハ武直安彦ヲ生ミ給ヘリ。

次ヲ開化天皇トス。孝元ノ御子ナリ。在位六十年ナリキ。以上八代ノ間叙スヘキ事變ナシ。但毎代遷都ス。其ノ坐シ、宮名及葬リ奉リシ陵ノ名并ニ史ニ存ス。按スルニ崇神天皇ノ時ニ至ルマテハ、神武ノ業ヲ繼ギ祭事ト權威トヲ以テ社會ヲ團結シ給ヘリシヲ以テ、殊ニ

近畿ノ人民ハ皆善ク王化ニ服シテ、内外ニ安寧ヲ破ルベキ原因トナルモノナカリシナリ。

○**崇神天皇** 第十代ノ天皇ヲ御間城入彦五十瓊殖天皇ト申ス。開

化第二ノ御子ナリ。天皇十九歳ノ時立チテ皇太子ト爲リ給フ。識性聰敏、幼ニシテ雄略ヲ好ミ給ヘリ。既ニ壯ニシテ寬博謹慎、神祇ヲ崇重シ、恒ニ天業ヲ經綸スル心坐シキ。開化天皇崩御ノ時年既ニ六十歳ナリ。即位ノ元年都ヲ磯城ニ遷シ給フ。之ヲ瑞籬宮ト云フ。

四年十月詔シテ曰ハク、惟ニ我が皇祖諸ノ天皇等宸極ニ光臨シ給ヘルハ、豈一身ノ爲ナランヤ。蓋人神ヲ司、收テ天下ヲ經綸シタマフ所以ナリ。故ニ能ク世立功ヲ闡キ、時至德ヲ流キ給フ。今朕大運ヲ奉承シ、黎元ヲ愛育ス。何ソ正ニ皇祖ノ跡ヲ奉遵シテ、永ク無窮ノ祚ヲ保タサラン。其群卿百僚爾ノ忠貞ヲ盡シ、並ニ天下ヲ安クセヨ。亦可ナラスヤト。五年、國內疾疫流行シ、民大半死亡ス。天皇之ヲ憂ヒ、神淺茅原ニ幸シ、八百

萬神ニトシテ大物主神大和ノヲ祭リ又大國魂神ヲ祭リ天社天社ノ國社國社ノ神地神戶ヲ定メ以テ祭神ノ用度ヲ豊ニシ給ヒシカハ疾疫始メテ息ミ年豊ニシテ民安カリキ。

○節三 神人別處

然ルニ六年ニ至リ百姓流離シ或ハ背叛スル者アリ其ノ勢徳ヲ以テ治メ難シ因リテ天皇又頻ニ神祇ヲ祭リ給ヒ又神器ト殿ヲ共ニシ床ヲ同クスルヲ畏レ爲ニ別宮ヲ造リテ之ヲ安置セントシ給ヘリ按スルニ神武建國ノ初ニ於テハ神代ヲ距ルコト未遠カラズ神トシ崇フ念祖ハトシ敬スル心ト異ナル所少ク神器ト處ヲ同クシ給フハ猶父祖ト居テ同クシ給ヘルガ如キ感アリキ然ルニ世ヲ經ルニ從ヒテ崇神ノ念ハ敬祖ノ心ニ勝チ遂ニ朝夕同處スルハ神聖ヲ瀆ス恐アリトシタマウニ至リシナリ大日本史ノ說ニ依レハ太神ノ宮中ヲ出テタマヒシハ神託ニ因レリトイフ乃大倭ノ笠縫邑ニ神籬ヒコロキヲ立テ神鏡神劍ヲ此ニ移シ奉リ皇女豊鍬トヨクサ入姫命ヲシテ之ヲ齋キ祭ラシメ給ヘリ未婚ノ皇女ヲ以テ齋官トスルコト此ニ

始マル而シテ神代ニ神鏡ヲ鑄タリシ石凝姥命ノ子孫ヲシテ別ニ神鏡ヲ摸造セシメ神劍ヲ作リタリシ天目アマメ一箇神ノ子孫ヲシテ別ニ神劍ヲ摸造セシメテ殿内ニ安置シ以テ天皇護身ノ器ト爲シタマフ是ヨリ神器ノ傳來新器舊器ノ二派ニ分レヌ八尺瓊曲玉ハ別ニ新器ヲ造ラス舊物ノマヽ常ニ皇宮ニ置キテ天皇ノ御身ヲ離シ給フコトナカリキ。

○節四 四道將軍

十年七月天皇群卿ニ詔シテ曰ハク道民ノ本教化ニ在リ今既ニ神祇ヲ禮シ災害皆耗キヌ然レドモ遠荒ノ人等猶正朔ヲ受ケズ是未王化ニ習ハサルノミ是ニ群卿ヲ選ミテ四方ニ遣シ朕ノ憲ヲ知ラシメヨト九月大彥命孝元天皇ヲ北陸ニ遣シ武渟川別ヲ東海ニ遣シ吉備津彥ヲ西海ニ遣シ丹波道主命ヲ丹波ニ遣ス皆皇族ナリ天皇四將ニ命シテ曰ハク若教ヲ受クザル者アラバ兵ヲ擧ゲテ之ヲ伐テト以上四人ヲ四道將軍ト稱スルコトハ日本書紀ノ文ヨリ始マリシニテ上古ヨリ此ノ職名アリシニ非ズ是ノ時ニ當リ軍戰ノ術ニ老クマ

ルモノ既ニ物部氏ノ如キ大伴氏ノ如キ者アリキ然レドモ此等ヲ措キテ特ニ皇族ヲ遣サシシハ、皇室ノ尊威ヲ負ヒテ王化ヲ遠荒ニ布カシメ給ハンガ爲ナリ。而シテ兵馬ノ權ハ中古ニ至ルマデ曾テ王室ヲ離ルコト無カリキ。

○節五 武埴安彦背叛

諸將未發セス。時ニ武埴安彦其ノ妻吾田媛ト

反シ、夫ハ山背ヨリ婦ハ大坂ヨリ入リテ帝京ヲ襲ハントス。是ニ於テ天皇五十狹芹彦命ヲ遣リテ吾田媛ノ師ヲ擊タシメ給ヒシニ、大坂ニ遮リテ大ニ其ノ軍ヲ破リ、遂ニ吾田媛ヲ殺ス。又大彦命ト彦國尊命トヲ山背ニ向ケテ武埴安彦ヲ擊タシメ給フ。西軍ト挑川イハレガ今ノ泉川ニ會ス。彦國尊命、武埴安彦ヲ射テ其ノ臂ニ中テ之ヲ殺シ、賊軍ヲ追ヒテ河北ニ至ル。斬首半ニ過キ、屍骨多ク溢レタリキ。

武埴安彦ハ孝元天皇ノ皇子ニシテ、崇神天皇ノ叔父、大彦命ノ異母弟ナリ。其ノ謀反何ノ故ナルヲ知ラズト雖、當時ノ景况ヲ以テ之ヲ察スルニ、

埴安彦身ハ皇親タリト雖、仄ニ支那ノ文化ヲ聞キテ之ヲ喜ヒ、我が邦ヲ不開化トシ、遂ニ朝廷ヲ襲ヒ天位ヲ奪ヒ、古來ノ制令ヲ改メテ以テ天下ヲ一變セント欲セシモノカ、黒川博士然ルニ其ノ敗北ハ却リテ天皇ノ權威ヲシテ強固ナラシメタリ。

十月朔、詔シテ曰ハク、今反者悉誅ニ伏シ、畿内無事ナリ。唯タ海外ノ荒俗ハ騒動未止マス。ソレ四道ノ將軍等今忽ニ發セヨト。是ニ於テ諸將途ニ上リ、北會津ニ至リ、西九州ヲ極ム。翌年四月ニ至リテ歸リ、戎夷ヲ平ゲシ狀ヲ以テ復命ス。是ノ歲異俗多ク歸シ、國內安寧ナリキ。後四十八年ニ、第二子豊城命ヲ遣シテ東國ヲ治メシメ給フ。是上手野君カミツネノ下手野君ノ始祖ナリ。

○節六 弭調手末調

十二年三月、天皇詔シテ曰ハク、朕初メ天位ヲ承

クテ宗廟ヲ護保スルニ當リ、明掩フ所アリ、德綏キコト能ハズ。是ヲ以テ陰陽謬錯シ、寒暑序ヲ失ヒ、疫病多ク起リテ、百姓災ヲ蒙レリ。然レドモ今

ハ罪ヲ解キ過テ改メ、教ク神祇ヲ禮シ、亦教ヲ垂レテ荒俗ヲ綏クシ、兵ヲ舉ゲテ不服ヲ討ツ。是ヲ以テ官ニ廢事ナク、下ニ逸民ナシ。教化流行ハレ、衆庶業ヲ樂ミ、異俗譚ヲ重テ來リ、海外既ニ歸化ス。宜ク此ノ時ニ當リテ更ニ人民ヲ校シ、長幼ノ次第及課役ノ先後ヲ知ラシムヘシト。九月ニ至リ人民ヲ校シ更ニ調役ヲ科シ給フ。之ヲ男ノ<sup>コノ</sup>調、女ノ<sup>タテ</sup>手末ノ調ト云フ。<sup>コノ</sup>調トハ男子弓ヲ以テ獲ル所ノ獸皮ノ類ヲ獻セシムルヲ謂ヒ、手末ノ調トハ女子手ヲ以テ織ル所ノ布絹ノ類ヲ獻セシムルヲ云フ。本邦科税ノ事是ニ於テ始テ史ニ見エタリ。天皇ハ人民ニ代リ神祇ヲ祭リ、不順ヲ制シ、以テ國內ヲ綏クシ給フニ因リ、其ノ資ヲ人民ヨリ徵發シ給ヘルモノニシテ、天皇ヨリ直接ニ一般人民ニ命令ヲ下シ給ヒシコトノ明ニ見エタルモ此ノトキヲ始メトス。然レトモ校民ノコトハ前ニモアリシヲ以テ、三月ノ詔ニ更ニトハ宣ヘルナリ。

○七 造船及堀地 十七年七月詔シテ曰ハク、船ハ天下ノ要用ナリ、

今海邊ノ民船ナキニ由リ甚步運ニ苦シム。ソレ諸國ニ令シテ船舶ヲ造ラシメヨト。十月ニ至リ諸國船舶ヲ造ル。

六十二年七月詔シテ曰ハク、農ハ天下ノ大本ナリ。民ノ恃ミテ以テ生ス所ルナリ。今河内狹山ノ埴田水少シ。是ヲ以テ其ノ國ノ百姓農事ヲ怠ルソレ多ク池溝ヲ開キ、以テ民業ヲ寬メヨト。十月、依網池ヲ造リ、十一月、菟坂池、反折池ヲ作ラシメ給フ。

六十八年十二月、天皇崩御ス。時ニ年百二十歳ト傳フ。皇太子活目尊位ヲ嗣キ給フ。之ヲ垂仁天皇トス。崇神天皇能ク神祇ニ事ヘ、民庶ヲ統ベ給ヒシヲ以テ、風雨時ニ順ヒ、百穀用テ成リ、家給リ人足リ、天下太平ナリキ。故ニ稱シテ御肇國天皇ト申ス。

○八 海外交通 神武以來數百年間靜穩無事ナリシ國家ノ、崇神天

皇ノ時ニ至リ、俄ニ多事トナリシハ何ノ故ゾト云フニ、此ノ時ニ於テ日本ノ社會ハ外國ノ人民ノ爲ニ刺激セラレタルニ因ルモノナリ。開化

天皇ノ末年ヨリ、我カ中國及西國地方ノ人民ニシテ、朝鮮及支那ニ交通セシモノ往々之アリキ。此等ノ人民ハ、漢國ノ文藝事物ノ進歩シタルヲ見シナラン。又支那及朝鮮ノ人民ノ、我ガ海邊諸國ニ住居シテ、我ガ邦一般人民ノ未知ラサル工藝ヲ齎シ制度ヲ傳ヘシモアリシナラン。是ニ於テ我ガ國ノ人民ニシテ、固有ノ事物ノ固陋ナルヲ歎シテ、外邦ヲ慕ヒシ者モアリシナルベク、外邦ノ官民ニシテ、此ノ勢ニ乘シテ權勢ヲ我が境域ニ振ハシテ試ミシ者モアリシナルベシ。其ノ證トスベキハ、天皇六年ノ詔ニ、百姓流離シ、或ハ背叛スルモノアリトノリ給ヒ、又七年天皇ノ御夢ニ大物主神ノ天皇ニ諭シ給ヘリシ語中ニ、吾ガ見大田々根子ヲシテ吾ヲ祭ラシメバ、則立ニ平カシク海外ノ國ニアリテハ自當ニ歸伏スヘシトアリ、十年ノ詔ニ、然レドモ遠荒ノ人等猶正朔ヲ受ケズ。是未王化ニ習ハザルノミトアリ、十年ノ詔ニ、畿内無事ナリ。唯海外ノ荒俗ハ騷動未止マス。トアル是ナリ。而シテ四道將軍ヲ發シテ不順ヲ制セシメ給ヒ

シニ因リ、海外人民ノ我ガ境内ニ在ル者、其ノ敵シ難キヲ知リテ歸順セシテ以テ、十一年ノ紀ニ、異俗多ク歸シ、國內安寧ナリト見エ、十二年ノ詔ニ、異俗驛ヲ重テ來リ、海外既ニ歸化ストアルニ至リシナリ。

○九三韓トノ關係 是ノ時ニ當リ、漢地ハ我ト唇齒ノ關係ヲ爲シ、

其ノ動靜ハ常ニ我ニ影響セリ。初メ韓地ハ馬韓一統シテ辰國ト稱ス。漢ノ初メ其ノ西境ナル朝鮮ノ王準、燕人衛滿ニ逐ハレ、馬韓ニ亂入シテ王ト稱ス。尋イテ馬韓之ヲ滅シ、辰國ヲ復ス。ユンヨリ先秦人國難ヲ避ケテ韓ニ徙ル。馬韓其ノ東界ノ地ヲ與ヘテ之ニ居ラシム。種族漸ク繁殖シ、辰韓ト稱ス。其ノ南方ノ韓種亦別レテ辨韓ト稱ス。百濟ハ其ノ一ナリ。馬韓ハ西方ニ在リテ三韓ノ中最大ニ、五十餘部落アリ。辰韓ハ其ノ東ニ位シテ十二部落アリ。辨韓ハ辰韓ノ南ニ位シテ亦十二部落アリ。此ノ三ヲ合シテ三韓ト云フ。即今ノ朝鮮國ノ在ル所ナリ。然ルニ日本ニテ三韓ト云フトキハ、此ノ三國ヲ指ス場合モアランド、重ニ其ノ中ノ小國ニテ



使人ヲ蘇那曷叱知ト云ヒキ。  
伴那其國名ハ崇神ヲ白ク、御崇神ヲ賜ハリト云フ後アリ

略史國帝 (八六)

日本ト直接ノ關係アリシ新羅百濟高麗ヲ指スコト多シ。新羅ハ元辨  
韓ノ中ノ一部ナリ。南ト東トニ海ヲ受ケテ最日本ニ近ク、百濟ハ馬韓ノ  
中ニシテ新羅ノ西北ニアリ。西ト南トニ海ヲ受ケ、北ニモ小海アリ。高麗  
ハ古朝鮮ノ北方ニ位シ、元三韓ノ中ニハアラザリシナリ。  
初メ神代ノ時ニ當リテ、月讀尊ノ經畧シ給ヒシ滄海ハ、蓋此ノ地方ヲ指  
スモノニシテ、素盞鳴尊五十猛命モ亦嘗テ新羅ニ往キ給ヒ、大國主神ノ  
時ニハ、新羅ノ王子天日槍我が邦ニ歸化セリ。神武天皇東征ノ時、稻氷命  
亦此ニ航シテ國王トナリ、其ノ裔蕃衍シタリト云フ。サレバ當初ハ我が  
邦ノ版圖中ニ在リシモノナレド、天祖一統以來カテ内治ニ用井給フコ  
ト多端ニシテ、餘力ヲ外蕃ニ展ベ給フニ及バザリキ。是ヲ以テ漸皇化ニ  
遠ザカリ、往來途ニ絶エタルモノナリ。  
崇神天皇ノ教化遠キニ覃フニ及ビテ、任那始メテ入貢ス。任那ハ新羅ノ  
西南ニ在リテ三韓ノ外タリ。本名ヲ加羅ト云フ。十小國ノ總名タリ。其ノ

第六章 垂仁天皇及外患

帝 國 史 略

○節一 狹穗彦反ス 垂仁天皇ハ活目入彦五十狹茅天皇ト申ス。崇神第三ノ御子ナリ。幼ニシテ岐嶷壯ナルニ及ビテ。倭備大度率性眞ニ任シ。矯飾シ給フ所ナカリキ。二年狹穗姫ヲ皇后ト爲シ。後譽津別命ヲ生ミ給フ。都ヲ纏向ニ移シ。之ヲ珠城ノ宮ト云フ。後ニ丹波道臣ノ女日葉酢媛命ヲ立テ、皇后トシ。三男二女ヲ生ミ給ヘリ。五十瓊敷入彦命、大足彦尊、大中姬命、倭姬命、稚城瓊入彦命是ナリ。

四年九月、皇后ノ母兄狹穗彦王謀反シ。皇后ノ燕居ヲ伺ヒ。説キテ曰ハク、ソレ色ヲ以テ人ニ事フル者ハ、色衰ヘバ寵緩ム。今天下佳人多シ。各遞ニ進ミテ寵ヲ求メン。豈永ク色ヲ恃ムコトヲ得ンヤ。冀ハクハ吾鴻祚ニ登リ、必汝ト與ニ天下ニ照臨セン。則枕ヲ高クシテ永ク百年ヲ終フベシ。亦快ナラスヤ。請フ我が爲ニ天皇ヲ殺セト。仍リテ七首ヲ取リテ皇后ニ授

垂 仁 天 皇 及 外 患 (一七)

ク。皇后固ヨリ天皇ヲ弑シ奉ルコトヲ欲セズト雖、兄王ノ志亦變ズ可カラザルヲ知リ、爲ス所ヲ知リ給ハズ。翌年、天皇來目ニ幸シ、高宮ニ坐ス。時ニ皇后ノ膝ニ枕シテ晝寢給ヘリ。皇后兄王ノ謀ル所ハ唯此ノ時ナリト思シ、若天皇ヲ弑シ奉ラザンバ、則天皇ノ兄王ヲ殺シ給フニ至ルベキヲ悲ミ、涙流シテ天皇ノ面ニ落ツ。天皇忽寤メテ、皇后ニ語リテ曰ハク、朕今夢ニ錦色ノ小蛇朕カ頸ニ繞ハリ、又大雨狹穗ヨリ降り來リテ朕ノ面ヲ濡セリ。是レ何ノ祥ヤト。皇后即包ム可カラサルヲ知リ、悚恐地ニ伏シ、奏スルニ兄王ノ反狀ヲ以テシ給ヘリ。天皇皇后ニノリ給ハク、是汝ノ罪ニ非スト。乃近縣ノ卒ヲ發シ、八綱田ニ命シテ狹穗彦ヲ擊タシメ給フニ、狹穗彦稻ヲ以テ城廓ヲ作り、防戦月ヲ踰エヌ。皇后モ亦譽津別命ヲ抱キテ、稻城ニ入り、兄王ノ罪ヲ免サレノコトヲ請ヒ給フ。然レドモ遂ニ免サズ。火ヲ稻城ニ放チテ攻メサセ給フ。是ニ於テ皇后兄王ト共ニ自殺シ給ヘリ。狹穗彦王ハ開化天皇ノ孫彦坐王ノ子ナリ。其ノ反スルハ何ノ

故ナルヲ知ラズ。恐ラクハ武直安彦ト同シク、外邦ノ開化ヲ聞キ、己天皇ニ代リテ制令ヲ改メ、新政ヲ施カント企テタルモノナルベシ。天皇八綱田ノ功ヲ賞シ、武日向八綱田ノ號ヲ賜フ。又武日トモ云ヒキ。

○節倭奴國王後漢ニ通ス。當時外國ノ形勢ヲ考フルニ、崇神天皇ノ末年垂仁天皇ノ初年ニ當リテ三韓ノ分立シタルコトハ、既ニ前章ニ述ヘタルカ如シ。而シテ垂仁天皇ノ中世ニ當リ、支那ハ前漢亡ビ後漢興リテ天下ノ形勢一變シ、制度文物ハ更ニ一層ノ發達ヲ見ルニ至リ、三韓モ亦從ヒテ進歩シタリ。故ニ我が西國ノ人民等私ニ三韓支那ニ通シテ往來シ、特ニ支那ノ大國ナルニ服シテ、彼ノ封冊ヲ受クルヨリ、我が朝廷ヲ輕蔑シテ貢獻セサル者アリ。又彼ノ封冊ヲ受ケザルモ、朝貢セスシテ良民ヲ掠ムル輩アルニ至レリ。コレヲノ事本邦ノ舊史ニハ見エズ。ト雖、後漢書ニ載セラレタリ。且本邦ニモ其ノ疑フ可カラザル證據ヲ存セリ。

後漢書卷ノ一光武本紀ニ、中元二年春正月、東夷倭奴國王遣使獻云云トアリ。又同書卷ノ一百十五東夷傳倭ノ條ニ、光武中元二年、倭奴國奉貢朝賀、使人自稱大夫、倭國之極南界也。光武賜以印綬云云ト見エタリ。此ノ倭奴國王ト云フハ、當時筑前ノ國怡土ノ地ノ縣主タリシ者ヲ言フト云ヘリ。此ノ時光武ノ倭奴國王ニ賜ヒシ印ハ、黄金ヲ以テ鑄造セシモノニテ、我が天明四年二月、筑前國那珂郡滋賀島ノ土中ニ於テ、巨石ノ下ヨリ掘リ出デタル蛇鈕ノ金印即コレナリ。今上野ノ博物館ニ在リ。又同書ニ、倭在韓東南大海中、依山島爲居、凡百餘國、皆稱王、自武帝滅韓、鮮使驛通於漢者三十許國、皆稱王、世々傳統、其大倭王居邪馬臺國トアリ。蓋本邦人民ノ支那ニ往來セシコトハ、周ノ時代ヨリナルコト、王充カ論衡卷ノ八卷ノ十九ナドニ見エテ、甚古キコトナレド、彼ノ國ノ正史ニハ見エズ。降リテ前漢ノ武帝ノ時ヨリ、彼ニ往來シ、後漢ノ光武帝ノ時ニ至リテハ、皆ニ往來スルノミナラズ、彼カ封冊ヲ受クル者アルニ至レリ。西國ノ縣主等

ガ此ノ如ク封冊ヲ受ケシハ、三韓ノ王等ガ之ヲ受ケテ各武威ヲ張リシヲ羨ミテナルベシ。當時三韓ノ王等ハ皆支那ニ内屬シテ封冊ヲ受ケ、各其ノ堵ニ安ンシ居タリ。此ノ事ハ後漢書東夷傳、魏書東夷傳等ニ見エタリ。サレバ當時西國人民ノ智識發達シテ制シ難キニ至リタルハ、是海外諸國ト交際セルガ故ナリ。

○節三 伊勢神宮ヲ起ス。垂仁天皇モ亦父天皇ノ遺志ヲ繼ギ、神祇ヲ敬スルコト更ニ重キヲ加ヘ給ヘリ。二十五年二月、武渟川別阿倍臣倍彦國

葺和珥大鹿島連中臣十千根物部武日大伴連祖ノ五人ニ詔シテ曰ハク、我が先皇御間城入彦五十瓊殖天皇ハ欽明聰達、深執謙遜、志懷仲遠、機衡ヲ綢繆シ、神祇ヲ禮祭シ、己ヲ刺メ躬ヲ勤メ、日一日ヨリモ慎ミ給ヘリ。是ヲ以テ人民富足シ、天下太平ナリキ。今朕ノ世ニ當リ、神祇ヲ祭祀スルコト、豈怠ルヲ得ンヤト。三月、神器ヲ以テ更ニ倭姫命ニ託シ給フ。倭姫命大神鎮座ノ所ヲ求メテ菟田ニ至リ、還リテ近江國ニ入り、東シテ美濃ヲ回リ、

伊勢ニ至ル。時ニ天照太神倭姫命ニ教ヘテ曰ハク、是ノ神風ノ伊勢ノ國ハ、即常世ノ浪シキナミ重浪シカサガ歸國ナリ。傍國ノ可憐國ナリ。是ノ國ニ居ラント欲ス。乃太神ノ教ニ隨ヒ祠ヲ伊勢ニ立テ、齋宮ヲ五十鈴川ノ上ニ興シ給フ。之ヲ磯宮ト云フ。大鹿島命ヲ以テ祭主トス。齋宮祭主並ヒ存スルコト是ノ時ニ始マル。

○節四 兵器ヲ神社ニ藏ス。二十七年、祠官ニ令シテ兵器ヲ神社カミヤト

爲スコトヲトセシメ給ヒシニ、吉ヲ得タリ。故ニ弓矢及横刀ヲ諸國ノ社ニ納メ、仍リテ更ニ神地神戶ヲ定メ、時ヲ以テ之ヲ祭り給フ。按スルニ當時兵庫ノ制未起ラス、而シテ諸國ニ令シ、祭器トシテ武器ヲ守藏セシメ給ヒシハ、一ハ以テ武運ヲ祈リ、一ハ以テ萬一ノ用ニ備ヘ給ヘルナリ。三十九年、皇子五十瓊敷命イハヒコ茅渟チヌノ菟ウサギ砥川上ノ宮ニ坐シテ、鍛工川上部ニ命シ、劍一千口ヲ作ラシメ、石上イソノカミノ神宮ニ藏メ給フ。依リテ天皇五十瓊敷命ヲシテ石上神宮ノ神寶ヲ作ラシメ、楯部タテベ倭ヤマト部ベ神弓削部カミヤリノ神矢作部カミヤサキ大

穴磯部泊櫛部玉作部神刑部日置部大刀佩部並セテ十個ノ部民ヲ以テ命ニ賜フ。五十瓊敷命老イ給フニ及ビテ、妹大中姬代リテ神寶ヲ主リ、遂ニ物部十千根ニ授ケテ治メシメ給ヘリ。是ヨリ物部氏ハ代々石上ノ神寶ヲ治ス。同年又屯倉ヲ來目邑ニ興シ給フ。蓋兵糧ヲ備ヘ給ヘルナリ。

廿六年ニ、天皇十千根ヲ出雲ニ遣リテ、其ノ神寶ヲ校定セシメ、八十八年ニ使ヲ但馬ニ遣シテ、天日槍ノ新羅ヨリ齋シシ七種神寶ヲ檢定セシメ給フ。天日槍ハ前述ノ如ク、新羅ノ王子ニシテ、其ノ歸化ハ神代ニ在リ、夫ノ垂仁天皇ノ初年ニ歸化セリト云フハ自別人ナラン。

○節五 任那ニ日本府ヲ置ク 年月ハ詳ニシ難シトイヘドモ、此ノ

天皇ノ御世ニ、任那ニ鎮守將軍ヲ置カシメ、コソ疑モナキ事實ナリ。姓氏錄ナリニ、吉田連ノ條ニ曰ハク、御間城入彦天皇仁垂ノ御世ニ、任那ノ國奏シテ曰ハク、臣ガ國ノ東北ニ三巴汝ノ地アリ、方三百里ナリ。土地

人民亦富饒、新羅國ト相爭ヒテ、彼是攝治スルコト能ハス。兵伐相尋ギ、民生ヲ聊ゼス。臣將軍ヲ請ヒテ、此ノ地ヲ治メシメ、即貴國ノ部ト爲サント。天皇大ニ悦ビ、群臣ニ勅シテ遣スヘキ人ヲ奏セシメ給フ。卿等奏シテ曰ハク、彦國菴命ノ孫鹽垂津彦ハ、其長五尺、力衆人ニ過ギ、性亦勇悍ナリト。天皇鹽垂津彦ヲ遣ス。勅ヲ奉シテ鎮守ス。彼ノ俗、宰ヲ稱シテ吉ト爲ストアリ。此ノ鎮守將軍即吉ノ居ル所ハ、任那十國ノ一ナル安羅ト云ヒシ國ニテ、後ニ之ヲ日本府ト云ヘリ。彼ノ國人ハ日本ノ鎮守將軍ニ敬服シタリキ。日本書紀欽明天皇ノ條ニ、夫任那ハ安羅國ヲ以テ兄ト爲シ、唯其ノ意ニ從フ。安羅人日本府ヲ以テ父ト爲シ、唯其ノ意ニ從フ。ナド、其ノ國人ノ語ヲ載セタルニテ知ルベシ。

按スルニ、蘇那曷叱知ノ崇神天皇ノ末年ニ來ルルハ、鎮守將軍ノ派遣ヲ請ハシガ爲ナリ。而シテ其ノ事未決セズシテ、天皇崩シ給ヒシナリ。垂仁天皇ノ二年ニ至リ、蘇那曷叱知歸ラント請フ。天皇詔シテ曰ハク、汝ノ

來タルコト先帝ノ世ニ在リ、先帝ノ御名ハ御間城入彦ナレバ、今其ノ遺志ヲ追ヒ、汝ノ國ヲ彌摩那通ナリハ音ト名クベシト而シテ將軍派遣ノ事ハ此ノ後ニ在リシナリ。後漢書ニ垂任那ノ建國ハ光武皇帝ノ建武十五年要津彦ハ彦國葺ノ孫トアリ。而シテ彦國葺ハ垂仁ノ初年ニ尙朝廷ノ

○六節勸農 三十五年、天皇五十瓊敷命ヲ河内國ニ遣シ、高石池ト茅渚池トヲ作ラシメ、又倭ノ狹城ノ池ト迹見ノ池トヲ作ラシメ給フ。同年

又諸國ニ令シテ、多ク溝池ヲ開キ、水理ヲ計ラシメ給ヘリ。是ノ時堀ル所ノ池、其ノ數八百ト稱ス。天皇心ヲ農事ニ用井給フコト、斯ノ如シ。是ニ因リ、百姓富寛ニシテ、天下太平ナリキ。

○七節野見宿禰及角力 垂仁天皇ノ紀事ハ、野見宿禰ニ及ブニ非ザレバ完キヲ得ベカラズ。天皇ノ初年ニ、當麻邑ニ當麻クニハヤ速トイヘル者アリ。人ト爲リ、勇悍、強力能ク、角ヲ毀キ、鉤ヲ伸ブ。恒ニ衆ニ語リテ曰ハク、

「四方ニ求ムルモ我が力ニ比ブベキ者ナキヲ遺憾トス。強力者ニ遇ヒテ、死生ヲ期セス、角争スルコトヲ得ンコト、是吾ガ一生ノ願ナリト。天皇之ヲ聞キ、群卿ニ問ヒテ曰ハク、果シテ當麻速ノ力ニ及ブ者ナキガト。一臣進ミテ曰ハク、臣聞ク、出雲國ニ勇士アリ、野見宿禰ト云フ。請フ召シテ之ヲ試ミ給ヘト。天皇即日人ヲ遣シテ宿禰ヲ召シ、其ノ至ルニ及ビテ之ニ命シテ、速ト角力セシメ給フ。二人相對ヒテ立チ、各足ヲ舉ゲテ相蹶ル。宿禰則速ノ脇骨ヲ蹶折リ、又其ノ腰ヲ踏ミ折リテ之ヲ殺シヌ。因リテ速ノ地ヲ取リテ悉ク之ヲ野見宿禰ニ賜フ。宿禰乃留マリ仕フ。廢

○八節殉死ヲ廢ス 殉死ハ本邦太古以來ノ習俗ナリシナリ。廿八年、天皇ノ同母弟倭彦命薨ゼランシトキ、近習ヲ集メ、生クテカラ埋メテ、陵域ヲ立テタルニ、數日死ナズ、晝夜泣吟ス。死スルニ及ビテハ、衆尸腐爛シ、犬鳥聚リ、瞰ム。天皇其ノ狀ヲ悲傷シ給ヒ、群卿ニ詔シテ曰ハク、生クルト

略史國帝

キ愛セル所ノ者ヲシテ殉亡セシムルハ甚タ傷シ。古風タリト雖、良キニ非サルモノハ何ゾ從ハソ。自今以後議シテ殉ヲ止メヨト。三十二年皇  
 后薨ス。廢殉ノ議更ニ起ル。爰ニ野見宿禰策ヲ按シ、出雲國ノ土部一百人  
 ナ喚上シ、自土部等ヲ領シ、直ヲ取リテ人物及種々ノ物ノ形ヲ造リ、以テ  
 生人ニ易ヘテ陵墓ニ樹テント請フ。天皇大ニ喜ヒテ其ノ議ヲ納レ給ヒ、  
 乃令テ下シテ曰ハク、自今已後陵墓ニハ必此ノ土物ヲ樹ツベシ。人ヲ傷  
 ルコト勿カント。厚ク野見宿禰ノ功ヲ賞シ、鍛地ヲ賜ヒ土部ノ職ニ任シ  
 給フ。因リテ本性ヲ改メテ土部臣トス。是ヨリ土部等世々天皇喪葬ノ事  
 ナ主ル。按スルニ石人ヲ以テ殉ニ易フル風ハ漢土古ヨリ之アリ。而シ  
 テ上世既ニ之ヲ本邦ニ傳ヘタルハ、磐井君ノ墓事繼體天皇ヨリ石人ヲ  
 得タルニテ知ルベシ。サレバ野見宿禰モ亦仄ニ漢風ヲ聞キ、之ヲ摸シタ  
 リシニハ非ザルカ。

○九常世國ニ臻ル 九十九年、天皇遷向宮ニ崩シ給ヒキ。時ニ御歲

百四十歳ト稱ス。是ヨリ先田道間守、天皇ノ命ヲ奉テ常世ノ國ニ至  
 リ、トキシノカクシノコト非時香菓ヲ求ム。今ノ橘ナリ。十年ヲ經テ歸ル。時ニ天皇既ニ坐サズ。田  
 道間守悲歎シテ曰ハク、吾天命ヲ受ケ、百難ヲ冒シ、万里ノ波濤ヲ越エテ  
 絶境ニ往ク。常世國ハ神仙ノ秘區、最臻リ難シ。聖帝ノ神靈ニ頼リ、僅ニ歸  
 ルコトヲ得タルニ、天皇既ニ崩シ給ヒ、復命スル所ナシ。生キテ亦何ノ益  
 アラント。乃天皇ノ陵ニ向ヒ叫哭シテ自死ス。群臣聞キテ皆涙ヲ流ス。  
 按スルニ橘ヲ生ズト云フヨリ推セハ、常世國ハ蓋南海ノ一島ナラン。

○十朝政ノ形勢 本邦政體ノ進歩ニ就キ注目スヘキハ、垂仁天皇  
 ノ朝ニ至リ、朝官ノ實略備ハリシコト是ナリ。崇神天皇ノ時既ニ群卿  
 ニ詔シテ將軍ヲ四道ニ遣シ給ヒシコトアレド、政事ヲ朝臣ニ議ラレシ  
 趣ノ殊ニ明ニ見エタルハ、垂仁ノ朝ヲ始トス。即一事一物群卿ニ計リ、其  
 ノ議ヲ聞キ而ル後制令ヲ發シ給ヘリ。而シテ其ノ群卿ト稱スルハ皇  
 族又ハ臣下大氏ノ氏長ナリシナリ。例ヘハ伊勢神宮ヲ興シ給フ時ニ

於テ詔ヲ受ケタル者五人、其ノ武淳川別命ハ孝元天皇ノ皇子大彥命<sup>四</sup>、將軍ノ後ニシテ阿部氏ノ氏長ナリ。其ノ彥國菴命<sup>武埴安彥</sup>、功アリ乱ヲハ孝昭天皇ノ皇子天足彥國押人命ノ後ニシテ和珥氏ノ氏長ナリ。其ノ大鹿島ハ天兒屋根命ノ後ニシテ中臣氏ノ氏長ナリ。其ノ十千根ハ饒速日命ノ後ニシテ物部氏ノ氏長ナリ。其ノ武日ハ日臣命ノ後ニシテ大伴氏ノ氏長ナリ。即初メノ二人ハ皇別ニシテ、後ノ三人ハ神別ナリシガ如シ。因リテ按スルニ當時未一定ノ官名アラズト雖、朝廷事アル毎ニ皇族ノ功蹟アル者及臣下大氏ノ氏長ヲ集メテ奏議セシメラレシ者ナリ。又野見宿禰ノ如キモ天穗日命ノ十四世ノ孫ニシテ、加フルニ技能アリシニ因リテ、拙テラレテ朝廷ニ任仕シタルナリ。

第七章 景行天皇

○<sup>一</sup>節 帝權擴張ノ原因 景行天皇ハ垂仁天皇第三ノ皇子ナリ。大足彥忍別天皇ト申ス。播磨<sup>イナ</sup>日大郎姫<sup>イナツメ</sup>ヲ立テ、皇后ト爲シ、二男ヲ生ミ給フ。雙生ニ坐ス。因リテ二王ヲ號ケテ大碓命、小碓命ト云フ。小碓命幼ニシテ雄畧ノ氣アリ。壯ナルニ及ビテ容貌魁偉、身長一丈、方能ク鼎ヲ扛ケ給フ。日本武尊ト稱スル是ナリ。天皇又數妃アリ。生ミ給ヘル皇子凡テ八十柱ト云フ。

景行天皇ノ御宇ニ至リ、我が國民ノ權勢ハ頓ニ増進シタリ。其ノ近因ハ天皇ノ武威ニ富ミ給ヒシト、日本武尊ノ非常ノ英雄ニ坐シ、ト、武内宿禰、輔弼ノ大功アリシトニ存スト雖、其ノ遠因ハ實ニ日本國民ノ邊境民種ト存立テ競ヒ、漸之ニ勝ツコトヲ得タルニ因ルナリ。凡社會ハ、外部ノ社會ト存立テ争フニ因リ、其ノ團結強固ヲ致シ、編制緻密ニ赴クコト



古今ノ通理ナリ。景行天皇ノ時ヨリ西ニ熊襲アリ、北ニ蝦夷アリ、時ニ支那モ亦其ノ後援ヲ爲シシガ故ニ、面前我ニ抗敵シ、我彼ヲ斃サマレハ、彼必我ヲ斃サントスルニ至リシハ、是即第一期ノ終ニ於ケル變遷ノ大原由ナリ。

○節 天皇熊襲ヲ征ス。當時日向大隅薩摩ノ地ニ民種アリ、熊襲ト云フ。前ニ所謂梟帥民種ノ後ノ蕃殖セルモノナルベシ。要スルニ天孫ト同種ノ民ニ非ス、而シテ平時ハ大倭ニ在マス。天皇ニ抗敵セズト雖、亦其ノ統治ヲ受クルコトヲ好マサリシモノナリ。一説ニ神武天皇ノ伯父火

爾降命ハ西國ニ居テ、其ノ裔世、熊襲ノ上ニ權勢ヲ得タリト云フ。然ルニ天皇ノ十二年ニ、熊襲反シ勢甚盛ナリ。是ニ於テ天皇親征シ給フ。其ノ途中ノ紀事ハ、頗當時西國ノ物情ヲ知ルニ便ナリ。八月、天皇筑紫ニ幸シ、九月、周芳ノ婆磨ニ到リ、南ヲ望ミテ群卿ニ詔シテ曰ハク、南方ニ烟氣多ク起ツ。必賊アラント。乃留マリテ先多臣ノ祖武諸木、國前臣ノ祖

菟名手、物部君ノ祖夏花ヲ遣ハシテ其ノ狀ヲ察セシメ給フ。爰ニ女人アリ、神夏磯媛ト云フ。一國ノ魁帥ニシテ、其ノ徒甚多シ。天皇ノ使者至ルト聆キ、磯津山ノ賢木ヲ拔キテ、上枝ニハ八咫鏡ヲ挂ク、中枝ニハ八咫鏡ヲ挂ク、下枝ニハ八咫瓊ヲ挂ク、マタ素幡ヲ船舳ニ樹テ、參向シ啓シテ曰ハク、我が屬類ハ必違カシ。今將ニ歸德セントス。唯殘賊アリ。一ヲ鼻垂ト曰フ。妄ニ名ヲ假リ、山谷ニ響集シテ菟狹ノ川上ニ屯セリ。豐前國宇佐ニテ耳垂ト云フ。貪婪殘暴ニシテ、屢、人民ヲ掠略ス。ユレ御木ノ川上ニ屯セリ。豐前國上毛郡ニ在リ。三ヲ麻剗ト曰フ。潛ニ徒黨ヲ集メテ高羽川上。豐前國田川ニ居リ。四ヲ土折猪折ト曰フ。緣野川上ニ隱住シ、山川ノ險ヲ恃ミテ多ク人民ヲ掠ム。此ノ四人ハ、其ノ據ル所並ニ要害ノ地ナリ。各眷族ヲ領井テ一處ノ長ト爲ル。皆曰ハク、皇命ニ從ハシト。願ハクハ急ニ之ヲ擊テト。是ニ於テ武諸木等マツ麻剗ノ徒ヲ誘ヒ、赤衣禪及種々ノ奇物ヲ賜ヒ、兼ネテ不服ノ三人ヲ召サシム。乃衆ヲ率井テ來ル。依リテ悉捕ヘテ之ヲ誅ス。天

皇遂ニ筑紫ニ幸シ、豊前國長峽縣ニ到リ、行宮ヲ興テ、在マス。故ニ其ノ處ヲ號ケテ京ト曰フ。十月、碩田國ニ至リマス。時ニ速見邑ニ女人アリ、速津媛ト云フ。一處ノ長ナリ。車駕到リマセリト聞キテ、自奉迎シ、奏シテ曰ハク、此ノ山ニ大石窟アリ。鼠石窟ト云フ。二ノ土蜘蛛アリ。一ヲ青ト曰ヒ、二ヲ白ト曰フ。又直入縣ノ禰野ニ三ノ土蜘蛛アリ。一ヲ打殺ト云ヒ、二ヲ八田ト云ヒ、三ヲ國摩侶ト云フ。此ノ五人強力ニシテ、衆類亦多シ。皆曰ハク、皇命ニ從ハシト。天皇來田見邑ニ權ニ宮室ヲ建テ、之ニ在シ。群臣ト議シテ曰ハク、今多ク兵衆ヲ動カサバ、土蜘蛛等畏レテ山野ニ隠レ、必後ノ愁ヲ爲サント。乃猛卒ヲ簡ビテ、謀ヲ授ク。山ヲ穿テ、草ヲ排キ、遂ニ稻葉川上ニ至リ、悉石窟ノ土蜘蛛ヲ殺サシメ、進ミテ禰野ノ打殺ヲ討タントシ給フ。禰山ヲ越ユルトキ、賊虜ノ矢雨ノ如ク下ル。天皇因リテ城原ニ返リ、兵ヲ勸シテ先八田ヲ擊テ之ヲ殺シ給フ。打殺勝ツ可カラサルヲ知リ、降ヲ請フト。雖聽シ給ハザリシテ、皆自洞谷ニ投ツテ死ス。

十一月、日向國ニ至リ、行宮ヲ起テ、在マス。之ヲ高屋宮ト云フ。此ニ於テ熊襲ヲ討ツコトヲ議ス。天皇群卿ニ詔シテ曰ハク、朕聞ク、熊襲國ニ厚鹿文、迓鹿文ノ二人アリ。熊襲ノ渠帥ナリ。衆類甚多シ。之ヲ熊襲ノ八十島帥ト云フ。其鋒當ル可カラズ。寡兵ヲ用ウレバ、賊ヲ滅スルニ足ラズ。大軍ヲ動カサバ、百姓ヲ害セン。何如セバ、則鋒刃ノ威ヲ假ラズシテ、坐ナガラ、其ノ國ヲ平ケ得ヘキト。一臣進ミテ曰ハク、熊襲鼻帥ニ二女アリ。姉ヲ市乾鹿文ト曰ヒ、妹ヲ市鹿文ト曰フ。容貌端正ニシテ、心性雄武ナリ。宜ク重幣ヲ以テ、麾下ニ擣納レ、因リテ以テ其ノ消息ヲ伺ヒ、不意ヲ伐ツベシト。天皇此ノ謀ヲ可トシ、二女ヲ召シテ、陽ニ寵シ給フ。市乾鹿文天皇ニ奏シテ曰ハク、熊襲ノ服セザルヲ愁ヘ給フコト勿レ。妾ニ良策アリト。即一二ノ兵ヲ從ヘテ、家ニ返リ、多ク醇酒ヲ設ケテ、父ニ飲マシメ、其ノ醉ヒテ、寢タルトキ、密ニ弦ヲ斷テ、從兵ヲシテ之ヲ殺サシム。天皇市乾鹿文ノ不孝ヲ惡ミテ之ヲ誅シ、妹市鹿文ヲ以テ火國造ニ賜フ。十三年五月、悉熊襲國ヲ

平夕給フ。而シテ尙高屋宮ニ在マス。コト六年ナリキ。  
 十八年三月、天皇還幸セント欲シ、筑紫國ヲ巡守シ、夷守ニ到リマス。是ノ  
 時、石瀬河邊ニ人多ク集マンリ。天皇兄夷守弟夷守ヲ遣リ、視セシメ給フ。  
 弟夷守還リ來リテ奏ス。是諸縣君泉媛、天皇ノ爲ニ大御食ヲ献ラントシ  
 テ、其ノ族ヲ會セルナリト。四月、熊縣ニ到リマス。熊津彦ト云フ者、兄弟  
 二人アリ。天皇先兄熊ヲ召シ給フニ、則使ニ從ヒテ詣ル。而シテ弟熊ハ微  
 ニ應ゼザリシヲ以テ、兵ヲ遣リテ之ヲ誅シ給フ。五月、葦北ヨリ船ヲ發  
 シテ、火國ニ至リ給フ。夜冥クシテ、岸ニ著クコト能ハス。遙ニ火光ヲ視、詔  
 シテ曰ハク、直ニ火ノ所ヲ指セト。則八代縣ノ豊村ニ著クコトヲ得タリ。  
 火ノ主ヲ問ヘドモ、知ルコトヲ得ズ。茲ニ其ノ人火ニ非サルヲ知ル。故ニ  
 其ノ國ヲ名クテ火國ト曰フ。十九年九月、天皇日向ヨリ還御シ給ヘリ。  
 ○三節 日本武尊熊襲ヲ伐ツ 二十七年八月、熊襲又反シ、邊境ヲ侵  
 シテ止マス。皇子小碓命ヲ遣リ、之ヲ討タシメ給フ。小碓命時ニ年十六。熊

襲ノ國ニ到リ、其ノ消息及地形ヲ窺ヒ給フニ、魁帥アリ、名ヲ取石鹿文ト  
 曰ヒ、又川上梟帥ト曰フ。一日、親族ヲ會シテ宴飲ス。小碓命髮ヲ解キテ、童  
 女ノ姿ヲ作シ、劔ヲ裊裏ニ佩キ、宴室ニ入り、婦女ノ中ニ居給フ。川上梟帥  
 其ノ容姿ヲ美トシ、手ヲ携ヘテ席ヲ同クシ、杯ヲ舉ケ飲マシメテ戯弄ス。  
 更深ク入闌クニ及ビ、命劔ヲ抽キ、川上梟帥ノ胸ヲ刺シ給フ。川上梟帥頭  
 ヲ叩キテ曰ハク、且待チ給ヘ。吾言フ所アラント。命劔ヲ留メテ待チ給ヘ  
 バ、君ハ誰人ソト問フ。對テ曰ハク、吾ハ是大足彦天皇ノ子ナリ。名ヲ日本  
 童男ト云フト。川上梟帥啓シテ曰ハク、吾ハ國中ノ強力者ナリ。故ニ我ガ  
 威力ニ從ハサル者無シ。吾多ク武方ノ人ニ遇フ。而ルニ未皇子ノ如キ者  
 ナ見ズ。因リテ尊號ヲ奉ラントス。聽シ給フヘキカト。命之ヲ聽シ給ヘバ、  
 則啓シテ曰ハク、自今以後、皇子ヲ號シテ日本武皇子ト稱シ奉ルベシト。  
 言訖ヘテ劔ヲ通シ、之ヲ殺シ、然ル後、兵ヲ遣リ、悉ク黨類ヲ斬リ給フ。日  
 本武尊歸途吉備ニ到リ、穴海ヲ渡リ給フ。時ニ惡神アリキ、即之ヲ殺シ、又

難波ニ到リテ柏濟ノ惡神ヲ殺シ給ヘリ。蓋惡神ト稱スルハ部屬ノ長ニシテ自神ト稱シ、王命ニ服セザリシ者ナリ。二十八年二月、日本武尊平賊ノ狀ヲ奏セラレシカバ、天皇大ニ其ノ功ヲ美メ給ヒキ。

○四節 日本武尊東夷ヲ伐ツ 是ヨリサキ天皇ノ二十五年ニ、武内

宿禰ヲ遣ハシテ、北陸及東方諸國ノ地形ト百姓ノ消息トヲ察セシメ給

フ。二十七年、武内宿禰還リ奏ス、東夷ノ中日高見國アリ、其ノ國人男女并

ニ推結文身ス。人ト爲リ勇悍ナリ。總ベテ蝦夷ト稱ス。土地亦沃壤ニシテ

曠シ、擊テ取ルベキナリト。然レドモ久シク征伐ノ議ニ及バス。四十年

東夷反シ、邊境ヲ騷ガス。天皇群卿ニ詔シテ曰ハク、今東國不穩、暴神多ク

起リ、蝦夷悉叛シ、屢、人民ヲ略ス。誰人ヲ遣ハシテ其ノ亂ヲ平ゲント。日

本武尊曰ハク、臣則先ニ西征ニ勞セリ。是ノ役必大碓皇子ノ事ナラント。

大碓命之ヲ聞キ、恐怖シテ草中ニ逃ゲ隠レ給フ。天皇使者ヲ遣リテ召シ、

且責メテ曰ハク、汝欲セザレバ豈強ヒテ遣ラシヤ。何ゾ未賊ニ對ハザル

ニ豫懼ル、コトノ甚シキト。此ニ因リ大碓命ヲシテ儲位ニ居ラシメズ、

美野ニ封シテ其ノ國ノ君トシ給ヘリ。日本武尊乃自進ミテ亂ヲ平ケ

ント。詩ヒ給フ。天皇之ヲ許シ給ヒ、乃曰ハク、朕聞ク東夷ハ識性强暴、凌犯

ヲ事トス。村ニ長ナク邑ニ酋ナシ。各封堺ヲ貪リ、並ニ相盜略ス。亦山ニ邪

神アリ、郊ニ姦鬼アリ、衢ヲ遮リ徑ヲ塞キ、多ク人ヲ苦シマシム。其ノ東夷

ノ中ニ蝦夷最強シ。男女居テ交ヘ父子別ナシ。冬ハ則穴ニ宿リ、夏ハ則櫟

ニ住ム。毛ヲ衣血ヲ飲ミ、昆弟相疑フ。山ヲ行クコト飛禽ノ如ク、草ヲ行ク

コト走獸ノ如シ。恩ヲ承ケテハ則忘レ、死ヲ見テハ必報セントス。是ヲ以

テ箭ヲ頭髻ニ藏シ、刀ヲ衣中ニ佩ク。或ハ黨類ヲ聚メテ邊界ヲ犯シ、或ハ

農桑ヲ伺ヒ、以テ人民ヲ略ス。擊テバ則草ニ隠レ、追ヘハ則山ニ入り、往古

以來未王化ニ染マス。今朕汝ノ人ト爲リテ察スルニ、身體長大容姿端正、

力能ク鼎ヲ扛ク。猛キコト雷電ノ如クシテ、向フ所敵ナク、攻ムル所必勝

ツ。即知ル。形ハ我が子ニシテ、實ハ神人ナルヲ、是寔ニ天朕ノ不敵ト國ノ

不平トテ慙ミ、天業ヲ經綸セシメテ宗廟ヲ絶エザラシメントスルカ。是ノ天下ハ即汝ノ天下ナリ。此ノ位ハ即汝ノ位ナリ。願ハクハ深ク謀リ遠ク慮リ、以テ姦鬼ヲ攘ヘヨト。乃吉備武彦ト大伴武日トニ命シテ尊ニ從ハシメ給フ。

帝 國 史 略

十月、東征ノ軍京ヲ發ス。日本武尊道ヲ枉ゲテ伊勢ニ到リ、神宮ヲ拜シ、倭姫命ニ辭シテ曰ハク、今大命ヲ被リ、東征シテ叛者ヲ誅セントス。倭姫命神託ヲ奉シ、叢雲劔ヲ取リテ、日本武尊ニ授ケテ曰ハク、慎ミテ怠ルコト莫レト。同年、官軍駿河ニ至ル。其ノ國ノ賊陽リ降り欺キテ曰ハク、是ノ野ニ麋鹿甚多シ。臨ミテ狩シ給ヘト。尊其ノ言ヲ信シ、野ニ入リテ狩シ給フ時、賊火ヲ放チテ尊ヲ殺サントス。尊佩キ給ヘル叢雲劔ヲ以テ草ヲ薙キ攘ヒ、又燧ヲ鑽リテ向ヒ火ヲ放チ、却リテ悉賊衆ヲ焚キ殺シタマヘリ。因リテ神劔ノ名ヲ改メテ草薙劔ト云ヒ、其ノ地ヲ名ケテ燒津ト云フ。今ノ益頭郡是ナリ。又進ミテ相摸ニ入り、上總ニ往カント欲ス。海中暴

景 行 天 皇 (三九)

風忽起リ、船漂蕩シテ渡ル可カラズ。時ニ尊ノ妃弟橘姫啓シテ曰ハク、今風起リ浪泌クシテ、船將ニ没マントス。是必海神ノ心ナリ。願ハクハ妾ノ身ヲ以テ尊ノ命ヲ贖ハント。言訖ヘテ瀾ヲ披キ海ニ入り給ヘバ、暴風即止ミ、船岸ニ著クコトヲ得タリ。乃上總ヨリ轉シテ陸奥國ニ入り、海路ヨリ葦浦ヲ廻リ、横ニ玉浦ヲ渡リテ蝦夷ノ境ニ臻リ給ヒヌ。時ニ大鏡ヲ船ニ懸ケタリ。蝦夷ノ賊首島津神、國津神等竹水門ニ屯シ拒戰セントス。然レトモ遙ニ尊ノ船ヲ視テ其ノ威勢ニ怖レ、悉弓矢ヲ捨テ、望拜シ、且曰ハク、君ノ容貌ヲ仰キ奉レバ人倫ニ秀テ給ヘリ。神ノ御子ニハ坐サザルカ。願ハクハ姓名ヲ知ラント。尊對ヘテ曰ハク、吾ハ是現人神ノ子ナリト。現人神トハ即天皇ヲ申スナリ。是ニ於テ蝦夷等愈慄レ、裳ヲ褰ク浪ヲ披キ、尊ノ船ヲ扶クテ岸ニ著ク、面縛テ罪ニ服ス。乃其ノ罪ヲ免シ、唯首帥等ノミヲ俘ニシ給ヘリ。

蝦夷既ニ平キヌ、尊乃信濃國及越國ノ王化ニ從ハサル者ヲ征シ給ハン

トシテ甲斐ヨリ北シ武藏上野ヲ經西シテ碓氷ノ坂ニ逮リ弟橘姫ヲ追慕シタマフ情禁ズルコト能ハス峯ニ登リ三嘆シテ吾婦者耶トノリ給フ是ヨリ山東ノ地ヲ稱シテ吾妻ト曰フ。是ニ於テ道ヲ分チ吉備武彦ヲ越國ニ遣シテ地形民情ヲ察セシム。而シテ尊ハ進ミテ信濃ヨリ美濃ニ至リ給フニ武彦越國ヨリ歸リテ此ニ會シ共ニ尾張ニ入ル。尊尾張連ノ女宮寶媛ヲ娶リ滯留月ヲ除エ給フ間ニ近江ノ膽吹山ニ暴神アリト聞キ即神劍ヲ解キテ宮寶媛ノ家ニ置キ徒行シテ膽吹山ニ至リ給ヘリ傳ヘ云フ時ニ山神化シテ大蛇トナリ毒氣ヲ吹キテ尊ヲ苦マシメタリト蓋未開ノ世ハ山谷毒氣多キ處モアリシナラン尊是ニ於テ病ヲ得尾張ニ還リ轉シテ伊勢ノ能褒野ニ至リ給ヘル時ニ御病殊ニ甚シ乃蝦夷ノ俘等ヲ以テ神宮ニ獻シ武彦ヲ遣リテ天皇ニ奏シテ曰ハク臣命ヲ天朝ニ受ゲ遠ク東夷ヲ征ス即神恩ト皇威トニ頼リ反者罪ニ伏シ荒神自調ヘリ曷日曷時天朝ニ復命セント冀フ然レドモ天命忽至リ隙駟停

メ難シ獨曠野ニ臥シテ誰ノ語ルヘキモノ無シ豈身ノ亡スルヲ惜マンヤ唯天顔ヲ拜セサルヲ悲ムノミト遂ニ此ノ所ニ薨シ給ヘリ時ニ年三十天皇之ヲ聞キ晝夜喉咽泣悲シ之ヲ能褒野ノ陵ニ葬リ給フ尊後ニ白鳥ト化シ飛ビテ大倭ノ琴彈原ニ至リ又河内ノ舊市邑ニ至リ給フ因リテ其ノ所ニモ亦陵ヲ建テラレタリ。

○節五 天皇東巡 五十三年八月天皇群卿ニ詔シテ曰ハク朕愛子ヲ願

ルコト何ノ日カ止マン冀ハクハ小碓王ノ平ゲシ所ノ國ヲ巡狩セント欲スト是ノ月乘輿伊勢ニ幸シ轉シテ東海ニ入り十月上總國ニ至リ海路ヨリ淡水門ヲ渡リ給フ時ニ覺賀鳥ノ聲ヲ聞キ其ノ鳥ノ形ヲ見ント欲シテ尋テ海中ニ出テ因リテ白蛤ヲ得給ヒタリ膳臣ノ遠祖名ハ磐鹿六鴈蒲ヲ以テ手織トシ白蛤ヲ膾ニ造リテ之ヲ進ム是ニ於テ六鴈臣ノ功ヲ美メ膳大伴部ヲ賜フ十二月東國ヨリ還リテ伊勢ニ在マセリ之ヲ綺宮ト謂フ抑此ノ東巡ハ唯愛子ヲ追慕シ給ヘル故ノミニ非ズ熊

襲ハ已ニ親征シタマヘルモ、東方ノ平定ハ之ヲ日本武尊ニ委任シ給ヒシガ故ニ、今ニ至リ親ク其ノ地形民情ヲ察シ、以テ國郡ノ經界ヲ定メ、天業ヲ恢弘シ給ハンカ爲ナリシナリ。

帝 國 史 略

○六節 御諸別王ヲ東國ニ封ス 五十五年二月、彥狹嶋王ヲ以テ東山道十五國ノ都督ニ拜シ給フ。是豐城命ノ孫ナリ。王春日ノ穴作邑ニ到リ、病ヲ得テ薨ズ。時ニ東國ノ民王ノ至ラザルヲ悲ミ、竊ニ其ノ尸ヲ盜ミテ上野國ニ持チ歸リ、之ヲ葬レリト云フ。五十六年八月、御諸別王ニ詔シテ曰ハク、汝ノ父彥狹嶋王、未任所ニ赴カズシテ薨ゼリ。故ニ汝ニ命シテ專東國ヲ領セシムト。是ニ於テ御諸別王命ヲ奉シ、父ノ業ヲ成サント欲シ、行キテ之ヲ治メ、早ク善政ヲ得タリ。時ニ蝦夷騷動ス。乃兵ヲ擧ゲテ之ヲ擊ツ。蝦夷ノ首帥足振邊、大羽振邊、遠津闌男邊等頓首シテ罪ヲ受ケ、盡其ノ地ヲ獻ス。王因リテ降ル者ヲ免シテ服セサルヲ誅ス。是ヲ以テ東ノ方久ク無事ナリキ日本書紀。蓋此ニ東山道ト云フハ、後世近江以東ヲ指シ

景 行 天 皇

テ云ヘルト同シカラズ、山東ノ諸國ヲ吾婦國ト曰フナドアルト同シク、信濃ト上野トノ界ノ山ヨリ東ヲ指スナリ。彥狹嶋王ハ狹穗彥謀反ノ時功アリシ八綱田命ノ子ニテ、祖父豐城入彥命ノ時ヨリ世、東國ヲ有チシ因アリ。且政ヲ治ムルオアリシヲ以テ、斯ク數國ヲ統轄セシメラシタルナリ。但都督ト云フハ、日本書紀編纂ノ時ニ付シタル名義ニシテ、當時實ニ此ノ職名アリシニ非ス。

○七節 帝國版圖統一ノ難點 此ノ時代ヲ研究スルニ當リ、地形上

ヨリシテ帝國統治ノ難易ニ影響シタル所以ヲ觀察スルトキハ、後ノ變遷ヲ知ルニ大ナル便利アラソ。抑、日本國ノ地形ハ、東北ヨリ西南ニ延長シ、氣候風土大ニ異ルガ上ニ、西南ハ海ヲ以テ中部ト分離シ、東北ハ山ヲ以テ畿甸ト隔絶セルヲ以テ、中國ヲ本據トシ給ヘル天皇ノ統治ハ、常ニ西國ト東國トニ於テ多クノ障礙ニ遭ヒタリ。故ニ不順ノ徒アル毎ニ、西邊ヲ恃マザレハ必東方ニ據リキ。中古ニ至リテモ全國ニ畫一ノ制

ヲ布クコト能ハズシテ、西ニ太宰府ヲ設ケ、東ニ鎮守府ヲ置カシメ、  
 而シテ四國九州ノ如キハ、其ノ中國ヲ去ルコト甚遠カラズ、加フルニ航  
 海ノ利アリシテ、以テ外國無事ノ日ニ在リテハ、常ニ治平ニ歸シタリト  
 雖、東國ニ至リテハ、碓氷函根ノ峻嶮アリテ、往來ニ便ナラス、隨ヒテ王化  
 ノ此ニ及コト遲々タリキ。是ヲ以テ所謂武士ハ關東ヨリ起リテ、遂ニ  
 京都ノ文政ヲ傾ケタリ。夫ノ平氏ノ如キ、始メハ東國ニ起リシモ、後ニ京  
 師ニ據ルニ及ビテ、忽源氏ノ斃ス所トナリキ。賴朝ノ鎌倉ヲ本據トシタ  
 ルハ、蓋勢ヲ東國ニ失ハサランカ爲ナリ。北條氏モ亦鎌倉ニ居テ京都  
 ニ六波羅ヲ置キ、中國及西國ノ鎮護ト爲シ、以テ其ノ權力ヲ保持スルコ  
 トヲ得タリ。足利氏モ亦之ニ倣ヘリ。徳川氏ニ至リ、更ニ江戸ヲ以テ本  
 據トシ、關西ニ駿府ヲ置キ、又巧ニ親藩ノ制ヲ定メ、以テ三百年ノ治平ヲ  
 致スコトヲ得タリ。知ル可シ、我が國地形ノ歴史ニ影響シタル所亦輕少  
 ナラザリシヲ。

### 第八章 成務天皇及地方制度

○節一 地方制度ヲ定ム。成務天皇ハ景行天皇第四ノ皇子ナリ。景  
 行天皇ノ時西熊襲ヲ伐チ、東蝦夷ヲ征シ給ヒテヨリ、天皇ノ命ヲ承クヘ  
 キ土地人民大ニ増加シタリ。是ヲ以テ成務天皇ニ至リ、此ノ土地人民ヲ  
 統治スル制度ヲ定メ給フニ汲々タリキ。四年、天皇詔シテ曰ハク、我が  
 先皇大足彦天皇聰明神武、錄ニ膺リ圖ヲ受ケ、天ヲ治メ人ニ順ヒ、賊ヲ撥  
 ヒ正ニ反シ、德覆燾ニ伴ヒ、道造化ニ協ヒ給ヘリ。是ヲ以テ普天率土王臣  
 タラサルハナク、稟氣懷靈各其ノ處ヲ得タリ。今朕寶踐ヲ嗣踐シ、夙夜兢  
 惕ス。然レドモ黎元蠢爾、不悛ニシテ野心アリ。是國郡ニ君長ナク、縣邑ニ  
 首渠ナクシテ、自今以後國郡ニ長ヲ立テ、縣邑ニ首ヲ置キ、即當國ノ  
 幹了ナル者ヲ取リテ、其ノ國郡ノ首長ニ任シ、是ヲ以テ中區ノ蕃屏トセ  
 ノ日本紀ト。



五年九月諸國ニ令シテ國郡ニ造長ヲ立テ縣邑ニ稻置ヲ置キ並ニ楯矛ヲ賜ヒテ以テ表ト爲シ給フ山河ヲ隔テ、國縣ヲ分チ阡陌ニ隨ヒテ邑里ヲ定メ、因リテ東西ヲ以テ日縱ト爲シ、南北ヲ以テ日横ト爲シ、山陽ヲ影面ト曰ヒ、山陰ヲ背面ト曰フ。是ヲ以テ百姓居ニ安ンシ、天下事無カリキ日本書紀

古事記ニハ、故建内宿禰ヲ大臣ト爲シ、大國小國ノ國造ヲ定メ賜ヒ、國々ノ境及大縣小縣ノ縣主ヲ定メ賜フト見エタリ。此ノ時ニ於ケル地方官職ノ編制ハ如何ナリシカヲ知ルコト頗難シト雖、要スルニ後世ノ如ク一統セル職制アリシニ非ズ、其ノ大躰ハ左ニ述ブル所ノ如クナリシナルヘシ。

皇子皇孫ノ特ニ智勇アル者ヲ選ミテ地方ニ遣シ、數國ヲ鎮撫セシメタマヘルモノ之ヲ別ワケ或ハ和氣ト書スト云フ。然レドモ國中至ル所別ノ管轄タリシニ非ズ、唯要地ニノミ之ヲ置カシタルモノナルベシ。且此ノ

37547

職ヲ置カシメハ專皇室ノ威勢ヲ地方ニ暉シ給フヲ以テ目的トシ、平時ノ政務ハ之ヲ國造縣主ニ委任セラレタリシモノ、如シ。

別皇子ノ在ス所ニテハ其ノ下ニ立チ別皇子ノ在サヌ所ニテハ獨立シテ土地人民ヲ支配シタル者ヲ國造及縣主トス。其ノ國ト云ヒ縣ト云フモ唯大小ノ差アルノミ、等級ノ別アリシニ非ズ。故ニ又之ヲ總シテ國ト云ヘリ。古ノ縣ニシテ後ニ郡トナリタルモノ多キニヨリ、或ハ國ノ内ニ縣アリシガ如ク思フベク、レドモ其ノ實ハ然ラサルコト、神武天皇ノ功臣ヲ或ハ國造ニ封シ、或ハ縣主ニ封シタマヘルニテ知ルベク、又古事記ニ「大國小國ノ國造、大縣小縣ノ縣主」ト續ク云ヘルニテモ知ルベシ。上文ノ詔ニ「國郡ニ國造ヲ立テ」トノリタマヘル郡ハ、後ヨリ指シタル詞ニシテ、即縣ヲ云フナリ。而シテ縣主ヲモ國造ト云フ中ニ含メタルモノナリ。

次ニ國及縣ノ内ヲ更ニ分チテ村邑トシ、稻置ヲシテ之ヲ主宰セシメラレタリ。上文ノ詔ニ「村邑ニ稻置ヲ置キ」トアル是ナリ。稻置ハ國造縣主

ノ下級ニ立チテ其ノ命ヲ奉シタルガ如クナレド其ノ關係ハ今ニ於テ  
明確ニ知リ得ベキニ非ス。

○節別皇子 日本書紀景行天皇ノ條ニ七十餘子皆國郡ニ封セラレ、  
各其ノ國ニ如ク故ニ當今諸國ノ別ト謂フ者ハ即其ノ別王ノ苗裔ナリ  
ト見エ古事記ニ七十七王ハ悉國々ノ國造亦和氣及稻置縣主ニ別ク賜  
ヒキト見エタリ。和氣ト云フ稱ハ是ヨリ以前古事記境岡宮ノ段ニ血  
沼別多遲麻竹別アリ伊邪河宮ノ段ニ葛野之別近淡海蚊野別若狹耳別  
三川穗別ナド見エタレド其ハ未一國ト云フガ如キ廣大ナル土地ヲ治  
ムル職名ニハ非ザリシナリ。而シテ景行ノ御世ニハ皆一國トモ云フ  
ヘキ州縣ヲ皇子等ニ授ケタマヘルヲ以テ其ノ權勢ハ國造縣主ノ上ニ  
出テ自餘ノ地方諸官ヲ總管シタルモノ、如シ今其ノ一二例ヲ言ハ、  
水沼ニハ水沼縣主アリシカド國乳皇子ハ水沼別トナリテ尙廣ク其ノ  
上ヲ管轄シ火國ニハ火國造アリシカド豊戸別皇子ハ火國別トナリテ

尙廣ク其ノ上ヲ統治セラレタル類ナリ。其ノ後孝德天皇大化二年正  
月改新ノ詔ニ昔在天皇立テタマヘル子代ノ民處々ノ屯倉及別臣連伴  
造村首ノ所有ノ部曲ノ民ヲ罷ムトノリタマヘルニテモ別ハ國造ノ上  
ニ在リシコトヲ知ルヘシ。

○節三國造 國造ハクニノミヤツコト訓ム國トハ古事記ニ大國小國  
ト云ヘルガ如ク廣大ナル區域ニシテ後ニ一國ト立テラレシモノモア  
リ又一郡一郷バカリノ狹小ナル區域ヲモ云ヒシナリ。大和地方ニテ言  
ハバ吉野ヲモ吉野國ト云ヒ泊瀬ヲモ泊瀬國ト云ヒタリ。サレバ國造  
ヲ封シタル國々ニモ大小アリテ其ノ大ナルハ筑紫國造紀伊國造科野  
國造高志國造ノ如キ皆後ノ一國ニモ當ルベク其ノ小ナルハ葛城國造  
岡雞國造等イヅレモ大和國內ノ一地ニ過キサリキ。又東國ニハ須惠國  
造上郡馬來田國造同郡上海上國造同郡伊甚國造同郡武社國造同郡  
菊麻國造同郡等アリキ。是皆上總國ノ一地方ナリシナリ。又筑波國造

筑波茨城國造同茨城郡新治國造同新久目郡久高國造同高野郡多仲國造同多那郡等アリキ。是亦常陸國ノ一地方ナリシナリ。カク大小ノ差別アリシヲ古事記ニハ總シテ大國小國ノ國造ト云ヘルナルヘシ。「ミヤツコ」ノ名義ハ「ミ」ハ御ナリ、「ヤツコ」ハ家之子ナリ。天皇ヨリ臣下ヲ親ミテ宣フ稱ナリ。故ニ臣ノ字ヲ充ツレドモ、臣ニハ別ニ「オミ」ト云フ訓アリテ、特ニ宮廷ニ奉職スル者ヲ指シ、廣ク諸人ニハ及ハズ。「ヤツコ」ハ廣ク一般ノ臣民ニ亘ル語アルナリ。

古ハ天皇ニ對シ奉リテハ、上ハ大臣ヨリ下ハ諸人ニ至ルマデ皆「ヤツコ」ナリシナリ。サレバ國造ハ國ヲ宰ムル御臣ノ謂ナリ。サテ國造トシテ地方ヲ治メシムルニハ如何ナル人物ヲ用井ラレタルカト云フニ三種アリシガ如シ。曰ハク功臣、曰ハク土着ノ酋長、曰ハク皇子是ナリ。神武天皇登極ノ初、椎根津彥命ヲ大倭國造ニ、劍根命ヲ葛城國造ニ、彥己曾保理命ヲ凡河內國造ニ、阿多根命ヲ山代國造ニ、天日別命ヲ伊勢國造ニ爲シ

タマヘルハ、功臣ヲ封セラレタルナリ。又美志印命ヲ遠江ノ素賀國造ニ、天道根命ヲ紀伊國造ニ、宇佐都彥命ヲ宇佐國造ニ、弟猾ヲ猛田縣主ニ、弟磯城ヲ磯城縣主ニ、建彌己命ヲ嶋津縣主ニ爲シタマヘルハ、舊國ノ主ヲ其ノマヽニ封セラレタルナリ。此ノ朝廷ニ於テ國ヲ割キテ臣下ニ賜ヘル事ノ始ナル。

神武天皇ノ御代ニ置キ給ヘル國造凡九國、開化天皇ノ御代ニハ一國、崇神天皇ノ御代ニハ十一國、景行天皇ノ御代ニハ七國、合セテ二十八國ナリシヲ、成務天皇ノ御代ニ更ニ六十三國ヲ建テサセ給ヒキ。其ノ國々ハ左ノ如シ。

伊賀國造

嶋津國造志摩郡

尾張國造

參河國造

遠淡海國造遠江郡

珠流河國造駿河郡

廬原國造駿河郡

相武國造相模郡

師長國造同餘長郡

无邪志國造武藏郡

須惠國造上總郡

馬來田國造同望都郡

上海國造 <small>同海郡</small>	伊甚國造 <small>同夷郡</small>	武社國造 <small>同武郡</small>
菊麻國造 <small>同市原郡</small>	阿波國造 <small>安房</small>	新治國造 <small>常陸郡</small>
仲國造 <small>同郡</small>	久自國造 <small>同久郡</small>	高國造 <small>同郡</small>
近淡海國造 <small>近江</small>	額田國造 <small>同額郡</small>	三野後國造 <small>美濃</small>
斐陀國造 <small>飛騨</small>	阿尺國造 <small>同積郡</small>	思國造
伊具國造 <small>同陸奥郡</small>	染羽國造 <small>同標郡</small>	浮田國造 <small>同多郡</small>
信夫國造 <small>同信郡</small>	白河國造 <small>同河郡</small>	石背國造 <small>同代郡</small>
石城國造 <small>同城郡</small>	高志國造 <small>同高志郡</small>	能登國造
三國國造 <small>同前坂井</small>	角鹿國造 <small>同賀郡</small>	丹波國造
伊彌頭國造 <small>同水郡</small>	佐渡國造	稻葉國造 <small>同因幡</small>
但遲麻國造 <small>同但馬</small>	二方國造 <small>同方郡</small>	針間鴨國造 <small>同賀郡</small>
伯岐國造 <small>同伯耆</small>	針間國造 <small>同播磨</small>	大島國造 <small>同周防郡</small>
吉備品治國造 <small>同備後品</small>	阿岐國造 <small>同安藝</small>	

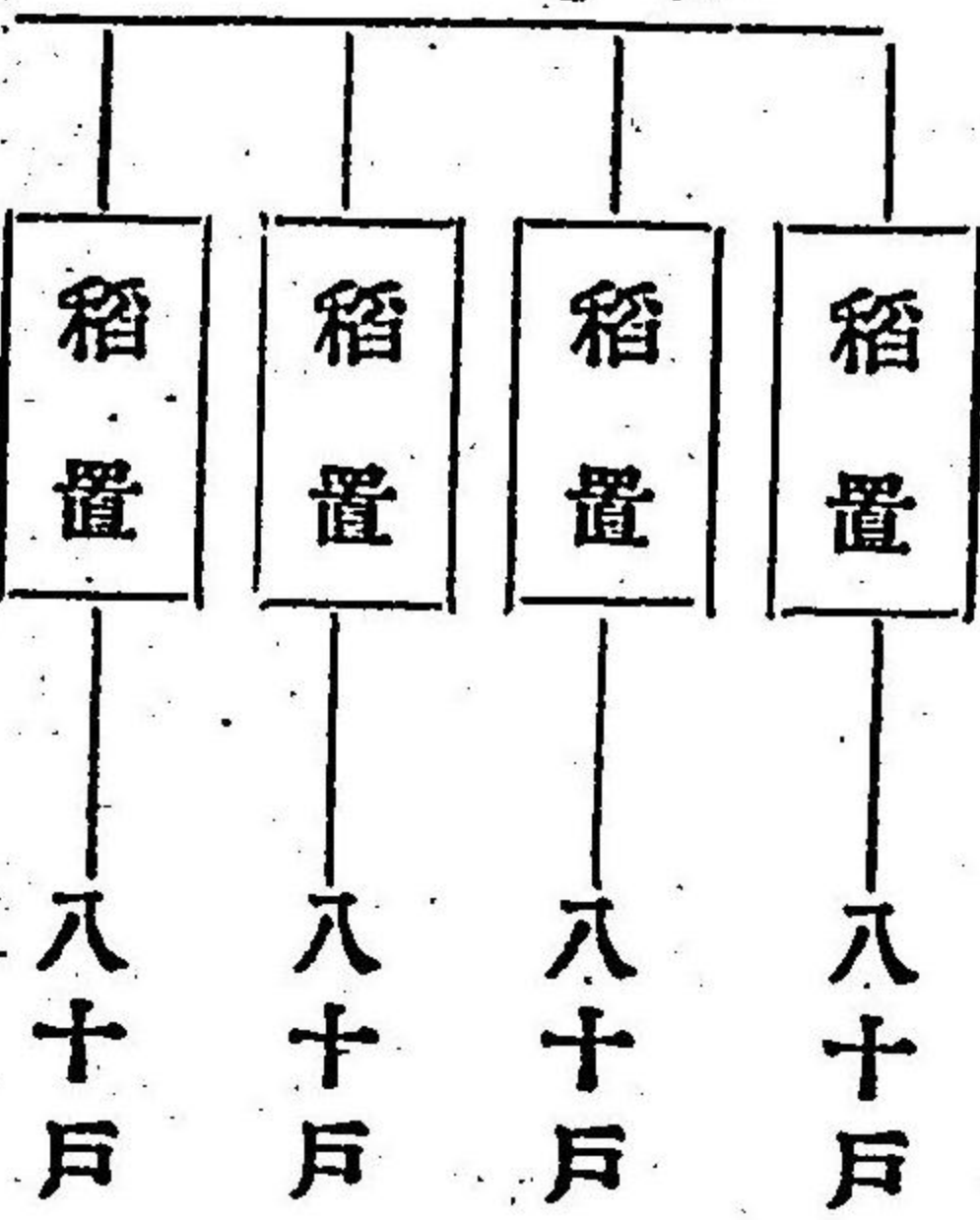
熊野國造同紀伊郡 國前國造同豐後郡 比多國造同高郡  
 末羅國造同肥前郡 天草國造同肥後郡 葛津國造同肥前郡  
 之ヲ前代ニ置カンシ二十八國ニ通計スルハ九十一箇國ナリ。是ニテ大  
 八洲ノ國內ニ王化ノ及バヌ所無カリシヲ知ルベシ。此ノ後ニ至リ仲  
 哀天皇ノ御代ニ二國、應仁天皇ノ御代ニ二十一國、仁德天皇ノ御代ニ七  
 國、反正天皇允恭天皇ノ兩御代ニ各一國、雄略天皇ノ御代ニ三國、繼體天  
 皇ノ御世ニ一國、其ノ外ニ建置ノ時代詳ナラザル者八箇國アリ。カク繼  
 々ニ増シ置カンタルバ總計一百二十五國トナリタリ。是皆景行天皇ノ  
 經綸ヲ御代御代ノ天皇ノ繼キ施シ給ヒシ結果ナリ。國造本紀考等  
 ○四節縣主 次ニ縣主トイヘル官職アリ。縣トハ上古ノ制ニ一國ノ内  
 ニテ其ノ土地ノ形勢ニ從ヒテ、人民ノ部落ヲナシ、田島ヲ墾キ、家屋ヲ立  
 テタル場所ヲ云ヒテ、後世ニ郡ト云ヘル程ノ地ナリ。先ツ國ト縣トノ  
 差別ヲ言ハバ、國ハ山嶽河海ヲ總括シタル稱ニシテ廣ク、縣ハ人民田宅

ノ在リシ所ヲ云ヘル名ニシテ狹カリシト知ルベシ。一説ニ「アガタ」ハ在方ナリ。村ヲ古ク「ア」レト云フ。在處ノ義ナリ。今ハ音ニテ在ト云ヘリト。縣主ハ大和國內ニ在ル縣ヲ始トシテ國々ニ在ル縣ヲ治ムル者ノ稱ナリ。然リト雖普通各地ニ在リシ縣ハ、之ヲ御縣ト區別スルコト緊要ナリ。古御縣ト唱フル朝廷ノ御料アリキ。是供御ノ料ノ物ヲ作リテ奉ル御莊園ナレバ、京畿ノ内ニ定メラレテ、大和國內ニ高市、葛城、十市、志貴、山邊、曾布ト凡テ六ヶ所ノ御縣アリタリ。此ノ御縣ニモ田畠及人民ノ居處等ノ有リシコトハ、孝德紀ニ「倭國六縣ニ使ヲ遣シ、宜ク戶籍ヲ造リ并ニ田畠ヲ校スベシ」トアルニテ知ラレタリ。御縣ヲ定メラレタル始ハ歴史ニ見エズト雖古クヨリ有リシモノナリ。而シテ成務天皇ノ時ニ其ノ主ヲ置カレタル縣ハ、自此等ト別ニシテ、各國ニテ古來某ノ縣ト稱シ來タル地ヲ云フナリ。而シテ其ノ縣主ノ司リシ所ノ事ハ國造ニ異ナリシトモ見エズ。ソハ葛城縣主ヲ日本書紀神武天皇ノ段ニハ葛城國造ト書ケル

ニテ知ラレタリ。

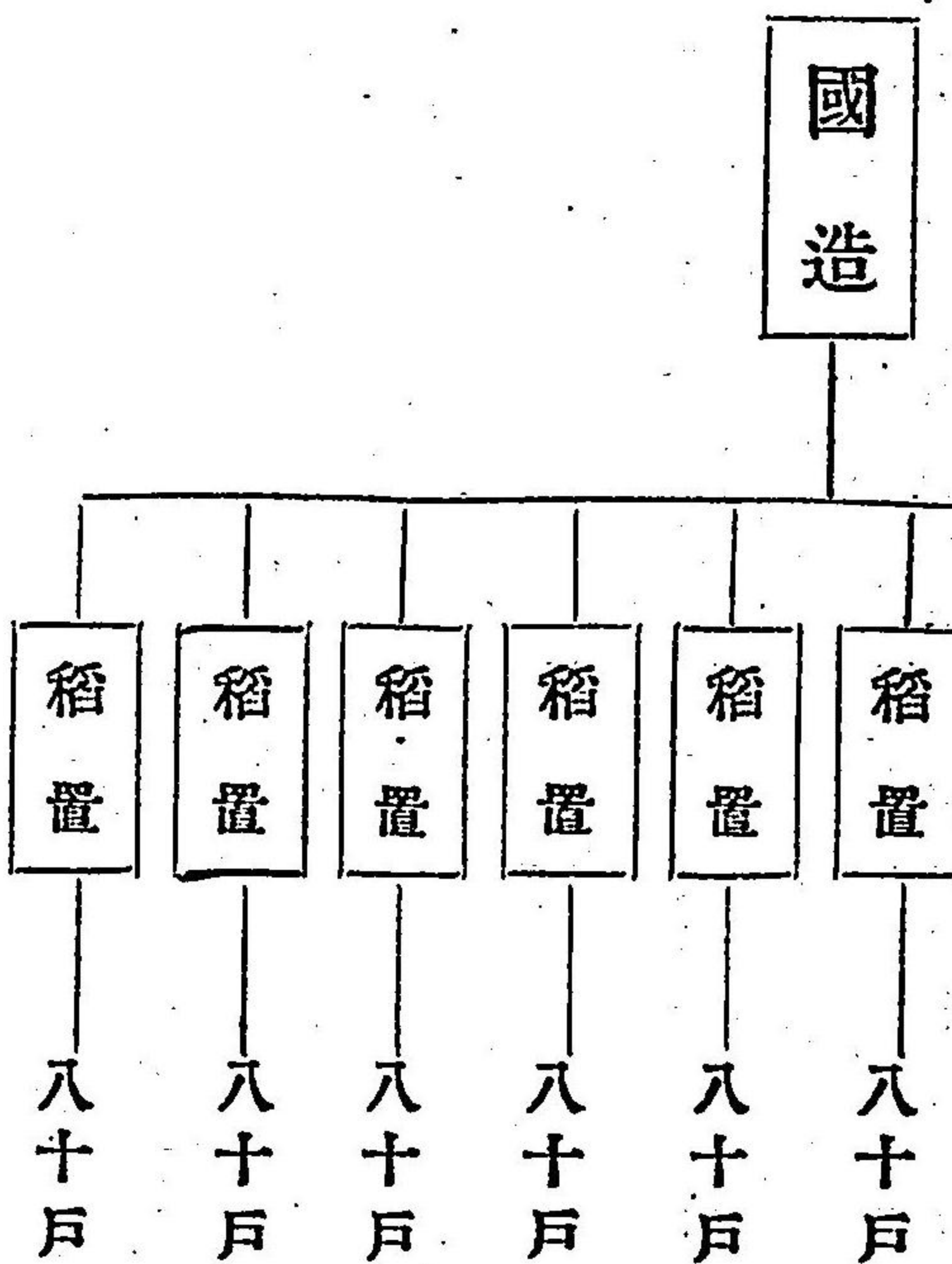
○五節 稻置

稻置ノ國縣ノ内ニ在リシコトハ、北史ノ倭國傳ニ「軍尼一百二十人アリ。猶中國ノ牧宰ノゴトシ。八十戶ニ一伊尼翼ヲ置ク。今ノ里長ノ如シ。十伊尼翼一軍ニ屬ス」トアリテ、軍尼ハ「ク」ニト訓ム。即國造ナリ。伊尼翼ハ「イネキ」ト讀ム。即稻置ナリ。漢土ノ書ニ依リテ、當時我が國官制ノ一斑ヲ知り得ラル、モ亦不思議ト謂フベシ。此ノ條ハ松下見林ノ著セル異稱日本傳ニ之ヲ引キ、蒲生君平ノ職官志ニモ載セタルバ、人ノ善ク知レル所ナリ。今試ニ其ノ書ニ據リテ圖ヲ作ラバ左ノ如シ。



國ニ産出セル稻米ヲ各地ニ納メ置キテ國用ヲ辨ゼシメ、村長ヲシテ之ヲ掌司セシメキ。即稻置ノ名アル所以ナリ。考姓序ト云フ。

斯ノ如ク判然制定セラレタルニハ非ザルベキモ、其ノ大槩ハ推シテ知ラル。ナリ。而シテ此ノ御世ヨリ以前ニモ、蒲生稻置、伊賀稻置、那婆理稻置、三野稻置ナドノ名ハ古事記ニ見エタリ。「稻置」ノ名義ニ關シテハ一定ノ說ナシ。又其ノ職務モ詳ナラス。案ズルニ村邑ノ長ニシテ、其ノ職ヲ世ニシタルモノナラシカ。一說ニ、太古國用ノ重キモノハ稻米ナレハ、諸



第九章 神功皇后及三韓征服

○節一 仲哀天皇 成務天皇在位六十年ニシテ崩シ給ヒ、嗣子マサズ、  
 因リテ日本武尊ノ御子ヲ立テ給フ。仲哀天皇是ナリ。是ヨリサキ歷代  
 皇父子相繼ギ給ヒシガ、此ニ至リテ姪ヲ以テ叔父ノ後ヲ承ケ給フ例起  
 ル。二年氣長足姫尊ヲ立テ、皇后トシ給ヘリ。神功皇后ト諡シ奉ル是  
 ナリ。皇后ハ開化天皇ノ曾孫氣長宿禰王ノ御女ナリ。御母ハ新羅ノ王  
 子ニテ我ニ歸化シタリシ天日槍ノ子孫多遲摩比多訶ノ女ニマス。故ニ  
 善ク外國ノ事情ニ通シタマヒシガ如シ。是ヨリサキ、天皇叔父ノ女大  
 中姫ヲ娶リテ妃ト爲シ、鹿坂皇子及忍熊皇子ヲ生ミ給フ。然レドモ更  
 ニ氣長足姫尊ヲ立テ、皇后ト爲シタマヘルハ其ノ武勇ニマシ、ニ因  
 レルナラム。

天皇角鹿越前賀前筈飯宮ニ幸シ、紀伊ヲ巡リ給フ。時ニ熊襲復反シ、西國不穩

ナリシカバ、之ヲ親征セント思ホシテ穴門長門豐浦津ニ至リマス。皇后角  
 鹿ヨリ往キテ會シ給ヘリ。八年遂ニ筑紫儼縣ニ至リ、橿日香宮ニ坐シ、軍  
 議ヲ爲シ給フ。皇后熊襲ヲ援クル者ノ海外ニ在ルヲ知リ、天皇ニ白シ給  
 ハク、神アリ我ニ託シ誨ヘテ曰ハク、天皇何ゾ熊襲ノ服セサルヲ憂ヘン。  
 是ソノ空國ノ。豈兵ヲ擧ゲテ伐ツニ足ランヤ。此ノ國ニ愈リテ寶ノ國ア  
 リ。譬ヘハ美女ノヒキ如キ向津ノ國ナリ。對岸ノ國ニシテ遠ク之ヲ望ミ、  
 炎金銀彩色多ク其ノ國ニ在リ。是ヲカク新羅ノ國ト謂フ。若能ク吾ヲ祭  
 ラハ則曾テ刃ニ血ヌラズシテ其ノ國必服シ、熊襲モ亦自服セント。天皇  
 乃高岳ニ登リ遙ニ大海ヲ望ミ給ヘトモ國ヲ見ス、因リテ神言ヲ疑ヒ給  
 フ。九年二月、天皇忽痛身アリテ、明日軍中ニ崩シ給ヘリ。皇后、大臣及  
 中臣烏賊津連、大三輪、大友主君、物部膽伊作連、大伴武以連ニ詔シテ曰ハク、  
 「今天下未、天皇ノ崩ヲ知ラス。百姓之ヲ知ラハ懈怠アラシカト。乃四大夫  
 ニ命シテ百寮ヲ領シテ宮中ヲ守ラシメ、竊ニ天皇ノ屍ヲ收メテ武内宿

禰ニ付シ、海路ヨリ穴門ニ遷リ、豊浦宮ニ殯セシメ給フ。

○節三韓ノ遠征 皇后天皇ノ神託ニ從ハズシテ早ク崩シ給ヒシ

ヲ傷ミ、更ニ齊宮ヲ小山田邑ニ造リ、親神主ト爲リ、武内宿禰ニ命シテ琴

ヲ撫セシメ、中臣烏賊津使主ヲ喚シテ審神者ト爲シ、以テ諸神ヲ祭リ給

フ。乃新羅ヲ伐タント欲シ、四月火前國肥松浦ノ縣ニ至リ、河側ニ食シ給

フトキ、針ヲ勾ゲテ釣ト爲シ、粒ヲ取リテ餌トナシ、袋糸ヲ抽キ取リテ縊

ト爲シ、之ヲ河ニ投シ、祈リテ曰ハク、朕西ノカタ財國ヲ求メント欲ス。若

事成ルコト有ラバ、河魚釣ヲ飲メト。竿ヲ擧グルニ細鱗魚ヲ得給ヘリ。則

神教ノ驗アルヲ識リ西征ノ志ヲ決シ給フ。皇后還リテ檀日ノ浦ニ至

リ、髮ヲ解キ海ニ臨ミテ曰ハク、吾神祇ノ教ヲ被リ、皇祖ノ靈ニ頼リ、滄海

ヲ浮涉シ、躬西征セント欲ス。是ヲ以テ今頭ヲ海水ニ漬ク。若驗アラハ髮

オノツカラ分レテ兩ト爲レト。即海ニ入リテ之ヲ洗ヒ給ヒシニ髮自分

レヌ。皇后便分髮ヲ結ビテ髻ト爲シ、因リテ羣臣ニ詔シタマハク、夫師ヲ

與シ衆ヲ動カスハ國ノ大事ナリ。安危成敗必斯ニ在リ。今征伐スル所ア

ルニ、事ヲ以テ群臣ニ付スルトキハ、若事成ラザレハ罪群臣ニ在ラノ。是

甚傷マシ。吾婦女ニシテ、マタ不肖ナリ。然レトモ暫男貌ヲ假リテ、強ヒテ

雄略ヲ起シ、上ハ神祇ノ靈ヲ蒙リ、下ハ群臣ノ助ニ籍リテ、兵甲ヲ振ヒ、險

浪ヲ度リ、艦船ヲ整ヘ、以テ財土ヲ求メンニ、若事就ラハ群臣共ニ功アリ。

事就ラザレハ吾獨罪アラノ。既ニ此ノ意アリ、ソレ共ニ之ヲ議セト。群臣

皆曰ハク、皇后天下ノ爲ニ宗廟社稷ヲ安スル所以ヲ計リ、且罪ヲ臣下ニ

及ホサザラントシ給フト。頓首シテ詔ヲ奉ス。九月諸國ニ令シ船舶ヲ集

メ兵甲ヲ練ル。時ニ軍卒集メ難カリキ。皇后曰ハク、必神ノ御心ナラント。

乃大三輪社ヲ立テ、刀矛ヲ奉リ給フニ、軍衆自聚リヌ。是ニ於テ吾等ノ海

人烏摩呂ヲシテ西海ニ出テ國ノ有無ヲ察セシメ給フ。還リテ曰ハク、國

見エサルナリト。又磯鹿ノ海人名草ヲ遣リテ覩セシメ給フ。日ヲ經テ還

リテ曰ハク、西北ニ山アリ。帶雲横ニ縋ル。蓋國アルカト。乃吉日ヲトシテ



發セントス。皇后親斧鉞ヲ執リ、三軍ニ令シテ曰ハク、金鼓節ナク、旌旗錯亂セバ、則士卒整ハス。財ヲ貪リテ欲多ク、私ヲ懷ヒ内ヲ顧ミバ必敵ノ虜ト爲ラン。其ノ敵少ナルモ輕ンズルコト勿レ。敵強ナルモ屈スルコト勿レ。則奸暴ハ聽スコト勿ク、自服ハ殺スコト勿レ。戰勝タバ必賞アラソ。背キ走ラハ自罪アラソト。既ニシテ神誨有リ。曰ハク、和魂玉身ニ服ヒテ壽命ヲ守リ、荒魂先鋒ト爲リテ師船ヲ導カント。因リテ依網吾彦男垂見ヲ以テ祭ノ神主トナシ、之ニ拜禮シ給フ。時ニ適、皇后ノ開胎ニ當レリ。則石ヲ取リテ腰ニ挿ミ、祈リテ曰ハク、事竟ヘテ還ラン日茲ノ土ニ産マント。其ノ石後世マテ伊都縣ノ道ノ邊ニアリキ。乃荒魂ヲ擣キテ軍ノ先鋒ト爲シ、和魂ヲ請ヒテ王船ノ鎮トシ、十月、和珥津ヨリ發シ給ヘリ。時ニ風神ハ風ヲ起シ、海神ハ浪ヲ擧ゲ、海中ノ大魚悉浮ビテ船ヲ挾ミ、大風順ニ吹キテ、帆船波ニ隨ヒ、楫ヲ勞セズシテ新羅ニ到レルニ、隨船ノ潮浪漲リ、溢レテ遠ク國中ニ逮ビヌ。即知ル。天神地祇ノ悉ク助ケタマヘルヲ、新羅

王大ニ懼シ、狼狽シテ身ヲ措ク所ナシ。諸人ヲ集メテ曰ハク、新羅建國以來未嘗テ海水國ヲ凌グヲ聞カズ。若天運盡キ、國海トナルカト。是ノ言未訖ハ、ラザルニ、船師海ニ滿チ、旌旗日ニ耀キ、鼓吹聲ヲ起シ、山川悉振フ。新羅王遙ニ望ミ以爲ヘラシク、非常ノ兵將ニ己ガ國ヲ滅サントス。響シテ失神ス。少焉アリテ醒メテ曰ハク、吾聞ク東ニ神國アリ、日本ト謂フ。又聖王アリ、天皇ト謂フ。必其ノ國ノ神兵ナラン。豈力ヲ以テ拒ムベクヤト。乃素旆ヲ自服シ、素組ヲ以テ面縛シ、圖籍ヲ封シ、王船ノ前ニ降リ、叩頭シテ曰ハク、今ヨリ以後、乾坤ト與ニ長ク伏シテ、飼部トナリ、其ノ船柁ヲ乾サズシテ、春秋ニ馬梳及馬鞭ヲ獻セン。復海ノ遠キヲ煩ハズ、以テ年毎ニ男女ノ調ヲ貢セント。重ネテ誓ヒテ曰ハク、日西ヨリ出テ、阿利那禮河逆ニ流シ、河石昇リテ星辰トナルニ及フマデ、春秋ノ朝ヲ闕キ、梳鞭ノ貢ヲ廢メバ、天神地祇共ニ討タント。時ニ新羅王ヲ殺サント曰フモノアリ。皇后曰ハク、初メ發スルニ臨ミ、三軍ニ號令シテ、自服ヲ殺スコト勿レト言

ヘリ。彼既ニ自服ス。之ヲ殺スハ不祥ナリト。乃其ノ縛ヲ解キテ飼部ト爲シ、遂ニ國中ニ入りテ、重寶府庫ヲ封シ、圖籍文書ヲ收メ給ヘリ。時ニ皇后杖キ給ヘルヲ以テ新羅ノ王門ニ樹テ、後葉ノ印ト爲シ給フ。新羅王波沙寐錦微叱已知波珍干岐ヲ以テ質ト爲シ、金銀彩色及綾羅縑絹ヲ齎シ、八十艘ノ船ニ載セテ官軍ニ從ハシム。是ヨリ後新羅常ニ八十艘ノ調ヲ以テ我ニ貢スルヲ例トシタリキ。高麗百濟二國ノ王、新羅ノ圖籍ヲ收メテ日本國ニ降ルト聞キ、密ニ其ノ軍勢ヲ伺ハシム。則勝ツヘカラサルヲ知リ、自營外ニ來リ叩頭シテ曰ハク、今ヨリ以來、永ク西蕃ト稱シ、朝貢ヲ絶タシト。因リテ内官家ヲ定メ給フ。是所謂三韓ナリ。皇后新羅ヨリ還リ、十二月皇子譽田別尊ヲ筑紫ニ生ミ給ヘリ。

○三節 驛坂王忍熊王謀反

皇后群卿百寮ヲ領井テ穴門豐浦宮ニ移リ、天皇ノ喪ヲ收メ、海路ヨリ京ニ向ヒ給ハントス。時ニ驛坂王忍熊王密ニ謀リテ曰ハク、今皇后皇子アリ。群臣皆從フ。必共ニ議シテ幼主ヲ立

テ。吾等何ソ兄ヲ以テ弟ニ從ハシヤト。乃山陵ノ石ヲ運ブト稱シ、兵ヲ淡路ニ匿シテ皇后ヲ待ツ。而シテ倉見別、五十狹茅、宿禰モ亦驛坂王ニ從ヒ、相議シテ兵ヲ住吉ニ屯ス。皇后乃武内宿禰ニ令シ、太子ヲ奉シ、轉リテ南海ヨリ紀伊ニ至ラシメ、而シテ皇后ハ直ニ難波ニ向ヒ給フ。是ヨリ先驛坂王菟餓野ニ狩シテ、赤猪ニマシテ死シ、忍熊王獨軍ヲ督ス。是ニ於テ退キテ菟道ニ軍ス。皇后太子ト紀伊ニ會シ、武内宿禰ト武振熊和臣トニ命ヲ忍熊王ヲ擊タシメ給フ。武内宿禰精兵ヲ帥非進ミテ菟道河ノ北ニ屯ス。忍熊王邀ヘテ戰ハントス。武内宿禰衆ヲシテ、弦ヲ警中ニ藏シ、各、木刀ヲ佩カシメ、乃皇后ノ命ト稱シ、誘ヒテ曰ハク、吾敢テ天下ヲ貪ルニ非ズ。唯幼主ヲ懷キテ君王ニ從フ者ナリ。豈拒戰セシヤ。共ニ弦ヲ斷チ、兵ヲ捨テ、與ニ連和シ、而シテ後君王天位ニ登リ給ヘト。乃顯ニ軍中ニ令シテ、悉弦ヲ斷チ刀ヲ解キテ之ヲ水中ニ投セシム。忍熊王之ヲ信シ、亦軍衆ニ令シテ弦ヲ斷チ刀ヲ投セシム。武内宿禰急ニ儲フル所

ノ弦ヲ張り、眞刀ヲ佩バシメ、河ヲ濟リテ進ム。忍熊王兵ヲ引キテ退久。武  
 内宿禰之ヲ追ヒ、逢坂ニ至リテ之ヲ破ル。忍熊王瀬田ノ渡ニ投シテ死シ、  
 亂平ギヌ。皇子譽田別命立チ給フ。之ヲ應神天皇トス。而シテ天皇幼ク  
 マセル故チ以テ皇后萬機ヲ攝行シ給ヘリ。本邦攝政ノ制此ニ始マル。  
 ○**節外藩ノ制度** 是ヨリ後四十餘年間新羅、百濟ハ年々朝貢ヲ怠  
 ラス、高麗モ亦從順ナリキ。皇后攝政ノ四十六年ニ至リ、志摩宿禰ヲ卓  
 淳ニ遣リ、百濟ヲ綏撫セシメ給フ。翌年百濟及新羅ノ貢物ヲ檢スルニ、新  
 羅ノ貢物ハ珍異甚多ク、百濟ノ貢物ハ少賤ニシテ良カラズ。乃其ノ故ヲ  
 問ヒ給フニ、百濟ノ使久氏等對ヘテ曰ハク、臣等道ヲ失ヒ沙比新羅ニ至  
 ル。則新羅人臣等ヲ捕ヘテ囹圄ニ禁シ、遂ニ殺サントス。臣等因リテ天ニ  
 向ヒテ咒詛シタルニ、新羅人恐レテ敢テ殺サス。則我が貢物ヲ奪ヒテ己  
 カ國ノ貢物ト爲シ、賤物ヲ以テ相易ヘテ臣カ國ノ貢物ト爲シ、臣等ニ謂  
 ヒケラク、若此ノ辭ヲ誤ラバ、還ラン日ニ及ンデ汝等ヲ殺スベシト。故ニ

臣等恐レテ從フノミト。四十九年荒田別鹿我別ヲ以テ將軍ト爲シ、新  
 羅ヲ伐タシメ給フ。將軍久氏等ト共ニ兵ヲ勒シテ渡リ、新羅ヲ擊チテ之  
 ヲ破リ、比自煉、南加羅、喙國、安羅、多羅、卓淳、加羅ノ七國ヲ定ム。爾後雄略天  
 皇ノ朝ニ至ルマデ、三韓半島復我ニ背クモノ無カリキ。  
 當時朝鮮地方ヲ外藩トシテ治メラレシ有様ヲ察スルニ、垂仁天皇ノ時  
 ニ置カレシ日本府ハ尙勢力ヲ有シタリシ事實明白ナレバ、中間本國ト  
 ノ交通ハ無カリシモ、三韓征服ノ後ハ自之ヲ總括スル機關トナリシコ  
 ト疑フ可カラス。

又上ニ載セタル日本書紀ノ文ニ、内官家ヲ置クトアル、官家ハ、御宅トモ  
 屯倉トモ書キテ、天皇ノ御料地ノ官衙ヲ云フナリ。古ヨリ新地ヲ得ル  
 毎ニ、其ノ幾分ヲ天皇ノ御料地トシテ屯倉ヲ置カル、例ナリシガ、今三  
 國ヲ征服シタマヘルニ因リ、此ニモ屯倉ヲ置キ、内國ノ屯倉ノ如クセラ  
 レタルヨリ、内官家トハ云ヒシナリ。古事記ニハ之ヲ渡屯家ト書ケリ。

渡ハ海ニテ海外ノ義ナリ。イヅレモ皇國內ノ屯倉ニ準スル義ナリ。又此ノ屯倉ニ別ニ鎮撫ノ官トシテ、ミコトモチトイヘルヲ置カレタリト見ユ。其ハ日本書紀載スル所ノ一書ニ、一人ヲ留メテ新羅ノ宰ト爲シテ還ルトアリ。又姓氏錄眞野臣ノ條ニ、天足彦國押人命ノ裔孫大矢田宿禰、息長足姬尊神ニ從ヒ新羅ヲ征伐ス。凱旋ノ日便留メテ鎮守將軍ト爲シタマフトアリ。案スルニ是新羅ノミニ止マラス、餘ノ二國ニモ置カレシナラン。

又應神天皇ノ時ニ至リ、武内宿禰ヲシテ筑紫ニ居ラシメ、以テ日本府及鎮撫官ニ遠應セシメラレタリ。是蓋筑紫都督府ノ起元ナリ。

韓土征服ノ後ハ、布帛、金銀、器械ヨリ、文藝、智巧ニ至ルマテ多ク新物ヲ輸入シタルニ因リ、大ニ内國ノ文化ヲ刺激シ、爲ニ國民ノ形勢一變スルニ至ルハ是第二期歴史ノ大觀ナリ。此ニ第一期ノ叙事ヲ了フ。

## 第二期 國民隆盛ノ代

### 第十章 社會ノ組織

#### ○節一 前期復説

第一期ニ於ケル歴史ノ要點ハ、天孫ニ於テ祖神ノ正嫡ニ坐シ、故ヲ以テ、同種ノ他氏ヲ統一シ給ヒシニ因リ、祖神ノ祭祀ト族制トハ、國民團結ノ中心ノ勢力トナリ、又異ナル民種ニ屬スル梟帥民族ト土蜘蛛トハ、武力ヲ以テ之ヲ征服シ給ヒシニ因リ、兵事モ亦政權ノ重大ナル要素トナレルニ在リ。然リ而シテ此ノ三ノモノニ依リ團結シタル國民ヲ外ヨリ襲ヒテ破ラントスルモノ崇神天皇以後ニ於テ頻リニ起レリ。乃西ハ熊襲ヲ伐チ、東ハ蝦夷ヲ征セラレタリ。是ニ至リテ地方制度ノ基本漸ク定マリヌ。又熊襲ノ患疊世息マサルモノハ、其ノ根據海外ニ在ルヲ知リシカバ、終ニ我ヨリ起リテ三韓ヲ征服シタリ。社會學者ノ語ヲ以テ謂ヘハ、是ノ時代ハ、社會ノ存立競争ニ際スルモノナリ。

此ノ競争ノ結果トシテ、國民内部ノ團結ハ益々強固ヲ致シ、既ニシテ十分發達セル國民ヲ爲スニ至リヌ。故ニ此處ニ於テ斯成リ出デタル國民ノ内部ノ組織ヲ開示スルトキハ、是ヨリ後ノ變遷ヲ知ルニ甚便ナラン。

○節氏族 此ノ時代ニ於テ日本國民ノ内部ノ組織ノ基本ヲ爲シタルモノハ、實ニ氏族ノ團結ナリ。即全體ノ民ハ分レテ幾多ノ大氏トナリ、其ノ中ニモ天孫ノ氏ハ最モ尊ク、次ハ代々天皇ノ皇子ヨリ出デタル諸氏、又其ノ次ハ諸ノ天神地祇ヨリ出デタル諸氏ニシテ、皇族ニモ非ズ、又天神地祇ノ後ニモ非サル者ハ獨立ノ資格ナク、以上諸氏ノ中ニ隸屬シタリ。又一ノ大氏ハ數多ノ小氏ヲ包含シ、一ノ小氏ハ數家ヲ以テ成リタリ。其ノ一家ト云ヘルハ、今ヨソ家主ト其ノ妻子トアルニ止マレド、上古ニ於テハ、三世四世一戸ニ住居シテ、常ニ五六十人ヨリ八九十人マデノ家族アリキ。而シテ其ノ中ナル正嫡ノ男子ハ、家長トシテ一家ヲ統理シ、其ノ財産ヲ專有シ、長老タリトモ正嫡ニ非ザルトキハ家長トナラズ、

唯家長ヲ補ケタリ。又小氏ニ小氏ノ氏上アリテ、其ノ包含スル所ノ諸家ヲ統督シ、大氏ニ大氏ノ氏上アリテ、之ニ屬スル諸ノ小氏ヲ總督シタリ。孰モ其ノ小氏又ハ大氏ノ正嫡相繼ギテ氏上トナリシナリ。又家ニハ家族ノ外ニ私有ノ人民アリ。之ヲ家部ト云フ。而シテ大小ノ氏ニモ多少ノ人民ヲ私有シタリ。之ヲ部曲ト云フ。「ウヂ」ハ「生筋」ノ義ナリト云フ。又「生地」ノ説アリ。之ニ姓ノ字ヲ充テ用ウルハ、古ヨリ有ルコトナガラ、社會學上ノ理論ニ據ルトキハ、日本ノ「ウヂ」ハ支那ニテ姓ト指スモノト全ク相同シカラズ。姓トハ、モト異ナル部屬ノ同一邦土ニ移轉シ來タリテ、始メ相争鬪シ、後ニ團結シテ一箇ノ國民ヲ爲スニ至リ、舊來ノ異同ヲ表センカ爲ニ稱フル所ノ者ナリ。例ヘハ支那ノ如キハ大陸ノ國ナルニ因リ、崑崙ノ地ヨリ河流ニ沿ヒテ遷徙シ來リ、中原ニ殖民シタル者數部屬アリ。其ノ各部屬後ニ一姓ヲ爲セリ。即提挺氏、有巢氏、燧人氏、庖犧氏、神農氏、軒轅氏、蜀山氏、及庖犧氏ノ下ニ附ケル飛龍氏、潛龍氏、降龍氏、水龍氏、

火龍氏等ハ皆別部屬タリシナリ。而シテ黃帝出テ、大ニ外姓ヲ征服シ、  
 玄孫帝堯ニ至リ、始メテ善ク諸姓ヲ和合シタリ。書ニ「克明俊德、以親九族、  
 九族既親、平章百姓、百姓昭明、協和萬邦、黎民於變時雍」ト云ヘル是ナリ。此  
 ニ「百姓ト云ヘルハ、今ノ如ク一般人民ヲ指スニ非ズ。一般人民ハ即黎民  
 ニテ、百姓ト云ヘルハ百ノ姓族ナリ。百ハ其ノ多キヲ云フ。平章ハ諸姓ノ  
 大小強弱ニ應シテ官職地位ヲ與ヘ、以テ其ノ權衡ヲ保タシメタルヲイ  
 フ。此ノ如ク姓ハモト部落ノ異ナリシヲ示スモノナリ。而シテ上古ハ  
 他ノ部落ヨリ掠取シタル婦女ヲ妻トスル習慣アリシニ因リ、姓ノ存ス  
 ル所ニ在リテハ、必同姓相婚ヲ禁スル慣例アリキ。支那、印度、羅馬、皆然リ  
 トス。族制進化論第。然リト雖、氏ハモト同一部落ノ異ナル人々ノ系統ニ  
 外ナラサルカ故ニ、相婚ヲ禁ズルコト固ヨリ有ラズ。本書第三章ノ終  
 ニ述ヘタル如ク、我カ日本ノ民種ハ、雜合民種ニ非スシテ本來單純ナリ。  
 即一姓ニシテ數氏アルノミ大日本史ノ序ニ、天下一姓ト書キタ。サレハ

日本ノ歴史ニ於テ姓ノ字ヲ用ウルハ、是唯假用ニシテ、實ハ支那ノ姓ト  
 全ク異ナルモノヲ指スナリ。

○節三 大氏小氏及氏上 上文開説スル如ク、一ノ大氏數多ノ小氏ニ

分カレ、大氏ニ大氏ノ氏上アリ、小氏ニ小氏ノ氏上アリテ、遞次統括シタ  
 ルコトハ、第四期以前、即上古ノ國家社會ノ形勢ヲ知ル爲ニ甚重要ノ事  
 ナリトス。故ニ古來ノ學者ニシテ氏族ノ組織ヲ講究シタル者亦多シ。其  
 ノ中文化年間ノ著述ニ係ル姓序考細井貞雄著述ト云フ書最モ精密ナリ。左ニ  
 其ノ一段ヲ抄出セン。

氏ニ大氏小氏ノ別アリ。其ヲ云ヘバ、阿倍氏ハ大氏ナリ。是ヨリ別レタ  
 ル阿倍志斐、阿倍間人、阿倍長田、阿倍陸奥、阿倍安積、阿倍信夫、安倍柴田、  
 阿倍會津、阿倍媛島、阿倍久努、阿倍小殿、和、阿倍等ハ皆小氏ナリ。又物部  
 氏ハ大氏ナリ。是ヨリ別レタル物部肩野、物部韓國、物部飛鳥、物部門、物  
 部多藝、物部石上、物部射園、物部淨志、物部海、物部鏡、物部匝瑳、物部中原、

贊田物部、相槻物部、坂戸物部、二田物部等ハ皆小氏ナリ。小氏ハ大氏ニ從ヘル者ナリ。サレト小氏ニモ氏上ハ有ルナリ。大氏衰ヘヌレバ、小氏ノ然ル可キ人ヲ以テ大氏ヲ繼グコトナリ。大同元年春正月壬午、左京入正七位上阿部小殿朝臣眞直、從五位下阿部小殿朝臣眞出等、姓ヲ阿部朝臣ト賜フト見エシハ、阿部小殿氏ヨリ、大氏ノ阿部ニナレルナリ。又弘仁三年二月辛亥、左京ノ人阿部長田朝臣節麿、從七位上阿部長田朝臣高繼等八人、姓ヲ阿部朝臣ト賜フトアルモ同例ナリ。俗言ニ云ヘバ大氏ハ本家、小氏ハ分家ナリ。阿部ノ大氏ハ大同ノ頃ハ衰ヘタレド、氏人ニ家守東人、小笠象主、弟當宅麻呂、犬養眞勝、益成、鷹野、兄雄等十餘人アルニ、眞直、高繼等ノ十人ヲ加ヘラレシニテ外ノ氏人ハイト多カリシヲ思ヘ。是ニ準ヘテ、小氏ニモ十、二十ノ人ハアリシナルヘシ。其ノ下ニ又部曲ノ人アリ。是ニハ姓ハナク、唯阿部某ト云ヘルノミナリ。其ノ趣ヲ言ハソニ、部曲ノ阿部長田某ト云フ人々ヲ、皆阿部長田朝臣某ト云フ人、氏上ナレバ管領リ。大氏ノ阿部朝臣某ト云フ人、大氏氏上ナルニハ、阿部某ト云ヘル部曲ノ人々、其ノ外小氏ノ阿部長田氏上ヨリシテ各部曲マテヲモ統領ルコトナリ。少故ノ事ハ小氏ノ氏上大氏ノ氏上ト計リテ事ヲ糺シ治メ、大故ノ事ニ非ザレハ朝廷ニ申スコトナシ。サルカラ上古ハ朝廷ハ閑寂ナリシ。各國モ諸氏ノ人々願領リ、天皇ノ御料地ノ御田ヲモ作り、男ハ弓頭、女ハ手末ノ貢ヲ進セリ。中サテ此ノ氏上ト云フモノゾ、後ノ氏長者ナリケル。氏長者ハ漢土ニ長者ト云フモ、上古ニ迂トキエニソレニマカヘテ長者トツク云フコトナレハ、上ノ如ク人ノ居處ヲ云ヒシナラメ。富者此ノ如ク氏上ノ定マレルカラ、各氏ノ系統亂ル、コトナク、氏人ノコトゴト小氏大氏ニ附貫センレバ、大氏ノ氏上ニ詔アレンバ、氏人トモ皆承リ傳ヘテ其ノ事ヲ爲ス。ユエニ事通リヤスク紛ル、コトナシ。故ニ太古ハ爲スコト少クテ善ク事ノ整ヒシナリ。

ト云フ人、氏上ナレバ管領リ。大氏ノ阿部朝臣某ト云フ人、大氏氏上ナルニハ、阿部某ト云ヘル部曲ノ人々、其ノ外小氏ノ阿部長田氏上ヨリシテ各部曲マテヲモ統領ルコトナリ。少故ノ事ハ小氏ノ氏上大氏ノ氏上ト計リテ事ヲ糺シ治メ、大故ノ事ニ非ザレハ朝廷ニ申スコトナシ。サルカラ上古ハ朝廷ハ閑寂ナリシ。各國モ諸氏ノ人々願領リ、天皇ノ御料地ノ御田ヲモ作り、男ハ弓頭、女ハ手末ノ貢ヲ進セリ。中サテ此ノ氏上ト云フモノゾ、後ノ氏長者ナリケル。氏長者ハ漢土ニ長者ト云フモ、上古ニ迂トキエニソレニマカヘテ長者トツク云フコトナレハ、上ノ如ク人ノ居處ヲ云ヒシナラメ。富者此ノ如ク氏上ノ定マレルカラ、各氏ノ系統亂ル、コトナク、氏人ノコトゴト小氏大氏ニ附貫センレバ、大氏ノ氏上ニ詔アレンバ、氏人トモ皆承リ傳ヘテ其ノ事ヲ爲ス。ユエニ事通リヤスク紛ル、コトナシ。故ニ太古ハ爲スコト少クテ善ク事ノ整ヒシナリ。

○四節 世襲業務及氏名 上古氏族ノ組織ニ關シテ最著顯ナルモノハ、各氏一定ノ職掌アリテ之ヲ世ニシ、同一氏ニ屬スル諸家ハ、皆同シ業務ニ從事シテ世更メス、其ノ職名ヲ以テ氏名トセシコト是ナリ。

例ヘハ玉作氏ハ世玉ヲ作ルヲ業トシ、爪工氏ハ世蓋ヲ作リテ貴人ノ坐ヲ飭ル事ヲ業トシ、鏡作氏ハ世鏡ヲ作ル事ヲ業トシ、石作氏ハ石棺ヲ作リ、土師ハ陶器ヲ作り、兼ネテ野見宿禰ノ故事ニ因リ宮中ノ凶儀ヲ掌リ、船氏ハ船賦ヲ掌リ、書氏ハ書記ヲ掌リ、譯語氏ハ通辨ヲ掌リ、多米氏、膳氏ハ朝廷食饌ノ事ヲ掌リ、水取氏ハ水警ノ事ヲ掌リ、服部氏ハ機織ノ事ヲ掌リ、衣縫氏ハ裁縫ノ事ヲ掌リ、車持氏ハ車乘ノ事ヲ掌リシ類枚舉ニ違アラズ。是皆其ノ氏族及曲部ヲ率井テ世襲ノ職業ニ從事セシモノナリ。

以上諸氏ハ大抵氏名ヲ其ノ職掌ニ取リシモノナリ。又世國造縣主トシテ一定ノ地方ヲ治ムルヲ以テ職トスル者アリシガ、此等ハ多ク其ノ地名ヲ以テ氏名トセリ。例ヘハ胸形氏、出雲氏、高市氏、蒲生氏、血沼氏、葛城

氏、難波氏、下毛野氏ノ類ナリ。或ハ又特別ノ由緒ニ因リ、天皇ヨリ氏名ヲ賜ハリシモアリキ。例ヘハ仁德天皇ノ朝ニ高麗ヨリ鉄的ヲ貢シタルトキ、武内宿禰ノ子盾人宿禰射テ之ヲ貫キタルヨリ、的戸田宿禰ノ名ヲ賜ハリタリト云ヒ、垂仁天皇ノ朝ニ皇子譽田別年三十歳ニシテ泣キ給フコト見ノ如ク、常ニ言ヒ給ハサリシニ、一日鵠ヲ觀テ始メテ言ヒ給ヒシカバ、天皇喜ビマシテ、天湯河板舉トイヘル者ニ其ノ鳥ヲ捕ヘヨト命ジ給ヒシトキ、但馬國ニ至リ捕ヘテ奉リシ縁ニ因リ、稱ヲ鳥取造ト賜ハリタリト傳ヘ、野見宿禰ハ土偶ヲ以テ殉死ニ易ヘタリシ功ニ因リ、土部臣ノ稱ヲ賜ヒ、子孫世、其ノ功ヲ以テ朝廷ニ事ヘタリト見エタル類勝ゲテ數フ可カラズ。

○五節 部曲 上文開示スル如ク、各氏ニハ其ノ氏人タル男女ノ外ニ、血統ノ連絡ハナキモ、他ノ緣故ニ因リ其ノ氏ニ附屬スル人民アリテ、之ヲ部曲ト書キ、トモベ又ハムレト訓メリ。天太玉命ヨリ出テタル齋部氏



ハ、諸國ニ部曲ヲ派シテ供饌ノ料ヲ產殖セシメタルコト前ニ述ヘタリ。即此等ノ部曲ヲ某國ノ忌部ト云フ。綏靖天皇尙皇子ニ坐シシトキ手キミ研耳命ヲ伐チ給フ段ニ、弓部稚彥ヲシテ弓ヲ作ラシメ、倭、鍛部天津眞浦ヲシテ眞鹿ノ鍔ヲ作ラシメ、矢部ヲシテ矢ヲ作ラシムトアルハ、稚彥ハ弓部ヲ領スル氏族、彥氏上ニシテ、天津眞浦ハ倭、鍛部ヲ領スル氏族ノ氏上ナリ。而シテ其ノ部ト云フハ、是皆部曲ナリ。野見宿禰出雲ノ土師部一百人ヲ喚上シ人馬ヲ造作スル段ニ、天皇厚ク野見宿禰ノ功ヲ賞シ、亦鍛田ヲ賜ヒ、即土部ノ職ニ任シ、因リテ本姓ヲ改メテ土部臣ト謂フ。是土部連等ガ天皇喪葬ノ事ヲ主ル緣ナリトアリ。出雲ヨリ喚上シタル一百人ノ土師ノ子孫ハ、世、土部氏ノ部曲ト爲リシナリ。安閑天皇ノ紀何々天皇ノ紀ト云ヘルハ、日本書紀中其ノニ、物部大連尾與、十市部伊勢國來狹々ノ紀ト云ヘルハ、日本書紀中其ノニ、物部大連尾與、十市部伊勢國來狹々邑登伊色ノ贊土師部筑紫國ノ膽狹山部ヲ以テ天皇ニ獻ゼシコトアリ。又第三期ニ屬スレド、皇極天皇ノ紀ニ、大臣蘇我蝦夷ノ横行ヲ叙スル段

ニ、舉國ノ民并ニ百八十ノ部曲ヲ發シ、豫、双墓ヲ今來ニ造ル。云云更ニ悉上宮聖德太子一族ヲ云フノ乳部ノ民ヲ聚メテ瑩兆カ所ニ使役ストアリ。此等ハ皇族以下ノ氏々ニ部曲ノ民アリテ、大氏ニハ其ノ口數モ自多カリシ證ナリ。

○五 節 奴 婢

此ノ序ニ、我が國ニ於テモ上古ニハ奴隸ノ有リシ事ヲ述ベザル可カラズ。後ニ第四期ニ至リ成文法典ノ始メテ出來シトキ、奴婢ニ關シテ綿密ナル規程ヲ發セラレタリ。故ニ其ノ源ハ遠ク此ノ時代ニ在リシコトヲ豫述ベ置クヲ要ス。世界孰ノ邦國モ、上代ニ於テ奴隸ナキ者ハ有ラズ。而シテ其ノ起源ハ、爭鬪ノ世ニ於テ敵人ヲ捕ヘテ俘トシタルニ在ルコト社會學上ノ事實ナリ。サレバ我が邦ニ於テモ、日本武尊ノ東夷ヲ征シ給ヒシトキ、其ノ魁首ノ降ルルヲ虜トシ、尊途ニ於テ病發シテ起チ難キヲ思ヒ、其ノ虜ヲ伊勢太神宮ニ獻シ給ヒシコト、上既ニ之ヲ述ベタリ。又代々熊襲ヲ征伐セラレシトキモ、囚虜必多カリシナ

ルベシ。歴史ニモ面縛ミツカライハ、レテ降ルト云フコト處々ニ見エタリ。是降服ノ儀式ニシテ、當時征服セラレタル者ヲ虜トスル習慣ノアリシニ因リテ起レルコトナリ。又三韓ノ征服セラレシトキハ其ノ王ハ面縛シテ降リ、永ク日本天皇ノ馬飼部ウマカヒベトナラント請ヘリ。即奴隸ヲラント請ヒタリシナリ。

又罪ヲ犯シタル者ヲ收メテ奴隸トナス習慣モ上世ヨリ既ニ存シ、其ノ證ハ歴史ニモ見エタリ。應神天皇ノ九年ニ武内宿禰ヲ筑紫ニ遣シテ百姓ヲ監察セシム。時ニ武内宿禰ノ弟甘美内宿禰兄ヲ讒シ、筑紫ヲ裂キ、三韓ヲ招キテ己ニ朝セシムル密謀アリト告ゲヌ。天皇因リテ使ヲ遣シテ武内宿禰ヲ殺サシメントシ給フ。茲ニ壹伎直具アハハ根子ナル者容貌甚武内宿禰ニ肖タリ。其ノ罪ナクシテ殺サレノコトヲ惜ミ、代リテ自殺ス。武内宿禰竊ニ筑紫ヲ出テ、參朝シテ無罪ヲ辯ス。天皇兄弟ヲ推問シ給ヒシニ、各堅執シテ是非決シ難シ。因リテ神祇ニ盟ヒ、磯城ノ川濱ニ出テ、探湯タカシ

セシメ給ヒシ時、武内宿禰勝チ、便横刀ヲ執リテ甘美内宿禰ヲ毆打シ、遂ニ殺サント欲ス。天皇勅シテ釋サシメ、仍リテ紀伊直等ノ祖ニ賜フトイフコト見ユ。即一家私有ノ民ト爲シタルナリ。又日本書紀、仁德天皇ノ五十三年新羅朝貢セザリシニ因リ、田道ヲ遣シテ之ヲ擊タシメ給ヒシ條ニ、新羅軍潰ユ。因リテ兵ヲ縱チテ之ニ乘シ、數百人ヲ殺ス。即四邑ノ人民ヲ虜トシ以テ歸ルトアリ。雄略天皇ノ九年ニ采女大海紀小弓宿禰ノ遺骸ヲ收メテ三韓ヨリ歸リ、大伴室屋大連ニ依リ、奏請シテ葬地ヲ賜ハリシ段ニ、大海大悅自默スルコト能ハズ、韓奴室兄ハコエ、弟ヒコ、鷹トビ、御倉ミクラ、小倉コクラ、針ハリノ六口ヲ以テ大連ニ送ル。吉備上道、蚊島田邑カキベ家人部カキベ是ナリトアリ。是囚俘ニハ非スシテ、紀小弓宿禰ノ私使ノ爲ニ買ヒ得タリシ所ナルベシ。

第十一章 國家ノ編制

○節一 天皇ト臣民トノ關係 前章ニ於テハ氏族ノ團結ヲ以テ社會一般ノ組織ノ中心トシタルコトヲ述ベタリ。而シテ本章ニ於テハ此ノ如ク組織セラレタル社會ニ於テ國家ヲ統治シタル公權ノ成立ヲ述ヘントス。統治ノ主體ハ天皇ニ坐セルコト千古一定ナリ。然リト雖政治ノ變遷ヲ講究セシニハ上古ニ於ケル天皇ト臣民トノ關係ノ大ニ後世ト異ナルモノアリシヲ理會スルコト重要ナリ。

上古天皇統治ノ體ニ關シ第一ニ注意スヘキハ他ナシ。後世ノ如ク天下ノ民衆ヲ舉ケテ直接ニ天皇ノ統治ヲ被ルヘキ國家ノ公民トセル關係ハ未起ラズ。只天皇ノ民即皇族ニ屬セル男女ノミ天皇之ヲ直領シ其ノ他ハ皆他ノ諸氏ノ私民トシテ間接ニ天皇ノ統治ヲ被ルノミナリシコト是ナリ。當時ノ社會ハ前述ノ如ク各氏ニ氏上アリテ其ノ氏ノ諸家

及自己ノ家族ト其ノ部曲トヲ領率シ各家ニ家長アリテ自己ノ家族及家人ヲ領率シタリ。而シテ天皇モ一方ニ於テハ氏上ニ坐シ、テ以テ其ノ直接ニ領率シ給ヒシ所ハ皇親及其ノ部民ト皇族諸家及其ノ私民トノ外ニ有ラザリシナリ。故ニ天皇ニシテ若國家ノ爲ニ他氏ノ私民ヲ徵發シ使役セントシ給フトキハ直ニ其ノ私民ニ命令セスシテ先其ノ氏ノ氏上ニ命令シ給フヲ順序トシタリ。是ヲ以テ天皇ノ威權強ク氏上ノ勢力弱キハ命令善ク行ハレシモ第三期ニ至リ諸氏ノ勢力強大ナルニ及ビテハ天皇ノ命令モトカクニ行ハレザリシナリ。カク此ノ時代ニ於テ他氏ノ私民ハ天皇ノ直接ニ領率シ給ヘル所ニ非ザリシ證據ハ後ニ大化改新ノ時其ノ二年ノ詔ニテコトサテ諸氏ノ部曲ノ民ヲ廢セラレタルニテ知ルヘク或ハ又罪ヲ犯シタル者其ノ部下ノ人民ヲ奉リテ罪ヲ贖ヒタルニテモ知ルヘシ。此等ノ人民ハ常ニ其ノ屬スル所ノ氏上ノ領セシ所タレハコソ氏上ノ配下ヨリ轉シテ朝廷ニ獻進スト云

フコトモ起リシナレ。

○二節 御名代ノ民

然レドモ天皇ハ他ノ氏上ニ比スルキハ甚重キ地位ニ坐シマスモノカラ、其ノ直接ニ領率シ給フベキ人民モ、亦自他ノ諸氏ヨリ多キヲ要シタリ。而シテ天皇所屬ノ人民ノ代々増加スル原因トナレルモノ此ノ時代ニ存シタリ。即天皇皇子、后妃ニ御子無キトキ、其ノ名ノ後世ニ傳ハラザランコトヲ恐レテ、別ニ民部ヲ置キ、之ニ其ノ天皇皇子又ハ后妃ノ名ヲ負ハセ給ヒシ慣例是ナリ。之ヲ御名代ノ民ト曰ヒ、又子代ノ民トモ曰ヘリ。第二期ノ史乘ニハ其ノ例甚多シ。例ヘハ垂仁天皇ノ皇子伊登志和氣ノ王、御子ナカリシニ因リ、其ノ子代トシテ伊登志部ヲ定メ、景行天皇ノ皇子日本武尊ハ、御子アリシモ皇位ニ即カセ給ハサリシヲ以テ、其ノ功績ノ紀念ヲ留メンカ爲ニ武部ヲ定メ、仁徳天皇ノ皇后葛城磐之媛命ノ御名代トシテ葛城部ヲ定メ、皇子去來穗別尊（履中瑞齒別尊）天皇大日下王、若日下王ノ御名代トシテ壬生部、蜷部、大日

下部、若日下部ヲ定メ、允恭天皇ノ皇子木梨輕皇子、皇后忍坂大中姫命、及田井中姫ノ爲ニ輕部、刑部、河部ヲ定メ、雄略天皇ノ御名代トシテ長谷部舍人ヲ定メ、清寧天皇皇子坐サリシニ因リ、諸國ニ白髮部舍人、白髮部膳夫、白髮部負鞞士（中ノ一大隊ナリ）兵ヲ置キテ御名ヲ後ニ留メ、武烈天皇モ亦繼嗣坐サリシニ因リ、雄略天皇ノ舊例ニ因リテ、小泊瀨舍人ヲ置キ給ヒシ類是ナリ。此等ノ子代ノ民ハ、所在ニ部曲ヲ爲シテ、或ハ土地ヲ耕作シ、或ハ舍人、膳夫、鞞負トナリ、以テ天皇ニ奉仕スルコト他ノ民族ノ部曲ニ同シカリキ。而シテ允恭天皇ノ條ニ、諸國ノ國造等ニ科シテ、衣通姫ノ爲ニ藤原部ヲ定ムトアルヲ見レハ、人口ヲ諸國ヨリ徵發シテ子代ノ民ニ充テ給ヒシモノナリ。

○三節 歸化及貢獻ノ民

又外國ヨリ貢獻シ、又ハ自歸化シタル人民ハ他ノ氏ニ附屬スルコト無ク、必天皇ニ直隸スル民部トナリ、常ニ朝廷ノ指揮ヲ受ケテ宮中ノ用品ヲ調貢シタリ。是亦代々ニ其ノ數甚多カリ

シナリ。蓋歸化ノ民ハ多ク有益ナル技術ニ達シ學識ヲ備ヘリシヲ以テ尋常部曲ノ民トハ異ナル待遇ヲ受ク或ハ他ノ氏族ニ對立スル資格ヲ賜ハリシ者サヘアリキ。例ヘハ吳王ヨリ應神天皇ニ獻シタル兄媛弟姫吳織穴織ノ子孫ハ衣縫氏トナリテ專代々ノ天皇ニ供御ノ絹帛ヲ織リテ獻進セルガ如シ。又同天皇十五年ノ紀ニ秦氏分散シ臣連等各欲スル隨ニ驅使シ秦造ニ委テズ。是ニ由リテ秦造酒甚以テ憂ト爲ス。而シテ天皇ニ仕フ。天皇之ヲ愛寵シタマヒ詔シテ秦ノ民ヲ聚テ秦酒公ニ賜フ。公仍リテ百八十種勝ヲ領率テ古語拾遺ニハ勝部ニ作ル。秦氏ノ先不勝ノ類是ナリ。故ニ其ノ氏族ヲ勝部ト曰。庸調御調絹練ヲ奉獻シテ朝廷ニ充積ム。因リテ姓ヲ賜ヒテ禹豆麻佐ト曰フ。一ニ云フ禹豆母利ト。他代々ニ三韓及吳國ヨリ貢シタル人民ノ書冊ニ見エタリ。トアル類是ナリ。ルモ合シテ七百十氏アリト云フ。亦少數ニ非サルナリ。トアル類是ナリ。

○四 節 沒收ノ民

初ニ述ベシガ如ク惡事ヲ爲シタル者アルトキハ、

贖罪ノ料トシテ犯者ノ私有ノ人民ヲ朝廷ニ奉ラシメラレタリ。是亦天皇御所有ノ人民ノ漸次増加シタル原因ノ一ナリ。例ヘハ日本書紀安閑天皇元年十二月ノ條ニ曰ハク、

是ノ月廬城部連枳莒噲ノ女幡媛物部大連尾與ガ瓔珞ヲ偷ミ取リテ春日皇后ニ獻ズ。事發覺スルニ至リ枳莒噲ノ女幡媛ヲ以テ采女ノ丁ニ獻リ并セテ安藝國過戸ノ廬城部ノ屯倉ヲ獻リ以テ女ノ罪ヲ贖フ。物部大連尾與事ノ已ニ由ルコトヲ恐レテ自安キヲ得ズ乃十市部伊勢國來狹狹登伊來狹狹登伊ノ贊土師部筑紫國膽狹山部山林ニ使役ヲ獻シタリト。

又清寧天皇ノ紀ニ星川皇子ハ雄略天皇ノ妃吉備稚姫ノ子ナリ。帝位ヲ奪ハント欲シテ殺サル。稚姫ノ父吉備上道臣某皇子ヲ救ハントテ船四十艘ヲ連ネテ來リタル段ニ曰ハク、

「天皇使ヲ遣シ上道臣等ヲ噴讓シ其ノ領スル所ノ山部ヲ奪フ」ト。

○節五 天皇ト土地トノ關係 次ニ上古ニ於ケル統治ノ態ヲ詳ニ  
 センニハ、天皇ト土地トノ關係モ亦其ノ後世ニ於ケルト異ナル所以ヲ  
 知ルコト緊要ナリ。即土地ニ對スル權利ニ二種アリテ、後世ニハ二者  
 井然分離セリ。然ルニ上古ニ於テハ兩者混同シタルナリ。第一ハ、主  
 權ニシテ、地租ヲ收メ、土地領有ヲ序理スル例規ヲ定メ、公益ノ爲ニ私有  
 ノ土地ヲ收用シ、又私有者ナキ土地ハ自之ヲ使用スル權ナリ。第二ハ、領  
 有權ニシテ、實際一定ノ土地ヲ占領シ、之ヲ自家ノ目的ノ爲ニ使用スル  
 權ナリ。即今日ニ於テハ此ノ二ノ權利全ク分離シ、土地領有者ハ、其ノ所  
 有ノ土地ニ對シテ公然ノ命令ヲ發スルヲ得ズ、他人ノ土地ヲ借用スル  
 者ハ、其ノ貸主ニ對シテ純然タル土地貸借上ノ義務ヲ有スルノミナレド  
 モ、上古ニ於テハ則然ラズ。天皇ノ人民ニ對スル主治權ハ、直ニ各個臣民  
 ニ行ハレズシテ氏上ヲ經由シタルガ如ク、其ノ土地ニ對スル主治權モ  
 亦其ノ領主ヲ經由シタリ。而シテ領主ハ多ク氏上タリシナリ。即各氏ノ

氏上ハ其ノ氏ニ屬スル土地ノ領主トナリテ之ヲ其ノ私民ニ分貸シ、以  
 テ其ノ產物ヲ收メ、國事ノ須要アルトキハ其ノ幾分ヲ朝廷ニ奉リタル  
 ナリ。是ヲ以テ天皇ノ權勢盛リニ坐セルトキハ、土地ニ對スル命令モ  
 善ク行ハレタレド、第三期ニ至リ帝權緩ムニ及ヒテハ、領主ハ動モスレ  
 ハ土地ニ關シ天皇ノ命令ヲ奉セス、或ハ借地者ヨリ租稅ヲ收メテ黎民  
 ヲ苦メタリ。上古ニ於テ天皇ノ直接ニ領有シ給ヘル土地トイヘバ、唯  
 帝室及皇族ニ屬スル土地アルノミナリキ。此ノ證據ハ大化ノ改新ニ  
 至リ、二年ノ詔ヲ以テ、コトサテ諸氏所有ノ田園ヲ廢シテ之ヲ公田トシ  
 給ヒシニテモ知ルヘク、又罪ヲ犯ス者アルトキ、其ノ土地ヲ獻シテ之ヲ  
 贖ハシメ給ヒシ例ノ多キニテモ知ルヘシ。上古ニ於テ天皇ハ土地ヲ  
 主治シ給ヒシノミナラス、又悉ク之ヲ領有シタマヘリト思フハ誤ナリ。  
 神語ニモ、朕カ子孫ノ可王國ト宣ヒテ、可領地トハ宣ハズ。即領有權ハ諸  
 氏ノ氏上ニ在リシニ非サルヨリハ、贖罪ノ科ニ供スベキ關係ヲモ生ゼ

サルナリ。

○六 節 屯 田

然リト雖天皇ハ統治ノ天職ヲ行ヒ給フ費用モ亦自大ナ  
 リシヲ以テ其ノ皇家ノ私領トシテ有テ給ヘル土地ノ外ニ別シテ國家  
 ノ主長トシテ他氏ヨリモ多クノ田園ヲ要シ給ヒシナルヘシ。皇家ノ私  
 領ハ之ヲ御縣ト云ヒ、御縣ハ大和ニ六ヶ處アリテ、其ノ出ダス所ヲ宮中  
 ノ用度ニ充テ給ヒシコト前述ノ如シ。而シテ御縣ノ外ニ別ニ屯田ト  
 稱スルモノヲ諸國ニ置キテ、其ノ出ダス所ヲ以テ國用ニ充テラレタリ。  
 上古ノ制、新ニ得タル土地アルトキハ、先其ノ土地ニ屯田ヲ置キ、餘ル所  
 ヲ以テ皇子朝臣ヲ封ゼラレキ。屯田ヲ耕作セシムル爲ニ置カレシ天  
 皇ノ部民ヲ田部ト云ヒ、屯田ノ事務ヲ掌理セシムル爲ニ置カレシ役所  
 ヲ田令又ハ屯田司ト云ヒ、其ノ米稻ヲ藏メ置ク所ヲ屯倉ト云ヒ、之ヲ掌  
 ル役人ヲ屯倉首ト云ヒ、其ノ屯倉アル所ノ官舎ヲ屯家ト云ヒタリ。垂  
 仁天皇ノ二十七年ニ屯倉ヲ來目邑ニ興ストアリ。是ヨリ前ニモアリシ

ナルベシ。此ノ後景行天皇ノ五十七年ニ、諸國ニ令シテ田部屯倉ヲ興サ  
 シメ、仁徳天皇ノ朝ニ、額田大仲皇子ハ大和ノ屯田屯倉ヲ掌ラントセラ  
 レシコトアリ。其ノ段ニ、景行天皇ノ勅旨トシテ載スル所ニ曰ハク、倭ノ  
 屯田ハ毎ニ御宇天皇ノ屯田ナリ。ソレ帝王ノ子タリト雖、御宇ニ非サル  
 ヨリハ掌ルコトヲ得ズト。仁徳天皇ノ時、播磨風土肥ニ見エタリ。同天皇ノ十  
 三年ニ、茨田屯倉ヲ立テ春米部ヲ定メ、又繼體天皇ノ時、皇后及次妃ノ爲  
 ニ小墾田、櫻井、難波ノ屯倉ヲ立テ、又三島ノ竹村、廬城郡、横淳、橘花、多氷、倉  
 標ノ屯倉ヲ定メ、尋イテ筑紫、穗波、鎌、豐前、腰崎、桑原等二十六處ノ屯倉ヲ  
 置キ、櫻井、田部、連、縣、犬養連、難波、吉士等ヲシテ其ノ收稅ノ事ヲ掌ラシメ  
 ラレタリ。

又第三期ニ涉リテモ、欽明天皇ノ十七年ニ、備前兒島郡ニ屯倉ヲ置キ、葛  
 城、山田、直瑞子ヲ田令トシ、又大和國ニ韓人大身狹、屯田、高麗人小身狹、屯  
 倉ヲ置キ、處々ノ韓人高麗人ヲ以テ其ノ屯倉ノ田部トシ、又紀伊ニ海部

屯倉ヲ置カシガ三十年ニ田部ノ籍ヲ脱シテ課ヲ免ル、者衆キニ因リ、膽津ヲ遣シテ白猪田部ノ丁籍ヲ檢定セシメ、此ノ功ニ依リテ膽津ニ白猪史ノ姓ヲ賜ヒ、田令ニ拜シテ瑞子ノ副タラシメ給ヘリ。又推古天皇ノ十四年ニハ、每國ニ屯倉ヲ置キ給ヒキ。

○七沒收ノ地 又罪ヲ犯シタル者アルトキ、其ノ土地ヲ收メテ贖罪ノ料トシタル例ハ頗多シ。例ヘハ仁徳天皇四十年ノ紀ニ、雌鳥皇女ト隼別皇子ト親婚ノ罪ヲ以テ誅セラル、條ニ曰ハク、

「時ニ皇子雌鳥皇女ヲ率井テ伊勢神宮ニ納ラント欲シテ馳ス。是ニ於テ天皇隼別皇子逃走スト聞キ、即吉備品遲部雄御、播磨佐伯直阿能胡ヲ遣シテ曰ハク、之ヲ追ヒ、逮ブ所即殺セト。爰ニ皇后奏言ク、雌鳥皇女寔ニ重罪ニ當レリ。然レドモ其ノ殺サン日、皇女ノ身ヲ露サソコトヲ欲セスト、乃因リテ雄御等ニ勅スラク、皇女寶ス所ノ足玉手玉ヲ取リ貢ント。雄御追ヒテ中伊勢蔭代野ニ及ビテ之ヲ殺シヌ。時ニ雄御等

皇女ノ玉ヲ探リテ、裳中ヨリ之ヲ得タリ。乃二王ノ屍ヲ以テ廬杆河邊ニ埋メテ復命ス。皇后雄御等ニ問ハシメテ曰ハク、皇女ノ玉ヲ見タリヤ。對ヘテ言サク、見サルナリト。是ノ歲新嘗ノ月ニ當リ、宴會ノ日ヲ以テ酒ヲ内外ノ命婦等ニ賜フ。是ニ於テ近江山君稚守山ノ妻ト、采女盤坂媛ト、二ノ女ノ手ニ良珠ヲ纏フアリ。皇后其ノ珠ヲ見ルニ、既ニ雌鳥皇女ノ珠ニ似タリ。則之ヲ疑ヒ、有司ニ命テ、是ノ玉ヲ得シ所由ヲ問フ。對ヘテ曰ハク、佐伯直阿能胡妻ノ玉ナリト。仍リテ阿能胡ヲ推鞠ス。對ヘテ曰ハク、皇女ヲ誅スル日ニ探リテ之ヲ取レリト。即將ニ阿能胡ヲ殺サントス。是ニ於テ阿能胡乃己ノ私地ヲ獻シテ死テ免レント請フ。故ニ其ノ地ヲ納レテ死罪ヲ赦ス。是ヲ以テ其ノ地ヲ名テ玉代ト曰フト。

又安閑天皇元年ノ紀ニ曰ハク、

「内膳卿膳臣大磨勅ヲ奉シテ使ヲ遣シ珠ヲ伊甚ニ求ム。伊甚國造等京



ニ詣ルコト遅<sup>オソク</sup>時ヲ踰<sup>トス</sup>ユルモ進メズ。膳<sup>テ</sup>臣大磨大ニ怒リ、國造等ヲ收縛シ、所由ヲ推問ス。國造稚子直等恐懼シテ後宮内寢ニ逃ケ匿ル。春日皇后知ラスシテ直ニ入り、驚駭シテ頓<sup>ト</sup>レ、慚愧止ムコトナシ。稚子直等兼子テ闕入ノ罪ニ坐シ、科重ニ當ル。謹ミテ專皇后ノ爲ニ伊甚屯倉ヲ獻リ、闕入ノ罪ヲ贖ハシテ請フ。因リテ伊甚屯倉ヲ定ム。今分ケテ郡ト爲シ、上總國ニ屬クト。

是皆私領ノ地ニシテ、天皇ハ之ヲ主治シ給ヒシモ、之ヲ領有シ給ハザリシニヨリテ獻ズトモ云ヒ、又其ノ獻スルニ代ヘテ甚シキ罪ヲモ免サレシナリ。而シテ之カ爲ニ朝廷領有ノ地ハ益增加シタリキ。

○節八 征服ノ地 土地ニハ歸化ト云フコト無クドモ、猶外國ノ土地ヲ併スルコトアリ。而シテ土地ヲ征服シタルトキハ、其ノ幾分ヲ收メ

テ官田ト爲シ、天皇之ヲ直轄シ給ヒテ、所出ヲ國用ニ充ツルヲ例トセラレシコト、三韓征服ノ後其ノ國々ニ内官家ヲ置カシメテ知ルベ

○節九 天皇統治ノ範圍

カク天下ノ衆民ハ皆國家ノ公民タリシニ非ズシテ、獨御名代ノ民、沒收ノ民、及歸化ノ民ノミ直接ニ天皇ノ領率ニ屬シ、又天下ノ土地ハ皆朝廷ノ所領タリシニ非ズシテ、御縣、屯田、沒收地ノミ直接ニ朝廷ノ領有ニ屬シタルニ於テハ、天皇ノ人民土地ニ對シ給ヘル權力ハ甚狹隘ナリシガ如シ。然リト雖其ノ實ハ、此ノ時代ニ於テモ、天皇ノ權力ハ、一定ノ關係ニ於テ人民土地ノ全躰ニ及ビタリ。古語ニ此ノ關係ヲ「シラス」ト云ヒ、所知ト書ケリ。古事記ニ「建甕槌神ヲ下シテ大國主命ニ問ハシメ給フ條ニ、汝之宇志波祢流葦原中國者我子之所知國言依賜」トアリ。カク並ベテ言ヘルカラニハ、ウシハク「トシラス」トノ間ニ區別ナカルベカラズ。即各氏ノ氏上ガ其ノ氏ノ私民私田ヲ支配スルハ、ウシハクニテ「シラス」ニ非ズ、ウシハ大人ニテ主ノ義ナリ、ハクハ「刀ハク」履ハク「ナド云ヘル」ハクト同シク、其ノ物ヲ身ニ添ヘ帶フル意義

ナリト云フ。土地人民ニ就キテ之ヲ云ハハ、民族ノ血統上ノ關係ニ依リテ領率スル義ナリ。之ニ反シテ、シラスハ國家ノ公權ヲ以テ、大體ニ就キテ統御スル義ナリ。故ニ大八洲國所知食天皇ト云ヘリ。則天皇ハ、子代ノ民歸化ノ民、沒收ノ民、御縣、沒收ノ地、及屯田ハ之ヲウシハキ、且シテ給ヒシカド、日本全躰ノ國土人民ハ、之ヲウシハカスシテ、シラシ給ヒシナリ。崇神天皇四年ノ大詔ニ、惟フニ我が皇祖諸ノ天皇等宸極ニ光臨シタマヒシハ豈一身ノ爲ナランヤ。蓋人神ヲ司<sub>取</sub>シ、天下ヲ經綸シタマフ所以ナリトアリ。是所謂シラスノ義ナリ。即今日ノ語ニテ言ハバ統治ノ義ナリ。今此ノ統御ノ權ノ、上古ニ於テ事實ニ現レタル所ヲ擧グルトキハ三アリ。之ヲ上世三種ノ大權トス。其ノ目左ノ如シ。

(一) 國中諸氏族ノ總氏長トシテ國神ノ祭祀ヲ司行シ給フ事

(二) 外國ニ對シ國中諸氏族ヲ代表シテ宣戰講和シ給フ事

(三) 氏族ヲ創置シ斷滅シ、氏上ヲ命シ、其ノ爭訟ヲ決シ給フ事

第一ハ天皇ノ神事大權ニシテ今ニ至ルマテ變ラズ。第二ハ後ニ分レテ天皇ノ外交大權及兵馬大權トナリ、近世ノ始メ一時之ヲ將門ニ委ネタリト雖、今ハ古ニ復シテ天皇親シク之ヲ握ラセ給ヘリ。而シテ後世ニ至ルニ及ビテ大ニ趣テ變ヘタルモノハ即第三ノ大權ナリトス。是種々轉變シタル後遂ニ今日ノ憲法上ノ行政大權及司法大權トナルモノナリ。以下之ヲ別論ス。

○十神事大權    ソレ天御中主神ヨリ以下神代ノ諸神ハ日本國民

ヲ爲セル諸ノ氏族ノ祖神ナリ。而シテ諸ノ氏族ハ各、其ノ特別ノ祖神アリ、從ヒテ此等ヲ神別ト稱スト雖、孰モ天照太神ヲ以テ宗統ト仰ギ、其ノ支流ニ立テル神祇ニ非サルハ無シ。故ニ天照太神ノ直統ヲ受ケタル氏族即皇族ニ於テハ、此ノ中心正統ノ祖神ヲ祀リ給フ特權ヲ保有シ、代々ノ天皇ノ國民全躰ニ代リテ神事ヲ指揮シ給ヘルコト理ノ當然ト謂フヘシ。每世天照太神ノ遺禮ヲ繼ギテ、大嘗祭ニ天神地祇ヲ祭ラセラレ

シモ天皇ナリ。毎年新穀始メテ熟スル時先以テ天神ニ報シ、而シテ後天下ト共ニ之ヲ嘗メサセラレシモ天皇ナリ。又國ニ大事アリ、師ヲ興シテ外ヲ征セントスルニ臨ミ、先天神地祇ヲ祭リテ勝敗ヲトシ給ヒシモ天皇ナリ。國ニ災害アリ、民疾疫ニ苦ムニ當リ、天神地祇ヲ祭リテ治癒ヲ禱リ給ヒシモ天皇ナリ。而シテ天皇ハ此ノ祭事ノ爲ニ天下各氏ノ男女ニ令シテ弭調手末調ヲ出サシメ給ヒキ。是其ノ號令ノ各個臣民ニ及ビシ所以ナリ。古語拾遺崇神天皇ノ條ニ曰ハク、又六年八百万神ヲ祭リ、仍リテ天社國社及神地神戶ヲ定ム。又十二年始メテ男ノ弭調、女ノ手末調ヲ貢セシム。今神祇ノ祭ニ熊皮角布等ヲ用ウルハ此ノ緣ナリト。乃知ル氏々ノ民衆ハ天皇ノ私民ニ非ズ、氏々ノ土地ハ天皇ノ私領ニ非ズ、直接ニハ唯諸氏ノ氏上、諸地ノ領主ニ命令シ給ヒシノミナリト雖、獨神事ニ關シテハ、万民直接ニ天皇ノ命令ヲ奉ゼザルヲ得ザリシコトヲ。

○第十一節 兵馬大權 古ヨリ今ニ至ルマテ外交ノ事ト兵馬ノ事トハ二

ニシテ一ナリ。蓋兵馬ハ外國ニ對シテ國權ヲ施スベキ要器ナレバナリ、而シテ戰端ヲ開クハ必天皇ノ詔旨ニ依ランコトヲ要シ、又始メテ三韓ト交通セラレシトキヨリ、國ノ元首トシテ外國ノ使節ヲ請ク朝貢ヲ收メ、外民ニ對シ國權ヲ擴張スルハ皆至尊ノ勅裁ニ出デタリシコト、崇神天皇以來ノ歴史ニ徵シテ詳ナリ。當時外國ト云ヘバ三韓支那ヲ主トスルコト勿論ナレド、東夷即蝦夷モ亦之ヲ外蕃トセラレタリキ。

天皇ニ此ノ大權アルヲ以テ、外交ト戰時トニ關シテハ、氏々ノ私民ト雖必天皇ノ命令ヲ奉ゼサルヲ得ザリキ。則或ハ軍費ニ供センガ爲ニ私産ノ一部ヲ朝廷ニ出ダサシメシ事ハ、崇神天皇ノ時外敵征伐ノ必要アルニ臨ミテ、更ニ人民ヲ校シ長幼ノ次第及課役ノ先後ヲ知ラシメラレシニテ見ルベク、其ノ後同天皇諸國ニ命シテ武器ヲ作り神社ニ藏セシメ給ヒシニテモ見ルベク、神功皇后三韓ヲ伐タントシ給ヒシトキ、三輪ノ神ヲ祭リテ兵士ヲ集メラレシニテモ見ルベシ。又外國ヨリ歸化セル人

民及虜囚ハ、天皇ニ於テ處置ヲ專ニシ給ヒシモ、外交及兵馬大權ノ一端ナリシナリ。

○<sup>十二</sup>節 族制大權 天皇カ諸氏ノ上ニ立チテ有テ給ヒシ權力ノ最重大ナル者ハ、神意ヲ承ケテ諸氏ヲ統括シ給フコト是ナリ。即天皇ハ新ニ氏族ヲ作り、氏族ト氏族トノ間ニ起レル争訟ヲ裁斷シ、氏族ノ秩序ヲ害スル者アルトキ其ノ資格ヲ奪フ權ヲ有タセラシキ。其ノ氏族ノ争訟ヲ決スル權ヲ有タセラシキ事實ヲ舉グレハ、日本書紀允恭天皇四年ノ條ニ曰ハク、

「秋九月辛巳ノ朔己丑詔シテ曰ハク、上古ノ治、人民所ヲ得、姓名錯レザリキ。今朕踐祚シ、玆ニ四年。上下相争ヒ、百姓安ンゼズ、或ハ誤リテ己カ姓ヲ失ヒ、或ハ故<sup>コトナク</sup>ニ高氏ト認ム。其ノ治ニ至ラサルモノ蓋是ニ由ルナリ。朕不賢ト雖、豈其ノ錯レタルヲ正サマランヤ。群臣議定シテ之ヲ奏セヨト。群臣皆言フ、陛下失テ舉ゲ枉テ正シテ、氏姓ヲ定メタマハバ、臣

等死ヲ冒サント。奏可ス。戊申詔シテ曰ハク、群卿百寮及諸ノ國、造等皆各言フ、或ハ皇室ノ裔<sup>姓</sup>氏錄ニナリ。或ハ異ナル天降<sup>姓</sup>氏錄ニナリト。然レドモ三才顯分シテヨリ以來多々萬歲ヲ歷タリ。是ヲ以テ一氏蕃息シテ更ニ万姓トナリ、其ノ實ヲ知リ難シ。故ニ諸ノ氏姓ノ人等、沐浴齋戒シテ各、盟神探湯ヲ爲セヨ。則味<sup>アノカシ</sup>樞<sup>シ</sup>丘<sup>ノ</sup>辭<sup>コト</sup>禰<sup>ノ</sup>戶<sup>ノ</sup>碑<sup>ノ</sup>地<sup>ニ</sup>於テ探湯<sup>ヲ</sup>登<sup>ル</sup>者ハ必害アラント。是ニ於テ諸人各、木綿手織ヲ著ケテ、釜ニ赴キテ探湯ス。則實ヲ得ル者ハ全ク、實ヲ得ザル者ハ皆傷キヌ。是ヲ以テ詐ル者ハ愕然豫退キテ進ムコト無シ。是ヨリ後氏姓自定マリ、更ニ詐ル人ナシト。

又安閑天皇元年ノ紀ニ曰ハク、

「武藏國造笠原直使主、同族小杵ト國造ヲ相争ヒテ、年ヲ經テ決シ難シ。小杵性阻ニシテ逆フコト有リ。高クシテ順フコト無シ。密ニ援テ上毛

野君小熊ニ求メテ使主ヲ殺サント謀ル。使主覺リテ走り出テ、京ニ詣リテ狀ヲ言ス。朝廷臨斷シ、使主ヲ以テ國造ト爲シ、而シテ小杆ヲ誅ス。國造使主悚意懷ニ充テテ默シ已ムコト能ハス。謹ミテ國家ノ爲ニ横濱、淳橘、花多、氷倉、標ノ四處ニ屯倉ヲ置キ奉ルト。

天皇ノ權カヲ以テ新ニ氏族ヲ作ラシ例ハ甚多シ。今其ノ一ヲ舉グンバ、日本書紀仁賢天皇ノ五年ニ、天皇父王ノ遇難ニ殉生シタル佐伯部、賣輪又仲子ノ遺族ヲ賞シ給ヒシ條ニ曰ハク、

「五年春二月丁亥朔辛卯、普ク國郡ニ散亡セル佐伯部ヲ求メ、佐伯部仲子ノ後ヲ以テ佐伯ノ連ト爲スト。」

又天皇ハ處罰トシテ氏族ノ等級ヲ貶シ、或ハ全族ヲ戮シ給フ權アリ。等級ヲ貶スヲ以テ刑罰ニ代ヘラシ例ヲ舉グンバ、允恭天皇二年ノ紀ニ曰ハク、

「初メ皇后母ニ隨ヒテ家ニ在リ、獨苑中ニ遊ブ。時ニ關雞國造徑ヨリ行、

キ、馬ニ乘リテ籬ニ莅ミ、皇后ヲ嘲リ謂ヒテ曰ハク、能ク國ヲ作ラシカ。汝者ハヤト。且曰ハク、壓テ戶母ニ其ノ蘭一莖ヲ乞フト。皇后則一根ノ蘭ヲ採リテ馬ニ乘ル者ニ與フ。因リテ以テ問ヒテ曰ハク、何ノ用ニ蘭ヲ求ムルカト。馬ニ乘ル者對ヘテ曰ハク、山ヲ行キ蟻ヲ撥フナリト。時ニ皇后意裏ニ馬ニ乘ル者ノ辭ノ無禮ヲ結ビ、即謂ヒテ曰ハク、首ヨ。余ハ忘レシト。是ヨリ後皇后登祚ノ年、馬ニ乘リテ蘭ヲ乞ヒシ者ヲ覓メ、昔日ノ罪ヲ數ヘテ以テ殺サント欲ス。爰ニ蘭ヲ乞ヒシ者類ヲ地ニ捨テ叩頭シテ曰ハク、臣ガ罪實ニ万死ニ當レリ。然レドモ其ノ日ニ當リテ貴者タルコトヲ知ラザリキト。是ニ於テ皇后死刑ヲ赦シ、其ノ姓ヲ貶シテ稻置ト謂ヘリト。

又主長罪アルトキ、其ノ全氏ヲ殺サシ例ハ、雄略天皇七年ノ紀ニ在リ。曰ハク、

「八月官者吉備、弓削部虛空、取急ニ家ニ歸ル。吉備下道臣前津屋虛空、

留メテ月ヲ經ルモ京都ニ聽上セス。天皇身毛君大夫ヲ遣シテ召サシム。虚空召サレテ來リ言サク、前津屋ハ小女ヲ以テ天皇ノ人ト爲シ、大女ヲ以テ己ガ人ト爲シ、競ヒテ相闘ハシメ、幼女ノ勝ツヲ見テハ即刀ヲ拔キテ而シテ殺ス。マタ小雄雞ヲ以テ呼ビテ天皇ノ雞ト爲シ、毛ヲ拔キ翼ヲ剪リ、大雄雞ヲ以テ呼ビテ己ガ雞ト爲シ、鈴金距ヲ著ク、競ヒテ闘ハシム。禿雞ノ勝ツヲ見テハ亦刀ヲ拔キテ殺シヌト、天皇是ノ語ヲ聞キ、物部ノ兵士三十人ヲ遣リテ前津屋并ニ族七十人ヲ誅殺セシメタマフト。

第十二章 政治ノ機關(骨姓ノ制)

○節一 骨姓ノ制 前章ニ於テハ天皇統治權ノ範圍ヲ述ベタリ、而シテ既ニ三種ノ統治事務アル上ハ、又之ヲ施行スル機關ナキヲ得ス。故ニ本章ニ於テハ統治ノ機關タル政府ノ組織ヲ述ベントス。

抑、我が國上古ニ於ケル政府ノ組織ハ、全ク第十章ニ述ベタル氏族ノ團結ニ基キタルモノニシテ、氏族ノ段階ト官職ノ段階ト未分離セズ、上ハ相將ヨリ以下庶務ノ官ニ至ルマテ、皆或ル氏ノ氏上ノ累世奉任スル所ナリキ。此ノ制度ヲ指シテ「カバチ」ト云ヒ、「骨又姓」ノ字ヲ書キタリ。株ヲ「カブ」ト云フモ同シ義ニテ、氏族ノ幹了ナル一人ニ於テ國家ノ職ヲ奉ズルヨリカク云フナリ。而シテ氏ハ異ナルモ職ハ同シキコトアリ。例ヘバ物部氏ト大伴氏トハ其ノ氏ヲ異ニストイヘトモ、骨ヨリ云ヘバイヅレモ連ナルガ如シ。日本ノ歴史ニ於テ「姓」ノ字ヲ用ウルハ即是ノ義ナ

○二 節 神 別 諸 氏

骨制ノ起源ハ遠ク神代ニ在リ。即天照太神天窟戸ニ隠レ給ヒシトキ、石凝姥命ハ八咫ノ鏡ヲ作り、玉祖命ハ曲玉ヲ作り、天兒屋根命ト天太玉命トハ幣帛ヲ執リ、祝辭ヲ宣ベ、天鈿女命ハ神樂ヲ爲シ給ヘリ、此ノ縁ニ因リ、天孫降臨ノ時、此ノ五部ノ神ハ、天照太神ノ勅ニ從リ、天孫ニ陪侍シテ各、其ノ職ヲ奉ズルコト一ニ天上ノ儀ノ如クニセラレタリ。而シテ經津主命ト武甕槌命トハ將帥ノ任ニ當リ、天忍日命ト天穗津大來目トハ攻防ノ事ヲ掌リタリ。是ヨリ此ノ諸神ノ後ナル氏上ハ、世、其ノ氏族及部曲ヲ率井テ朝廷ニ事ヘ、各、其ノ祖神傳來ノ職ヲ盡セリ。前期ノ事實ハ以テ之ヲ證スヘシ。

神武天皇橿原宮居ノ時、天太玉命ノ孫天富命ハ山材ヲ採リテ正殿ヲ構ヘ、天璽鏡劔ヲ正殿ニ安キ、瓊玉ヲ懸ク幣物ヲ陳テ殿祭祀詞ス。是ヨリ其ノ後裔ヲ齋部氏ト稱シ、世、朝廷ノ祭祀ヲ掌ル。天兒屋根命ノ孫天種

子命ハ祖神ノ製作セル中臣ノ職ヲ宣ベテ天罪國罪ヲ解除ス。其ノ後裔ヲ中臣氏ト稱シ、世、宣奏ノ事ヲ掌ル。而シテ第二期以後ニ至リテハ又政務ニ與リ、第四期ニ至リ其ノ稱ヲ改メテ藤原トス。天鈿女命ノ裔ハ猿女君氏ト稱シテ、中臣氏齋部氏ノ掌ル所ノ祠祀ニ於テ神樂ノ事ヲ供ス。天忍日命ノ後ナル日臣命ハ大伴來目ノ二部ヲ率井テ宮門ヲ守衛ス。是ヨリ其ノ後裔ヲ大伴氏ト稱シ、世、將帥ヲ以テ朝廷ニ事フ。而シテ第二期ニ至リ、其ノ大氏ノ氏上ヲ大伴大連ト稱シ、世、大政ノ補佐タリ。又饒速日命古事記ニ據レバ饒速日命ハ内物部ヲ帥井テ矛盾ヲ造備ス。是ヨリ其ノ後裔ヲ物部氏ト稱シ、大伴氏ニ並ビ世、兵武ヲ以テ朝廷ニ事フ。而シテ第二期ニ至リ、其ノ大氏ノ氏上物部大連ハ世、大政ノ補佐タリ。又珍彦後ニ名ヲ椎根津彦ト賜フハ彦火火出見尊ノ孫ニシテ、皇舟ヲ迎ヘ導キ又敵地ニ入り香山ノ巔ノ土ヲ取リテ祭祀ノ用ニ供シ、神武天皇ノ基業ヲ補佐シタル功ニ因リ、大和ノ國造ニ封セラレ、其ノ後裔ヲ大和氏ト云

ヒ氏上ヲ大和連ト稱シタリ。此ノ外ニ天神ノ後ニシテ天孫ニ從ヒテ  
 降來シ、基業ヲ補佐シタル功ニ因リテ恩賞ヲ受ク、世ニ一定ノ職ヲ奉ジタ  
 リシ氏族枚擧ニ違アラズ。經津主命ノ後ニ矢作氏アリテ、氏上ヲ矢作  
 連ト云ヒ、武甕槌命ノ後ニ倭川原氏アリテ、氏上ヲ倭川原忌寸ト云ヒ、櫛  
 玉命ノ後ニ小山氏アリテ、氏上ヲ小山連ト云ヒシ類皆姓氏錄ニ詳ナリ。  
 此等ノ諸氏ヲ總稱シテ神別諸氏ト云フ。蓋天神地祇ノ後ナレバナリ。然  
 レドモ此ノ稱ハ第四期ニ至リ姓氏錄編輯ノ時ニ立テラレシモノニシ  
 テ、古ハ唯其ノ實ノミヲ存シ、其ノ名ハ有ラザリシナリ。  
 ○三皇別諸氏 カク天神地祇ノ後裔ニシテ基業ヲ佐ケタル者各職  
 掌アリテ政府ヲ組織スル元素ノ一ト爲リシ外ニ、建國以來世代ヲ經シ  
 間ニ等シク強大ナル他ノ元素ヲ生ジタリキ。即代々ノ天皇ノ皇子ノ後  
 是ナリ。代々ノ皇子ノ中或ハ父ヲ繼キ或ハ兄ヲ承ケテ天位ニ登リ給  
 ヒシ外ハ、或ハ入りテ朝廷ノ政事ヲ輔ケ、或ハ出テ、地方ノ治務ヲ知リ

給ヒ、其ノ子孫蕃殖シテ各一ノ氏族ヲ爲セリ。茲ニ一ニ例ヲ舉ゲシ。  
 孝昭天皇ノ皇子ニ天足彥國押人、命坐シ、其ノ後ニ彥國尊尊アリテ垂仁ノ  
 朝ニ武埴安彥王ノ亂ヲ平ケ、其ノ子孫ヲ和珥氏ト云フ。孝靈天皇ノ皇  
 子稚武彥命ノ後ヲ吉備氏ト云ヒ、氏上ヲ吉備臣ト云フ。孝元天皇ノ皇  
 子大彥命ハ崇神ノ朝ニ武埴安彥王ノ亂ヲ平ケ、其ノ子孫ヲ阿部氏ト稱  
 シ、氏上ヲ阿部臣ト云ヒテ世、朝廷ニ事フ。孝元天皇ノ皇子ニ彥太忍信  
 命アリ、其ノ孫ハ即武内宿禰ナリ。武内宿禰三韓征伐ノ時其ノ功比ナ  
 シ、應神天皇ノ朝ニ棟梁ノ臣トナリ、其ノ數子ハ平群氏、紀氏、巨勢氏、蘇我  
 氏等ノ祖トナレリ。開化天皇ノ皇子武豊判別命ノ後ヲ道守氏ト云ヒ、  
 氏上ヲ道守朝臣ト云フ。崇神天皇ノ皇子豐城入彥命ハ出テテ東國ヲ  
 治メ給ヒシガ、其ノ子八綱田命、又垂仁天皇ノ朝ニ狹穗彥王ノ亂ヲ平ケ  
 テ功アリ、子孫ハ世上毛野君及下毛野君タリ。景行天皇七十餘子皆諸  
 國ノ別トナリ給フ。而シテ其ノ子孫世、治民ノ職ヲ繼ゲリ。仲哀天皇ノ



皇子譽田別命ノ後ヲ間人<sup>シノヒ</sup>氏ト云ヒ、氏上ヲ間人宿禰ト云フ。其ノ他新田部氏ノ安寧天皇ノ皇子磯津彦命ヨリ出テ、春日氏、小野氏、和安部氏、和爾部氏、櫛井氏ノ孝昭天皇ノ皇子天帶彦國命ヨリ出タルガ如キ、枚舉ニ追ナシ、皆姓氏錄皇別ノ部ニ在リ。此等ノ諸氏ヲ皇別ト云フハ第四期以後ノコトナンドモ、初メヨリ前節ニ述ベタル諸氏トノ間ニ自然ノ區別アリテ、由緒ハ神別諸氏ヨリ新シキニモ拘ラズ、皇親タリシ故ヲ以テ、神別ヨリモ貴キ格式ヲ有セントシタル形跡、代々ノ事實ニ現レタリ。

○<sup>四</sup>節 大臣、大連、臣、連、サテ以上二種ノ元素ヲ以テ政府ヲ組織シタル次第ヲ述ベンニ、上ニ記載セル所ニ據リテモ既ニ知ラルベキガ如ク、皇別諸氏ノ氏上ニシテ朝政ニ與リシ者ハ之ヲ某ノ臣<sup>オミ</sup>ト稱シ、非皇族即神別諸氏ノ氏上ニシテ朝政ニ與リシ者ハ之ヲ某ノ連<sup>ムラシ</sup>ト稱シタリ。オミハ<sup>オミ</sup>大身ノ義ニシテ、ムラシハ<sup>ムラシ</sup>群主ノ義ナリト云フ。後世ニ至リテハ此ノ區別モ多少混亂シタレド、最初ハ判然タリシコト識者ノ疑ハザル所

ナリ。カクテ上ナルハ一定ノ職制ヲ定メズ、臣連ノ中ニテ當時有力ノ者ヲ御坐ノ前ニ集メテ朝政ヲ議セシメ給ヒシヨリ、之ヲマヘツキミト云ヒ、大夫又ハ<sup>ハ</sup>臣ト書キタリキ。崇神天皇ノ紀ニハ、群卿ニ詔ス<sup>ト</sup>書ケリ。垂仁天皇ノ朝ヨリ、事アル毎ニ臣ト連トヲ指名スルコト起レリ<sup>第六節</sup>。即同天皇二十五年伊勢大廟ヲ起シ給ヒシ詔ニ、五人ノ大夫ヲ指サレタルガ如キハ此ノ類ノ詔勅ノ稍古キモノナリ。當時臣連ノ稱ハ未有ラザリシモ、五人ノ中ニテ武渟川別<sup>阿部</sup>氏ト彦國<sup>和耳</sup>氏トハ皇別ニシテ、大鹿島<sup>中</sup>氏<sup>十千根</sup>物部<sup>氏</sup>及武日<sup>大伴</sup>氏ハ神別ナリキ。景行天皇ノ時ニ多<sup>タ</sup>臣ノ祖諸木國前<sup>臣</sup>ノ祖菟名手物部<sup>連</sup>ノ祖夏花等天皇ニ從ヒ熊襲ヲ征ジ、吉備武彦ト大伴武日ト日本武尊ニ從ヒ蝦夷ヲ討チシコト見エタレト、天皇就中武内宿禰ヲ重用シ、遂ニ命シテ<sup>棟梁</sup>臣トシ給ヘリ。ムネト<sup>ル</sup>ハムネトアルノ義ナリ。成務天皇ノ三年ニハ、武内宿禰ヲ大臣トシ給フ。然レドモ一ノ官職ナリシニ非ズ、特ニ尊重シテマヘツキミノ上ニ

大ノ字ヲ加ヘ給ヒシノミ。仲哀天皇ノ時、皇后天皇ノ喪ヲ秘スル事ヲ大臣宿禰<sup>スサノ</sup>ト中臣烏賊津連<sup>カクヅノ</sup>ト大三輪大友主<sup>オホヨシ</sup>君ト物部膽咋連<sup>タヌキ</sup>トニ詔シ給ヘリ。カクテ第二期ニ移リ、第二十二代雄略天皇ノ時ニ至リ、皇別氏上ノ中ニテ特ニ權勢アルヲ擧ケテ大臣トシ、以テ諸ノ皇別氏上即臣等ヲ總督セシメ、又神別氏上ノ特ニ權勢アルヲ擧ケテ大連トシ、以テ諸ノ神別氏上即連等ヲ統理セシメラレタリ。日本書紀ニ、天皇有司ニ命シ、壇ヲ泊瀬ノ朝倉ニ設ケ、天皇ノ位ニ即キ、遂ニ宮ヲ定メ、平群臣眞鳥ヲ以テ大臣ト爲シ、大伴連守屋<sup>ウツヤ</sup>物部連目ヲ以テ大連ト爲ストアル是ナリ。是ヨリ歷朝大臣大連ヲ並ベ置キ給フ例トナリシガ、此ノ所謂大臣スラモ後世官職トシテ置カレシ大臣トハ大ニ異リテ、唯臣ノ骨ヲ總督スル大氏ノ氏上ト云フ義ニ外ナラサリシヲ記憶スベシ。即氏族ヲ以テ組織シタル政府ノ最上ノ關節ヲ爲セル身分ノ稱タリシナリ。カク諸ノ臣連諸氏ニ於テ、世朝廷ニ奉仕シテ種々ノ事ヲ掌リ、大臣大連之ヲ總理シタル

ハ、是上世政府ノ組織ナリ。當時唯氏族ノ貴賤アリシノミニテ、別ニ官職ノ段階アリシニアラズ。

○節五 國造及伴造

臣連ハ朝政ニ與リシ諸氏ナリ。故ニ次ニハ地方及局部ノ政務ニ與リシ諸氏ヲ述ベサル可カラズ。此ノ諸氏ヲ概シテ國造伴造ト云ヒ、或ハ總稱シテ伴造トイヘリ。國造ノ事ハ前期ノ部ニ述ベタリ。而シテ此ノ職ニ居ル者ハ皇別モアリ、神別モアリシカド、大半ハ皇別諸氏ニシテ、皆其職ヲ世襲シタリキ。伴造ト稱スルハ一種ノ技術ヲ世業トスル部曲ノ民ヲ領シ、此ノ技術ヲ以テ朝廷ニ事ヘタリシ諸氏ノ氏上ヲ云フトモ、ハ即部民ノ義ニシテ、ミヤツコハ國造ノミヤツコト其ノ義一ナリ。此等ノ諸氏ハ多ク其ノ職業ヲ以テ名ニ負ヘリ。例ヘハ酒人氏、櫛代氏、衣縫氏、神社氏、宮部氏、佐伯氏、佐伯部<sup>ササキベ</sup>長<sup>ナガ</sup>ナリ。門部氏、刑部氏、眞髮部氏、掃守氏、幡文氏、工氏、吳服氏、杯作氏等ナリ。伴造ノ氏上ノ貴キニハ連モアリシカド、多クハ首ト云ヘリ。

例へハ度守首、錦部首、刑部首、佐伯首、韓海首、靛編首、鵜飼部首、猪甘首、工首ノ類是ナリ。

又或ル場合ニハ伴造ノ氏上ヲ直トモ云ヘリ。雄略天皇十六年ノ詔ニ漢部ヲ聚メテ其ノ伴造ヲ定メ、姓ヲ賜ヒ直ト云フトアル類是ナリ。又文書ヲ司ル諸氏ノ氏上ヲ史ト云ヒテ伴造ノ一種ニ數ヘタリ。

帝 國 史 略

然レドモ亦國史中ニハ時トシテ公始メ君ト書シ天平寶字三年公ノ字別ニ同シ即國造、縣主、村主、稻置、五姓ヲ混同シテ伴造ト云ヘリ。蓋皆部民ノ長タリシ故ナルヘシ。皇極天皇二年九月ノ條ニ、仍リテ臣連、伴造ニ帛布ヲ賜フ各、差有リトアリ。十月ノ條ニ、食ヲ群臣伴造ニ朝堂ニ賜フトアリ。又孝德紀大化元年七月ノ條ニ、大夫ト百ノ伴造等トナドアルハ、國造伴造ヲ並ベ云ヘシナリ。孝德紀ハ二造ヲ共ニ多シ此等ハ文章ノ畧式ナリ

○節六 血族國家 以上陳述セル諸項ノ事ヲ以テ推シ考フルトキハ日本上世ノ政體ハ大ニ當今ト趣ヲ異ニスル所アリ。今之ヲ當時ノ學術上

ニ於テ用ウル所ノ語ヲ以テ定言セハ左ノ如シ。

日本上代ニ於テハ血統上ノ關係ヲ以テ社會ノ秩序ヲ立テ、此ノ秩序ニ依リテ國家ヲ編制シタリト。

カク定言セル意ヲ解センニハ、先國家及政體ノ何タルヲ論ゼサル可カラズ。國家トハ即國中一切ノ民衆ヲ統治スル爲ニ設クル所ノ君民ノ等序ナリ。然ルニ各國君民ノ等序ヲ立ツル法ニ差別アルヨリ、政體ニ種々ノ異同ヲ生ズ。例へバ君タルベキ者ヲ人民一同ヨリ選舉スルハ是共和政體ナリ、武力ヲ以テ人民ヲ征服シタル者、自權柄ヲ振ヒテ君位ニ居ルハ是專制政體ナリ。然ルニ國家ノ上ニ於テ云フ君民ノ等序ハ必シモ社會ニ於テ人々交際スル上ノ貴賤上下ノ秩序ト相同シカラズ。共和政體ニ於テハ貴族タリトモ國家ノ官職ヲ受クルコト無シ。又專制政府ニ於テハ元來社會ニ貴賤上下ノ別アリト雖、王家ノ權柄ヲ保ツニ利アル人々ヲ擧ゲテ任用シ、舊來ノ門閥タリトモ王政ニ利無キハ尊マ

略史國帝 (一七一)

ズ。然ルニ日本上代ニ於テハ社會ニ在リテ尊マルベキ者即血統ノ上ニ於テ貴ク從ヒテ財產モ多ク部民モ多キ者ヲ以テ國家ノ高キ地位ニ置キタリ。サレバ國家政治ノ上ニテ臣連ハ國造伴造ヨリモ尊ク大臣大連ハ臣連ヨリモ尊ク、天皇ハ大臣大連ヨリモ尊カリシナリ。而シテ此ノ尊卑ノ順序ハ國家政治ヲ離レテ社會私交ノ上ニ至リテモ異ルコト無カリキ。語ヲ換ヘテ之ヲ言ハバ、社會ノ組織ト國家ノ編制ト未分離セズ、孰モ氏族ノ團結ニ基キタリシナリ。

然リト雖日本ニ於テモ此ノ政躰ハ常恒不變ナリシニ非ス、現ニ第三十代ヨリ第三十五代ノ天皇ノ御宇ニ至リ一大變動ヲ見タリ。而シテ其ノ原因結果ハ事實ニ就キテ之ヲ觀察セサル可カラズ。故ニ是ヨリ更ニ編年ノ事實ヲ述ブヘシ。

### 第十三章 應神天皇及文教工藝ノ渡來

○節一 三韓トノ關係 神功皇后攝政六十九年ニシテ崩シ給ヒ、譽田天皇親政シ給フ。之ヲ應神天皇トス。武内宿禰補弼ス。紀元九百七十年ニ至ルマテ天皇ノ親政四十一年ナリキ。天皇孕内ニ坐シテ既ニ人君ノ位ニ居給ヘリ。故ニ又胎中天皇ノ稱アリ。

三年ニ百濟辰斯王禮ヲ失ス。乃紀角宿禰、羽田、矢代、宿禰、石川、宿禰、木、兔、宿禰ヲ遣シ、噴讓セシメ給フ。此ノ四人ハ共ニ武内宿禰ノ子ナリ。百濟國辰斯王ヲ殺シテ謝ス。紀角宿禰等阿花王ヲ立テ、歸ル。七年高麗人百濟人、新羅人、任那人並ニ來朝ス。時ニ武内宿禰ニ命シテ諸ノ韓人等ヲ領シテ池ヲ作ラシメ給フ。之ヲ韓人池ト云フ。蓋以テ屬服ノ紀念トセラシメナリ。十四年百濟王縫衣ノ女工二人ヲ貢ス。其ノ後ヲ來目ノ縫衣ト云フ。蓋韓土裁縫ノ風ヲ傳ヘタルナリ。十五年百濟王其ノ族阿直岐ヲ遣